

平成26年度

地域保健総合推進事業

ソーシャル・キャピタルの醸成にかかわる保健師の能力形成に関する研究 報告書

平成26年度
地域保健総合推進事業

ソーシャル・キャピタルの醸成にかかわる
保健師の能力形成に関する研究
報告書

ソーシャル・キャピタルの醸成にかかわる保健師の能力形成に関する研究 報告書

平成27年3月 (一財)日本公衆衛生協会

分担事業者 松本 珠実

(全国保健師長会常任理事・大阪市保健所)

平成 26 年度地域保健総合推進事業

ソーシャル・キャピタルの醸成にかかる
保健師の能力形成に関する研究
報告書

平成 27 年 3 月 (一財)日本公衆衛生協会
分担事業者 松 本 珠 実
(全国保健師長会常任理事・大阪市保健所)

要 旨

分担事業者が実施した平成 25 年度地域保健総合推進事業「ソーシャル・キャピタルの醸成や活用にかかる保健活動のあり方に関する研究」では、ソーシャル・キャピタルの醸成経験のある保健師は、岩本ら¹⁾が開発した公衆衛生基本活動遂行尺度 12 項目全てにおいて未経験者より得点が高いこと、ソーシャル・キャピタルの醸成経験は保健師の活動意欲を向上させる可能性があることが明らかになり、保健師の人材育成上からもソーシャル・キャピタルの醸成経験が有効であると考えられた。

しかしながら、ソーシャル・キャピタルを醸成するための能力形成プロセスを明らかにするには至らなかった。

そこで、本研究では行政保健師がソーシャル・キャピタルの醸成を図る能力を形成するために獲得すべきスキル、経験、姿勢等について、ソーシャル・キャピタル醸成経験のある保健師に対する半構造化面接を行い分析した。

その結果から「保健師のソーシャル・キャピタルを醸成するプロセスモデル」を作成し、作成したプロセスモデルに応じたソーシャル・キャピタルを醸成する能力形成過程について検討した。

保健師のソーシャル・キャピタルを醸成する能力は、地域に対する保健師の姿勢や価値観を基礎として、日常の公衆衛生看護活動及び OJT を通じて育成され、地域にもたらされる波及効果を捉えることにより、身に付くものであると考えられた。

分担事業者・事業協力者・オブザーバー

分担事業者	：松本 珠実（大阪市保健所感染症対策課・全国保健師長会常任理事）
事業協力者	：岡島さおり（札幌市保健福祉局高齢保健福祉部）
	朽木 悦子（社会医療法人 景岳会法人本部・全国保健師長会副会長）
	黒橋真奈美（滋賀県健康医療福祉部）
	小西美香子（横浜市総務局人事部）
	西畠 知子（三重県名張市健康福祉部）
	吉田 知可（大分県高齢者福祉課）
オブザーバー	：横山 美江（大阪市立大学大学院）
	佐伯 和子（北海道大学大学院）
	半澤 節子（自治医科大学看護学部）

目 次

1 緒 言	1
2 目 的	2
3 方 法	2
4 結 果	3
(1) 対象者別のソーシャル・キャピタルの醸成経験	3
(2) ソーシャル・キャピタルの醸成につながる経験及び獲得すべきスキル	46
(3) ソーシャル・キャピタルの醸成に資する環境	48
(4) ソーシャル・キャピタルの醸成経験のある保健師の資質・姿勢、職業観	49
(5) ソーシャル・キャピタルの醸成過程	52
5 考 察	59
(1) ソーシャル・キャピタルの醸成に役立つ保健師活動の経験・スキル	59
(2) ソーシャル・キャピタルの醸成に資する環境	61
(3) ソーシャル・キャピタルの醸成経験のある保健師の資質・姿勢、職業観	63
(4) ソーシャル・キャピタルの醸成過程	67
(5) ソーシャル・キャピタルの醸成過程に応じた能力形成	73
6 提 言	75
(1) 基礎教育において学ぶべきこと	75
(2) OFF－JT もしくは自己研鑽として学ぶべきこと	75
(3) OJT において学ぶべきこと及び望ましい職場環境	75
7 結 語	76
8 参考文献・参考文献	76
9 資 料	78

1 緒 言

アメリカの政治学者であるロバート・パットナムは、ソーシャル・キャピタルを「人々の信頼、規範、ネットワークなどの社会組織の特徴で、互いの利益のために調整や協力を促進するもの」と説明している²⁾。近年、米国ハーバード大学のカワチ教授らが、米国の50州について人々の信頼が高い州では年齢調整死亡率が低いことを明らかにしたことに始まり、種々の研究でソーシャル・キャピタルと健康の関係を明らかにした³⁾。

それ以来、公衆衛生の分野でソーシャル・キャピタルが注目されるようになり、日本でも尾島が行った調査では、行政及び社会福祉協議会の担当者からみて、住民相互のつながりが強いと感じている市町村では、平均寿命が長く、悪性新生物の標準化死亡比（SMR）が低いなどの結果が出ている。その他にも、ソーシャル・キャピタルが高い地域では、犯罪が少ないことや災害対応力が強いことなども明らかになっている⁴⁾。

このように公衆衛生分野でもソーシャル・キャピタルの重要性が注目されてきており「地域保健対策の推進に関する基本的な指針（平成24年7月）」や「地域における保健師の保健活動について（平成25年4月）」においても、ソーシャル・キャピタルを活用した自助及び共助の支援を推進していくことが盛り込まれた^{5,6)}。

しかしながら、ソーシャル・キャピタルの定義には統一されたものではなく、議論のあるところであるともいわれており、自治体の保健師活動においても、地域の人脈や人的資源を把握し活用することは従来の保健師活動として実践してきたにも関わらず、その概念の整理は明確にはなっていない。

地域保健におけるソーシャル・キャピタル醸成の現状としては、笹井らが平成24年度に調査した結果ではこれまで育成した住民組織がある保健所の割合は84.6%であったという報告⁷⁾があり、平成25年度地域保健総合推進事業「ソーシャル・キャピタルの醸成や活用にかかる保健活動のあり方に関する研究」報告書では、保健活動に着目したソーシャル・キャピタルの醸成経験のある保健師は約6割であることが明らかとなっている⁸⁾。さらに、ソーシャル・キャピタルの醸成を図るためには、組織体制、人材育成上必要な要件や条件があると考えられ、かつ地域診断や地区組織活動を実践し、個別の事例を適切にコーディネートする活動が重要であると考えられている。また、ソーシャル・キャピタルの醸成経験者は公衆衛生基本活動遂行能力12項目全てが未経験者に比べて高いことが明らかになっており⁸⁾、ソーシャル・キャピタルの醸成を図る経験をすることで保健師の公衆衛生基本活動遂行能力を高められることが示唆されている。

一方、平成26年度に厚生労働省に設置された「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会」から平成26年12月に出された中間的取りまとめにおいて、保健師のキャリアラダーを明らかにするには、能力を積み上げる筋道を可視化することが重要であるとされている⁹⁾。

本研究では保健師の能力のうち、ソーシャル・キャピタルの醸成を図る能力に焦点を当て、その能力を形成するために獲得すべきスキル、経験等を明らかにすることにより、保健師の能力形成プロセスを検討し、能力形成モデルを作成したい。そのことにより、今後の保健師のキャリアラダーのうち、業務遂行能力の形成に関する基礎的資料になることが期待される。

2 目 的

保健師がソーシャル・キャピタルの醸成を図る能力を形成するために、獲得すべきスキル、経験、姿勢等を明らかにすることにより、保健師がソーシャル・キャピタルを醸成するプロセスモデルを作成し、作成したプロセスモデルに応じたソーシャル・キャピタルを醸成する能力形成過程を検討することを目的とする。

なお、本研究では、保健師の能動的な地域への介入に着目するため、「ソーシャル・キャピタルの醸成」を「事業を目的として行った地区組織の育成ではなく、地域住民の自助・共助を推進し住民組織活動を活性化させることで住民自身の問題解決能力を高めることを目的に行った保健活動」と定義することとする。また、ソーシャル・キャピタルの政策レベルとしては、ミクロレベル（個人レベル）及びメゾレベル（地域レベル）の両者を取り扱うこととする。

3 方 法

（1）対象者

先行研究⁸⁾において、ソーシャル・キャピタルの醸成経験がある自治体保健師の採用後の経験年数は 20.1 ± 12.3 年であったことから、30 歳以上の保健師を対象とすることが適当であると考えた。そのため、全国保健師長会から推薦されたソーシャル・キャピタルの醸成を経験した保健師のうち、調査協力に同意の得られた保健師 9 名（30 歳代・40 歳代・50 歳代各 3 名。3 名のうち市町村 1 名、指定都市・政令市・中核市・特別区 1 名、都道府県 1 名）を対象とする。また、醸成したソーシャル・キャピタルの種類の違いが反映されないよう結合型(bonding)、橋渡し型(bridging)がほぼ同数となるよう配慮した。

（2）調査方法

平成 26 年 10 月 29 日から 11 月 13 日に、対象者にインタビューガイド（資料（1））に基づいた半構造化面接を行い、ソーシャル・キャピタルが醸成できた要因を時系列で明らかになるように聴取した。面接回数は各 1 回、時間は 90 分以内で、場所は対象者が希望する職場施設内の会議室等の個室で行い、面接者はソーシャル・キャピタルの醸成経験及び 20 年以上の保健師経験を有する公衆衛生看護活動実践者及び保健師教育者で組織する研究者 2 名で行った。内容は地域の捉え方、役割認識、地域診断や家庭訪問、個別コーディネート等の活動状況、事業企画や評価の経験、研究発表等の経験、職場の OJT・OFF - JT、どのようなきっかけでソーシャル・キャピタルの醸成の必要性を感じたか、周囲の協力や継続の原動力になった事柄等とした。

（3）分析方法

面接内容から逐語録を作成し、ソーシャル・キャピタル醸成のための能力として必要なスキルと経験、認識に関するコードを作成し、事例に類似する内容のコードを集約し、内容に関する概念を検討したカテゴリーに名称を付けた。カテゴリーの妥当性についてはソーシャル・キャピタルの醸成経験及び 20 年以上の保健師経験を有する公衆衛生看護活動実践者及び保健師教育者で組織する研究者で検討した。

(4) 倫理的配慮

対象者の選定にあたっては、全国保健師長会（全国の自治体に所属する管理職保健師の任意団体。平成 26 年 8 月末現在加入者数 4,996 名）の市町村部会、指定都市・政令市・中核市・特別区部会、都道府県部会の協力を得て、推薦者を募り、地域に偏りのないよう対象者を決定した。

研究協力依頼は所属長及び本人への依頼文により行い、同意書の提出をもって同意を得たものとした。依頼文には参加・不参加については各自の意思により自由となっていること、インタビューで、答えたくない質問には無理に答える必要がないこと、これらによって、なんら不利益が生じることはないこと、協力に同意した後でも、または、インタビュー後であっても、辞退することができることについて記述した。また、研究者が得たデータは管理者を定め鍵のかかる場所に保管するとともに、研究協力者の個人名、特定の関係機関名その他の関係者名は匿名化し、研究期間終了後、破棄すること、本研究で得た情報は研究以外の目的で使用しないことを記述した。

なお、本研究の実施については、平成 26 年 10 月 10 日付け、受付番号 26 - 5 - 1 で大阪市立大学大学院看護学研究科倫理審査委員会による承認を受けた。

4 結 果

インタビューによって得られた逐語録から、各保健師のソーシャル・キャピタルの醸成につながる経験や体験、それらの経験をどのように捉え意識として意味づけたか、学んだ技術、強化に資した外的要因に分類し、カテゴリーを抽出した。9 事例の概要については表 1 のとおりであった。

(1) 対象者別のソーシャル・キャピタルの醸成経験

9 事例から抽出されたカテゴリーについては、表 2 の「事例 1 から抽出されたカテゴリー」から表 10 「事例 9 から抽出されたカテゴリー」のとおりであった。

表 1 対象者別のソーシャルキャピタルの醸成経験

	年代	所属	型	SC 経験時の 時期 (経験年数)	住民組織 との協働	住民組織 間の連携	対象	キーパーソン	活動内容	成果・地域にもたらした変化
事例 1	50 代	都道府県	橋渡し型	20 年目	●	●	医療・介護・福祉、 脳卒中患者家族	保健所長、次長 医師会長 急性期病院外科の 医師	1) 脳卒中で倒れた時管内でどんな課題があるのか 全病院の地域連携担当者やリハ関係者、訪問看護、 ケアマネジャーで連携、受皿、研修の業務者 レベルで検討会を開催、クリティカルパスを作成、 患者・住民自認で運用化した。 2) 認知症徘徊予防訓練	1) 救急搬送の対応率の増加、脳卒中の再発率の 減少、関係者の情報交換や学習会の開催 2) 自治会の役員と行政の連絡体制やルールづく り、地域の協力者として郵便局、農協、コンビニ など巻き込んだシステムとなった。
事例 2		政令市	橋渡し型	28 年目	●	●	連合町内会、 高齢者	民生委員の三役	地域の活動を担っている役員に、地域診断、課題 整理、活動の振り返りや他地域との比較を意図的 に行い、「ワールドカフェ、活字化、フィードバック」 を町内会単位で数回実施。	意図した防災の見守り活動、高齢者の居場所「サ ロン」が立ち上がり、他地域とのデータの比較で 実感が湧き、やる気につながった。既存の良い材 料を紹介することで、自分たちでもできるという 意識に変化。6 ヶ月後の主観的健康度の向上。住 民同士の声の掛け合い、信頼関係ができた。
事例 3		市町村	橋渡し型	11 年目 ～21 年目	●	●	市町村合併前の 旧町の 2 地区	保健所保健師 2 地区の自治会長 当時の課長（事務 職）	波及効果の高いモデル 2 地区において全 5 回の 健康教室を開催。地域の人口動態、健診結果、主 要産業である農業の実態など各地域で比較できる データを提示。健診を機に狭み、自治会の目標決 定の支援。愛育班としてスタート。	「話し合い」「声かけ」の活動が定着化。声かけ後 の課題解決の取り組みとして新生児の生まれた世 帯への贈り物や生ゴミ処理機の全世帯導入ができ た。10 年で全町へ波及、地域の健康まつりの定 着化、行政と住民の信頼関係の形成。予算の確保 につながった。
事例 4		都道府県	結合型	12 年目	●	●	高齢者	市町村の保健師	県下、二次医療圏毎に 1 カ所モデル市町村を決 め、地区で活動しているキーパーソンを市町村保 健師がピックアップ。キーパーソンを中心に自主 的な予防活動グループを作成。地元地区の医師や 専門医療機関、家族会のコーディネートを行った。	認知症の予防のための高齢者の自主グループを公 民館単位を目標に組織化。
事例 5	40 代	中核市	結合型	20 年目	●		健康づくりに 取り組む市民	ウォーキングボラ ンティアグループ 発足のリーダー である市民	市内の名健康づくりグループの代表者と半年間、 話し合いを重ね、健康づくりの市民組織となっ た。若い保健師とベテラン保健師と一緒に活動を した。	健康日本 21 を推進するための市民代表組織の協 働の体制づくりと健康増進インセンティブ事業の 協働開催。保健師と市民の信頼関係の形成。地区 の祭りを市民組織・関係機関と毎年、共同開催す ることになった。
事例 6		市町村	結合型	24 年目	●	●	健康に関心の ある市民	自治体職員 OB (市民活動を中心 に行う NPO の職 員)	月 1 回の茶話会、お茶を飲みながら自由に市民 と話し合う中で健康に関する情報を提供し、他職 種と連携して住民組織に投げかけ、考えの整理を 手伝った。	住民参加者の居場所づくりとネットワーキ化がで きた。健康について話し合う場ができ、参加者の関 心が増え、障害者が喫茶店を運営できた。公共の 場に血圧計があれば等具体的な提案により、団体 に交渉して寄贈してもらったなど
事例 7	30 代	都道府県	結合型	4 年目	●	●	愛育委員	市町村の保健師 愛育委員のリー ダー	地域の愛育委員が声かけ、訪問をすることをお して、自分の地域を知り、関係性がつながった。	住んでいる地域への愛着。愛育委員活動が活発に なった。
事例 8		政令市	橋渡し型	18 年目	●		市内特定地域の 町内会の住民	地域のために何か したいと思ってい る人（組織役員）	地域アセスメントを住民と一緒にに行い、ワーク ショップをおとして地域の課題、取り組みたいこ と、めざす方向などにも考え、KJ 法で整理し、 実行に移した。	住民自身がお互いの考えや、やりたいことを話し 合うワークショップを運営するようになり、見守 り活動や住民交流の場づくりへつながった。専門 職への相談が増え、健康教育の依頼が増えた。保 健師って何する人と思っていた住民から、名前で 呼ばれるようになった。
事例 9		市町村	橋渡し型	12 年目	●		母子保健	市内の地域の 15 の組織代表者全て	子どもを産み育てる環境整備から高齢者の健康づ くりまで、地域全体の仕組みを見直し、既存の組 織、団体と地域を繋げた。その中で支援者と母子 をつなぐ仕組みとして主任児童委員の乳幼児訪問 やまちの保健室を展開した。	地域の中で声かけ、見守ってもらっているという 感覚が母親にある。

経験 人数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
【非回者の探索のための早期発見、保護訓練】	【経験者へのピアリングによる実態把握】	【せつかく作ったルールを請びつかせてはいけない】 # そのルールはつくくっても、やっぱり毎年きちっと定期的にいろんな人を巻き込んで、地域の人を巻き込んで使っていかないと、そのルールを。絶対さびついてしまって、過去のものになってしまうので、毎年その訓練は含も継続します。 【住民パワーは強い】 # 訓練はバージョンアップしてきて、今ではその地域の人たちが中心になって、そして地域のコミュニティにもちよっと協力してもらいうように言いに行かなくてか、農協とか、カリアリスターとか、ちよっとその辺までね、郵便局とか、そこまでちよっとね、自分たちの力に広げていってくれます。住民さんパワーって強いなって感じましたね。 【現場に足を運ぶ】 # まずわからないときはもう関係者のところに行って直接聞きに行こうということ、その実感を教えてもらう、こつちが。それで教えてもらいにくくね、絶対嫌とは言わなかったし、みんな協力的に教えてくれるし、それを1回で終わらずにわからんときはまたその後もずっと、圏域なので近いですね。いろいろ考えてるよりも、まずはもう、その人のところに行こうというように考えることを考えた。 # まずは現場に足を運ぶ。 【誠意が伝わると関係者が助けてくれる】 # こつちが誠意というかね、一生懸命というのが伝われば、相手もほっとかす、何か助けてやろうという思いになってくれるなあっていうのが、ちよっと実感として感じましたので。 【継続性のある活動をする】 # いろんな会議でいろんな意見を出してくれますよね、皆さんが。それで出てくれた意見は、次のときには必ずこういうことを言ってくれたということは、またみんなの前で返す、あのとき言っただけと、何にもその後になかっただけでいいわって、参加してくれてる人たちが思わないように、言うてくれた意見はこうでしてたねっていうことが次に活かせるような形で、そういう会議の場でも返していきたいなということば、心がけていたように感じますね。	【情報伝達のルールや様式づくり】 # 認知症で行方不明にならばった人は、まずどこに連絡をして、その連絡を受けたところからどういうふうに今度は連絡して、それで住民さんはその人たちをどういうルールで探していくとか 【毎年の継続した訓練】 【先駆的事例から学ぶ】 # 徘徊者の探索のための早期発見、保護訓練という、もともとA地区のほうで始まったその模範訓練をA地区に習いについて、地域での自治会の方々と一緒に取り組みを始めていった	【②地域で起きた事件を防げなかった自らの行動を悔やむ地域役員】 # この地域は徘徊の人で、昔ね、その方が戻ったときににはもうなくなっちゃってしまってたとか、いろんな経験を積んでる地域だったんでね。その民生委員さんも、すごくそのことにに対してはずっと後援していいよというかね、もって民生委員として何かできなかったのかねというようにない思いもあったっていうこともあって。 【②市町村も認識し重点的な介入をしている】 # 市役所が丁寧にその地域の字単位で、警察に回っている。すごく認知症に対して取り組もうというかね、危機感を持っているような地域があったんでですね。
		【現場に足を運ぶ】 # まずわからないときはもう関係者のところに行って直接聞きに行こうということ、その実感を教えてもらう、こつちが。それで教えてもらいにくくね、絶対嫌とは言わなかったし、みんな協力的に教えてくれるし、それを1回で終わらずにわからんときはまたその後もずっと、圏域なので近いですね。いろいろ考えてるよりも、まずはもう、その人のところに行こうというように考えることを考えた。 # まずは現場に足を運ぶ。 【誠意が伝わると関係者が助けてくれる】 # こつちが誠意というかね、一生懸命というのが伝われば、相手もほっとかす、何か助けてやろうという思いになってくれるなあっていうのが、ちよっと実感として感じましたので。 【継続性のある活動をする】 # いろんな会議でいろんな意見を出してくれますよね、皆さんが。それで出てくれた意見は、次のときには必ずこういうことを言ってくれたということは、またみんなの前で返す、あのとき言っただけと、何にもその後になかっただけでいいわって、参加してくれてる人たちが思わないように、言うてくれた意見はこうでしてたねっていうことが次に活かせるような形で、そういう会議の場でも返していきたいなということば、心がけていたように感じますね。	【②自立した自治会】 # その自治体は、いつまでも行政に頼っててはいけないということで、まずは自治会の役員さんで企画してれたんですけど、役員は数年ごとに替わっていくから、自分たちがやっててもだめだ。認知症の人に、どうにかこの地域でいてもらうという志願してくれる人に集まってもらって、組織化してやっていくこと。その事務局的なものは、地元の公民館を中心に。その職員を事務局に置いてやっていくと組織つくってくれた。	【①先輩から学んだ仕事の姿勢】 # 入った当初の課長、保健師の一番上の方はもう足で擦げって言って、こんな近いうちに病院があるんだったら「行つておいで」とか、その時代はことごとく言うてもらってました。 # 出かけていって、感じて帰ってきて、資料化して、関係者にまた伝える形を出していくというそつという仕事の仕方というものは、やっぱり先輩から学んだかなっていう感じはしますね。
		【本と経験を結び付けて自分のものにする】 新任期 # 帰ってきたら今度は学んだことを、どんなこと聞いてきたとか、それは本の中に載っているから、ちよっと調べて、その本と自分の経験というものをしっかりと結びつけて自分のものしないといけないみたいなきことかきも教えてもらいましたね。	【見える形にして還元する】 # 出かけていって、感じて帰ってきて、資料化して、関係者にまた見える形を出していく	

経歴 年数	経験（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因 ①体制（先輩・上司・同僚等を含む） ②地域）
		【他機関と一緒にやる喜び】 # 私は、一人でやっているとよりいろんな人と一緒にやったりのほうが楽しいなという感覚をすごく持っています。しかも、それが同じ部署じゃなくって、違う機関の人たちとやったりすることに対して振り回って、あつたよかったですねとか、こうしたらすごい患者さん、家でもトイレ行けたわとかね。 【一緒にやった経験は、いろいろな活動に広がる】 # この人たちと一緒にやればこんな楽しいとかね。それで、何かあったときもこの人たちに相談行けば、こんなこともしてくれちゃうんだというように、その一つでも体験があれば、そこからぼつといろんなことをやってみようという広がりにもなっていくのになって、そういう喜びというのかな。 【みんなで作っていきそうという見込みと自信】 # 案じしいね、何でもやっていけるなあっていう感じ。 # 何かあったときにでもここに持ち込めば、何となくみんなで作っていきそうだなあとかが、そういう自信にもつながっていったりするんですね。	【内省する】 # 私は、暗黙知という言葉はもうひとつなんですけど、内省するとか、自分のとこへ引き込んだ形で自分事にして、次に動いていくって。私は内省っていう感覚が好きなんです。 【①活動を理解し容認してくれる上司】 # 私はかちつとはまった活動じゃなくて、結構ね、はみ出たと思うんです。活動的には、でもそれを容認してくれて。うん、うん。やってもいいよ、おにいなね。 # 予算というものはほとんどない中で、しかも時間外という中での仕事のやり方で、普通の行政の仕事ということから考えると、はみ出てる部分が多かったかなっていうふうにも思いますけどね。でも、そこをやっぱ所内としても協力してもらえたし、そこをやっぱ上司の人の理解だと思います。理解と協力。 【①上司が責任を持つというバックアップ体制】 # でも何か責任、院長に言わないといけない時は僕が動くとか、そういうふうなバックアップはあったから、結構機動的にすごく思われていたっていうふうな思いはありますね。	【①地域の関係者と事業評価ができる場がある】 # 何かそういうふうな喜びを、いろんな関係者と一緒に喜び合えるというふうな場があると思うの、今はこの地域にあるように思う。
	【地域診断】	【放置してはいけない、どうにかしたいと頑張る】 # いろんな人からいろんな話を聞いて、この課題は何やとか、これはぼつとけないなとか、どうにかしたいなとか、やっぱそういう思いになるってことかな。 # 人から聞いたり身たりとか、感じたりしたこと、ちょっとぼつとけへんなっていうところをぼつとけないように頑張ろうとする。 【他者から知恵をもらう】 # 自分一人ではどうにもならないときは、資料化して関係者に見てもらって、それを関係者からも意見をもらう、それで、いろんな手だてを所内だけじゃなく、いろんなところから知恵ももらってやっていくっていうようなところかなと思うんですけどね。 【アイデンティティの確立】 # 自分の立場、保健所という立場と、それから関係機関と市町といういろんな立ち位置がある人の中で一緒に仕事をしていきますので、自分のやっぱ役割というのは何なのかなっていうことも、これは人に任せるところ、こはやっぱ保健所の自分の今の立場じゃないとできないこと、というように考えていたいなあと、いうふうになってました。	【課題を共有する場を設ける】 # 自分が行動を起こさなくても、それを共有できる場を持つとかね。それでも一つの行動かなとは思ってますけどね。 # それぞれの機関の課題というのを教えてくれますよ。そして、私の立場では、保健所の立場ではどんなことがこの方に対してできるかなっていうことを、かかわっていくことがものすごく大事だって思います 【資料化】 # 自分一人ではどうにもならないときは、資料化して関係者に見てもらって、それを関係者からも意見をもらう。 【PDCA サイクルを本で学ぶ】 # PDCA サイクルを回していく、その考え方があったりとか、方法とかね、その辺のあたりはちょっと参考というか、勉強しないといけないっていうふうなことは思いましたね。それで、そういうものが載ってる本とかはね、ちょっと買ったりして、自分が今やっていること等とそこら辺までできてる、あとどんなふうにしていったらいいのかなとか、その辺のことはちょっと疑問にも思いましたし、悩んだところでもありますし、見ました。	

経歴 年数	経験（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
	PDCA	【PDCA サイクルで事業を充実強化することは面白い】 #形は変わっても、続いていくことなので、それはやっぱりやりながら、そこでおもしろ味というのが出てきますね。	【PDCA サイクルを回す】 #ルールをつくったら、あとはPDCAでしっかりとそれを評価していった、それぞれのルールをよりまた充実、強化していくことなので	
	励みになること	【地域が変わっていくのが励みになる】 #乗り換えられる、悩んだときっていうか、困ったときでも励みになるなあって思うのは、やっぱり成果として地域が変わっていくというかな	【結果を捉え成果を出す】 #例えば脳卒中のルールをつくったら、管内、圏域内の救急搬送での対応率が増えてきたとかね。で、脳卒中の再発の率が下がっていったとかね。何かそういうふうにしつかりと結果が例えば出てくるという、数字で出てくるものもあるし、後は住民さんとか、関係者の声としてね、やっぱりああいう検討する場があったりとか、ルールができたことによつてこうやっただってこういうようなことがね、出てくるというのは、悩んだときとか、次の励みにはなります、自分の活動の中で。	
	【同じような思いを持っている人と夢を語り合う】 #いろんな仕事ができなきゃなんですけど、仕事をきかけにしての同じような思いを持つてる人たちで、夢を語り合うとか。 #書画は捨てて、個人としてしゃべり合えるような、そういうところになるべく出向いていって、話をし合うみたいなのをやってきました。			
	【学会発表】 #日本公衆衛生学会とか、認知症のほうは何の学会だったか忘れましてけど。何か幾つか。認知症と地域連携ハスト。それで、保健師の教育の分野、すーっと前、大昔ですけど。	【自分の軌跡】 #自分のやってきたことの振り返りだとか、そうやってきちっと残しておくと、何年かたつた後もまたこう振り返ったりできますしね。30歳ぐらいい、本当に私何してたか覚えてるもんね、今から思えばね。	【まとめる力】 #まとめにはすごくなと思いますね。	
	地域との関係性	【保健所保健師の家庭訪問は各機関に行くことに置き換わっていく】 #保健師になった当時は、家庭訪問いっぱいあったので、いろんな経験でざんですけど、40ぐらからはね、もう訪問も少なくなってきた。その中で、保健所の保健師は今まで家の個人に訪問に結構行ってたけど、これからは各機関とか、事業所とか、いろんな関係機関に行くことが何か家庭訪問、言のね。そういうようなことかなって。その各機関は、住民とつながっているっていうことで、ちよつと間接的になりますけど、機関を通して地域を知ることかな。そんなふうな活動に保健所の保健師ってなっていくのかなあみたいなことはすごく思いましたね。 【その人のやりたいことができる周りの環境づくりをしたい】 #一つのこととか何かこうやりたいなあ、こんな動きたいなああって思っていたら、やっぱりその思いを感じて、したらその思い、そういうやりたいということができるとかな、その人の周りの環境づくりをしていきたいな 【関係者間の動きを国の方向性を見て軌道修正する】 #管轄地域がソーシャルキャピタルじゃないけど、実質的にいろんな活動がその人たちが動いてくれる、関係者間で動いてくれるというものの後ろ盾でいいますかね。私たちの立ち位置としてはな、それを見守ったり、ちよつと方向性が国のいろんな動きとか、私たちが把握できるので。その方向性と、ちよつと間違つてたら軌道修正していくとか、見守るといったんですかね。	【コーディネート】 #人もそうだし、そして、検討の場もそうだし、この人とつなげられるように私たちがコーディネートするとか、紹介したりとか、そういう活動も保健師のソーシャルキャピタルじゃないけど、大事な仕事かなというふうに思います。	

経歴 年数	経歴（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
	【子育て期のお母さんの会】 # ちょうど同じ年代ぐらゐの子供を持つお母さん方が集まる機会があった。そのお母さん方が自分たちで子どもに関わちよよと外出したりとか、けがしたりしても、すぐに病院にかからず、自分たちでできる、母親としてできることがあるだろう、予防的にも、処置的にもあるだろう。その辺の勉強をすることによって、医療機関に負担をかけることなく済むことも一方ではあるし、そういう活動がしたいなということをおっしゃったときに、地域の医療福祉を考える懇話会というのを保健所で持っていて、その懇話会に小児科の医者、消防士、介護の事業主、いろいろおられたんですけど、そのお母さんが言ったことをその場でお母さんから発言してもらって、そして小児科の先生は小児科の係長というところで自分も協力できるからと勉強会で講師に来てもらう。それで、救急でも救急搬送は子どもが、難多いの、消防士の立場から、事故防止等の協力をしてもらう。お母さんはお母さんを集めるから、そこで勉強会をするとかね。 保健師としてめざすもの	【保健師の想像を超える展開になる】 # そこに楽しいことや、お母さんの発想ですごいなと思うんですけど、その子供たちを、今度消防署に連れていって、実際の消防車に乗せて、そこでそういう体験をしてくかね。それも、そのつながりの中でできてきたりとか。	【場づくり】 # そういうつながり役であったり、そういう関係する人たちに集まってもらい場づくりであったりとか、だから、そういうようなことが、保健師としてできていくから。	
		【保健師は良い仕事】 # その辺のい仕事かな、自分が、そんなに直接動かなくても、そういうふうにな、みんなが動いてくれたのかな。 【保健師間で共有し、先輩に楽しく仕事をしてみたい】 # やっぱ、仲間を働かせたいとは思いますが。それから、なるべく自分がやることも共有しながら一緒に、さっきは住民とか、関係機関と一緒に重なりあえるって言うたんですけど、そんなふうに私たちがやっていたことを保健師間でね。 # 先輩とかね。一緒に仕事をする中で、こういうふうに見たらすごい楽しいなとかっていうことを、やっぱちよよとずっと後輩の人たちにも伝えていって、それで楽しく仕事が、下の人たちもしてもらえるようにね、何か私にできることがあったらしていきたいなというふうに思っていますね。 【気にかけてもらっているという嬉しい】 # 声はかけてもらえてうれしかったなっていうのはありますけどね。気にかけてもらっているというの。 【地域や人をいかに興味深く知ろうとするか】 # 基本自分が好きというかな。だから、やっぱ興味っていうのがない、見て来ようとも思わないし、あの人のこと知りたいとも思わないし、あの人が住んでいる家かごんなのだったということもあえて意識的に見ようとも思わないですね。 だから、対象の地域であっても、人であっても、いかにその人を興味深く知ろうとするか、身ようとするかということ、すごい大事なことでと思うんです。機関も一緒にやります。やっぱそれがないと、見方も流れていく。		

1	緒言
2	目的
3	方法
4	結果
5	考察
6	提言
7	結論
8	引用文献・参考文献
9	資料

表 3 事例 2 から抽出されたカテゴリー

経緯 年数	経緯（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域
（採用18年目）	子どもの居場所・遊ぶづくり 【地域の機関、団体をつなげ、実行委員会形式で課題を解決する】	【実施主体は住民であることの基軸】 # 主体とか、実施主体は、その実行委員会がやるっていう形にして、お母さんで声をかけてたりして、つながりは、その住人同士の中ではできていったと思います	【組織化の準備・協働のための根回し】 # 準備組織、組織間だから、いろんな機関、団体、団体同士をつなげて、集まって、実行委員会をつくる形にして、で、その中で子供の遊び場とか、それからおもちゃをつくったりして、遊具を、遊びの機会とか、居場所をつくりまじりょうということを提案して、その組織同士が共働して、まあ、実行委員会形式だから共働して、組織とし成り立っていくのを支援をしたっていうこと # 市民児童委員さんがまず1番で、やっぱりその地域の中で誰に声をかけたらその地域が動くのかっていうのを、やっぱりよく知っているし、順番を知っているの。そこと相談をしながら、こっちの自治会で連合町内会長とか。そのとき、何人に声をかけたからちょっと忘れちゃったけど、そこはやっぱり地域のひとと相談して、どういう人を集めようとか、人選とか、その辺はやっぱり感じたですね。	
	高齢者の見守り体制づくり・介護予防活性化 【介護予防事業を地域づくり型介護予防事業の取組へ】	【事業主体でなく、こうあったらいいねを語り合う】 # 介護予防とかが結構事業とかでは中心なので、介護予防の活動が活発になるのと、高齢者の居場所ができるのとかが、そういう見守りとか、いわゆる顔見知りとの関係ができるのとかが、そういうのをして、介護予防からもうそうだし、いろんな角度からそれができるような地域づくりをするって、いろいろのを、主に民生委員会と一緒に話し合いながら進めるかな 【事業の振り返りだけで終わらない】 # 高齢者にとっでは、概念として、こういう居場所があったらいいよね、こういう活動が地域にあったらいいよねっていうことを、ちよっとこう明確にしたいっていうのがあって # 事業を振り返ると、この参加者が少ない、どうやって参加者を増やそうかっていうレベルまでしか振り回れないです、この事業の課題って言ったときに	【課題の共有化の手法：ワールド・カフェ】 # ワールド・カフェで、その思っていることをとにかく出すというのを、ところまではやって、課題の整理までは。 【中間の存在：同僚・中堅2名の方向性】 # 若手の職員はびっくりだったんですけど、そこに中堅の二人が一緒に来て、同じような方向だったんでよかったんだと思います	【H学院の受講】 # 職場内の話せる環境・雰囲気 # 話せる環境がまずあった、職場内に、職員同士もそうだし、上司もそうですね。話せる環境があって、で、相談ができたからかなと思ってますけど # 時間内はやってもらいます。だけど、できないのは、みんなが力になるよってという雰囲気があったんです。それないと、多分難しいと思います。

経験 年数	経験（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意義	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
	【恩欲のあるキーマンとの出会い】 # 民生委員さんに恩欲。やっぱり恩欲のある地域、それ、じゃあ同じことをやっても、全然やっぱは反応しない地域、私も、私も1個は持っているんですけど、でも、これは劇に男性の率が悪かったり、論理的に考えられる人たちが少しいたりとか、そういうのはありますね	【あらゆる機会を使った課題の投げかけ】 # そういった情報とか、その分担任で、少しこういう機会でもやっばりやあこのことを話しておこうとか、そういうことも含めてやっばりやってきたのもあります。	【顔売ってくる】 # 老人クラブ行って健康教育してくるじゃない。そのときに、会長だとか、ほかの人と、茶飲み話も含めてして、そういうときに、こちよこちよこつと話してきたり。聞いてきたらどうとか、そういう何て言うんですかね、ちよつとした関係づくりとか、顔を売ってくるとか、何かそういうのが、向かがないとできないって言うたら変 # 私だけがこの地域にかかわるわけじゃないから # 働きかけて、直接、やっぱ話しますね # やっぱそれを話し合った機会にとらえておくので	【上司の理解と保健師の考える能力】 # その全体の理解と、その下の考える力とか、やる気とかがないと、ちよつとあったからだと感じますけど、ね。でないと難しいですね。
	【介護予防事業の自主グループ化】 # 身近なところであつてというのが一つのキーワードだったの、身近なところでも、自分たちであつてというコンセプトを打たないで、で、しかも継続してやるっていうコンセプトを打ち出していたんですね。で、それを住民に理解してもらって、で、そこをやるのに、で、それは一つは単位町内会。で、たまたま、たまたま知り合った核となる人を中心にするね、結果的には体験のグループだとか、活動、その地域の中でのものができたっていう形なんです	【サービスの受け手からキーパーソンへ成長】 # 本当は二次予防事業の対象者レベルだったんですけど、まあ、そういうところにもキーパーソンがいるんだなということも拾って、活動ができて、ずっと継続はしてて。	【キーパーソンの存在を逃さない】 # 私そこに事業委託しているの、委託対象なんですけど、その人がいるから県にいったわけなんです。で、県に行つたままちよつと話をしたときに、実は地域でこんなことを、何だっけな、何か活動自分なりにやっついていてですね、自治会を巻き込んで、やっばりこの運動の教室参加してみて、体験とか運動が大事だと思うから、この何かやりたいたいと思ってるのよねっていう話だったから、ちよつとじゃあそれはぜひ一緒にやりましようかって言つて、その介護予防の居場所づくりとか、この地域型のものを一緒にこう考えて、その地域を中心に展開したっていう形	【全部課長の後押しがあったから】 # 全部課長の後押しがあったから
	【家庭訪問】 # 家庭訪問は、もうあつて当たり前。ベースがあつて、で、次の段階として、多分課長の言われたことが出来る。家庭訪問は当たり前なんだから思うんですけど、でもそこが多分、少ないですね	【自主グループの継続に向けて】 # そこが1件目だからといって、広範的な感じのスイッチをやっつけてくれてましたね。1件目だからといって話をしてくれるのが、そういうのかでできて	【自主的なグループの広報・情報発信戦略】 # 区の広報に入れてもらつたり、いろんな発表にもやつてもらつたりとか、そういう広告塔的な役割もしてもらいました。	
	【地区担当制】	【業務で分断されないしいた地域づくり】 # 地区組織をつくつていくとか、活動ができるとかって、やっばりつながってきますよね。	【業務分担任で得られない体験】 # グループホームで話をとおした民生委員さんが、子供の虐待の主任児童委員さんとして個別にもお願いができたとか、やっぱそういういったことが、地区担当をしていると一応できるので、その経験はよかった	【区長のリーダーシップ】 # 要はこのO市の業担制に反した体制をとつてたんです、1区だけ。地区担当制
	【自己研鑽】 # 特別してはいないです。でも、ソーシャル・キャピタル、地域のソーシャル・キャピタルもね、職場内の保健師の育成も同じだと思うます、やることは、何ていうんですかね、要はその顔の見える関係をつくるとか、ネットワークをつくるとか、信頼関係ができるとか、話しやすい状況になるとか、同じだと思うんですけど	【経験とSC醸成の持つ意味】 # やり方も、効果も、一緒にやらないかなくて	【経験してもつづけない課題】 # 若手でも、子供やって、高齢来て、だから経験してるんだけど、何か高齢に行つたときに、子供の関係の問題あるなと思つたけど、なかなかつづけなかったり、言えなかったりしてますよね、どうしてですかね。	【ジョブローテーション】 # 地区分担任経験し、業務分担任の子供も経験し、高齢も経験していることを経験する中で
	【統括者の役割の重要性】	【保健師活動の評価】 # 大体、保健師のやっていることわかりづらいので	【保健師同士が共に考える】 # 顔の見える関係がないから、今ちよつとした情報をちよつと伝えるところとしたことが、やっぱしづらいですね。だからそこができれば、顔の見える関係性をつくっていくとか、機会がつくっていくとか、顔材があつて、それを一緒に考えるとか、何かやっばりそういうことを、保健師同士にも結局していかないと、できないんですよ	【人材育成のできる環境】 # 職場内の話ができてる相談し合える環境だとか、あと、は上司の方針、後押しがなあと。住民に外的な要因があつたときに乗り越えられたのは、これはやっぱり共通して、職場でそう待ち構えて、相談してつづいていくことがあつたから、木又まよとか、この人に相談したい人じゃないのか、そんなのがあつたから # その職場の目標とか、体制、環境的な要因についてのすごく大きいんですけど、やっぱりね、首長の理解もあつたんです。
	【新人教育】 # 一緒に連れて行って見せたりしました。こういう話し合いをするから、一緒にこうやって書いて一緒に見てたりするんですけど。		【上司へ保健師の活動を伝える能力】 # 上にきちんとわかつてもらうような説明とか、よく、馬えるか。馬える形にしてお伝えする。大体、保健師のやっていることわかりづらいので	【S58 年老健法前の経験】 # 事業っていうものがなかったから、自分たちが地域に行つて、住民の声を聞いて、その声と同じ地域に、同じような声があつたら、これがニーズなんだね。じゃあこれを解決するために、何かやんなきゃいけないんだねっていうような、そういう仕事の仕方をしてたんだと思う。

1	緒言
2	目的
3	方法
4	結果
5	考察
6	提言
7	結論
8	引用文献・参考文献
9	資料

表 4 事例 3 から抽出されたカテゴリー

経験年数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
2年目	【先輩保健師が立ち上げた愛育班を自分が漬した】2年目 #昭和54年に前の保健師さんが立ち上げてくれた愛育班が二つあって、一つの愛育班、その〇愛育班というところが、そのときの当時の班長さんと班員さんたちの人間関係が悪くなって、消滅してしまっただんです、	【一人ですつくる自信は無い】 #すごい落ち込んで、でも新たにづくろうという、すごい、その苦い経験で、新たにづくって、また違う地域につくろうという自信もなかったんです。一人ですつくることは難しいと。 #1人保健師だったんです、私、平成5年までは1人保健師で、平成6年にもう1人採用してくれただけで、それですつと温めて、何とか住民の意識を変えたいには、自分一人の方ではどうしようもならないということをすると思ってて #市民の人たちの意識を変えろというきつかけが、自分一人ではなかなかできないということとで、いつか保健師が二人になったらやりたいなという思いはすつとその中に温めて。 【いつか愛育班をつくりたいという思い】 #やっぱり人間関係がねじれて、ねじれて、やっぱりとめることができずに消滅してしまっただという、心の、私の思いがすつとあって、いつか愛育班を組織をつくりたいなという思いがすつとあったんです。 【保健師が二人になったら組織をつくりたい】 #二人になったらその意識を変えろ組織をつくりたいということとをすつと、8年ぐらい思ってた 【住民の健康に対する意識を変えたい】 #市民の人は、働く人やけれども、健康とかを要するまでの行動変容まで全然あてなくて無理を要している現状があって、何かやっはり市民の意識、健康に対する意識というのを変えたいという思いはすつと持っていて、 #健康については普及啓発はしたんですけど、なかなかその行動変容が、自分たちの健康は自分たちで守ろうというふうな、自分たちが変わらないうけないという意識が、なかなかその当初はなかったの、何とかして自分たちで意識を変えていって、自分たちの力で変えていってもらえることができるのかって、	【自分の力量（組織の目的の理解、知識、説明力、スキル）が必要】 #ぶっちゃけ、私はその愛育班の話し合いに行っても、無駄話をしてるような感じが、最初、聞こえなかったんです。いつも行っても何か話し合いとか、おしゃべりばかりで、この愛育班という組織の必要性を私自身がうまく理解できなくて、私が引きとめるんやけれども、何のために愛育班があるんやというところの腑さえないとか、私が皆さんを、愛育班の必要性とかいうところの説明とか、そういう知識不足もあったし、保健師としてのスキルもなかったということで愛育班がもう潰れてしまっただんです。 #私はA県の大学の保健師学校を出てたんですけど、A県はその愛育班という組織がなく、実際その愛育班という組織がわからなかったんだよね、就職したときに、その組織の必要性ということも、まだ入ったばかりで、よく、余り理解してなく、愛育班という組織を理解してなかったのと、愛育班で保健師さん来てくださったというだけでも、なかなか、愛育班の中で班員会議で話し合いをするんですけど、本当に日常生活のありきたりの話をして、その中から、その生活の話し合いの中からこの地区の問題点を拾って、それをもんなで課題にして取り組みをやらうというところの仕組みとか、その愛育班のよさというのを理解してなかったもんだから、	【②地域の人間関係が悪い】 #人間関係が悪くて、もう愛育班やめよう、班員さんとかが皆さん班長さんを罵めて、あなたがまともめ回らんのが悪いんだと言ってる、人間関係が悪くなって、
			【質と量の両面で地域の健康課題を把握する】 #私が入った当初は、やっぱり皆さんが無理をしようとする意識があって、筋骨格系の疾患がすごく多い。私が強いとか強いといかないで、そういう筋骨格系の疾患が多いのと、高いと農業で無理をしてしまつて、陽自愛育班でも残留農家の多い人がいらつしやったりとかして、 #昭和58年から老人保健法が施行されて、一般健康診査の受診率が、そのときはもう県も受診率真剣に、皆さん健診を受けまじやうというのを奨励していた時代があつたんですけど、私が入ったときは、一般健康診査も70%くらいに下がつたんで、市民の人は、働くんやけれども、健診とかを要するまでの行動変容まで全然あてなくて、無理を要している現状があつて	【①私を育ててくれた保健所保健師の存在】 #平成6年の地域保健法が施行されるまで、保健所の保健師さんが、私が入ったときから本当に地区担当で、手とり足とり教えてくれて、その（愛育班が消失した）時も一緒に保健所の保健師さんが行ってくれたけど、やっぱりみんなかわかるのは町の保健師なので、保健所の保健師さんの助言とかも相当あったけれども、 #一緒に入っててくれたのは、保健所の保健師さん。保健所の企画、私が一人のときからずっと話し合いをしてくれてた #私が就職して一人保健師だったの、もう本当に私の唯一の指導者であり相談相手だったのが保健所の保健師さんで、地区のこととかいろいろのことを、毎度。 #（前任者であった国保保健師の家庭訪問の）記録とかも本当になくて、保健所の保健師さんが、やっぱりいろいろないことを私に、腕とか悩みにとか至っているのを教えてくれた人です。 【①農業施設としての学習会の存在】 #農政課が夜、地区座談会というのを全地区に、その26自治会、冬場に地区座談会といつのを毎年してる

経験年数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
	【保健師支援員の育成】4年目 # 健診の受診率向上のために、健診の受診票を配ってもらったりとか、健診受けようというような声かけを、行政との連携で、健診のきつかけは、保健師支援員さんというのを昭和62年からつくっていった	【組織の存在が必要】 # やっぱ組織、一人ではできないので、地域の住民の人たちの意識を高めるしかないのかなというのをずっと思ってた。 【地域の健康課題に取り組む仕組みをつくりたい】 # それで受診率は上がったんですけど、地域ぐるみで健康課題に、課題に、その地域の健康課題に取り組むというところまではいかなかったの、地域みんなと一緒に考える仕組みをつくりたい		【①地区座談会と一緒に、課長と一緒にいっていかせてもらって
11年目	【保健師の増数配置の実現】11年目 # 平成6年に保健師を2人目採用してくれて	【これで組織をつくれるという確信】 # 地域みんなと一緒に考える仕組みづくりをくりたいということで、そこは一人じゃできないので、保健師を採用してくれて、そこからやろうということで、モデル地区健康教室というのを	【所属組織への継続した働きかけ】 # 近々採用してくださいということ、ずっと私、入ってて、言ってる 【同僚との目標の共有】 # 私はこういう思いがあるんだけど、あなたはどうかかって、新しい保健師に私の思いを伝えたら…私の思いを受けとめてくれて、一緒にやりたいって言ってくれた	【①共に働きかけてくれる上司の存在】 # そのときの上司がすごい、やっぱり一緒に健康づくりということ、町の大きな事業として扱ってもらえるから、課長と一緒に言ってくれて 【②保健師保健師からのタイムリーで適切なアドバイス】 # モデル地区の選定で悩んでいた時に、保健師の隣の島が、一番あなたの方の町にって一番波及効果の高い自治会にしようかといふんじゃないか、そこが成功するかどうか、うちもやろう、うちもやろうって言うから、一番影響力のある自治会にしようって言われて、あそこですなよ。
	【モデル地区健康教室の実施】 # モデル地区の教室を通して、住民が自分の生活を振り返る機会を持てほしいということ、自分たちの地域がどうおればよいのかということ、自治会の人みんな考えて、自主的に活動ができるようになってほしいというのがモデル地区健康教室の目的だった	【健診データの分析と住民に見せる資料の作成】 # 第1回目は、その自治会の現状を知って問題点を認識して、第2回目は自分の体を知ること、健康診断を受ける、5回目、自分の健康診断結果をみてもらって、健康診断をもとにデータをまとめる、この町に、この自治会が多い疾病、コレステロールが高いとか、血圧の高い人がこの自治会の中で何人いるとかいうデータを、具体的に結果説明会をしたのと、あと健康管理中心のドクターに来てもらって、個別に説明をしてもらいました。 【グループワークで自分たちの意見が取り入れられる楽しさ】	【全世帯への参加しやすい仕組みづくり】 # プログラムの提案があったりとが活動の記録を住民に返す、モデル地区健康教室だということ、来てない方もいらっしやるの、前回内容がわからなかったら、参加できないから、第1回目の内容をA4ぐらいに簡単にまとめて、2回目に前に自治会で配ってもらうんです。第1回目、こういうことをしました。2回目お待ちしていますみたいな感じで、全世帯に、2回目が始まる前に、自治会長にお願いして班長に配ってもらった。 【健診データの分析と住民に見せる資料の作成】 # 第1回目は、その自治会の現状を知って問題点を認識して、第2回目は自分の体を知ること、健康診断を受ける、5回目、自分の健康診断結果をみてもらって、健康診断をもとにデータをまとめる、この町に、この自治会が多い疾病、コレステロールが高いとか、血圧の高い人がこの自治会の中で何人いるとかいうデータを、具体的に結果説明会をしたのと、あと健康管理中心のドクターに来てもらって、個別に説明をしてもらいました。	【②自治会長の意識の高さ、影響力の高さ】 # 自治会長さんが皆さんに命を預かるんです。うちはモデル地区健康教室の命を町から受けてるんだから、ことは全員（健診生）を受けましょう 【町として重要な施策との同調】 # 平成3年のときに町に8億円かけて福祉と健康の拠点づくりをしたんです…平成2年のときに高齢者の実態調査もやっただけです。
		【関係機関との協働】 # 関係機関が役場と保健所が主で、あとは農業の盛んな町だったので、農協、農業協同組合と健康管理中心が健診の一部を担ってくれたので、その保健師、栄養士も参加してもらった。	【①必要な予算の確保】 # 国保の事業で補助事業をもらって	# 財政的な援助、予算の確保ということ、国保の調整交付金、あの補助事業10分の10、あと、国保事業で予算をもらいました。あのとき会計使いが何年後かに来たんです。そのときも、会計使いで報告をさせてもらった、無事通ったんですけど、そういうこともありました。

経験 人数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
	【モデル地区健康教室が教室で終わるのはもったいない】 #自治会の目標がこういうような目標が決まってるんやけど、これで終わりにするのはもったいないので、	【継続した健康づくりは自治会の中で進めるもの】 #皆さんがこれからずっとこの自治会の中で健康づくりを進めていくためにはどうあったらいいのかなということを考えてもらって 【みんなが行動変容につながる組織は愛育班である】 #本当にじゃあ愛育班という組織がみんなの行動変容につながる組織なのかなということ、すごい私、自信がなかったんです。本当に愛育班でいいのかなって。相当悩んで、やっぱり愛育班がいいって（同僚に）言って、	【グループワークを用いた地域の健康上の目標の設定】 #皆さんに20年後（この地区が）どうあったらいいかなというのを、そのためにどうしたらいいかなというのを、五つとか六つぐらいのグループ（1グループに8人ぐらい）でそういう話をしてもらって、それを、私が入ったばかりの保健師で、それをどうグループで打って、模造紙に、張りつけ作業を、生活と健康と仕事と生きがいの項目に分けて、それを全部張りつけて、現状と、こうすべきと、こうありたいという意見に分けて、その自治会の主な内容を一つの模造紙に書いて、それを地区の、前回話し合った皆さんの内容はこんな内容が出ましたよということを復習をして、 #第3回目の結果説明会のときに、自分たちの目指す自治会の姿とすることで、これはある自治会の分なんですけど、「笑顔あふれる家庭と地域で、若い人がいつまでも生活できる地域でありたいな」とかいうような、自治会の目標をみんな決めてもらって、これでもいいですかということで、じゃあこの目標に向かってモデル地区健康教室、これをやりましょうと、これを自治会の目標としますよということで皆さんで決めて、 #地域の目標、自分たちの地域がこうなりたいということと、地域の目標を明確にすることで参加した人たちが自分たちの持つ役割が見えてきて、これがそのまま地域の活動目標がその自治会の活動目標になって、模造紙1枚書いて、あの模造紙を大きくして自治会の前の壁に張って、ずっと、今も張ってるんです。 【話し合いで自分たちの意見が活動に取り入れられる楽しさがある】 #毎回話し合いを取り入れることで、自分たちの意見が活動に取り入れられる楽しさ、参加した人たちがですね、モデル地区に参加したことによって、話し合いをすることによって自分たちの意見、ここで言ったことが次のグループワークの中で返しができているので、楽しく体験できたというか、楽しくグループワークができたのかなということを感じました。	【新採用保健師のOJT】 #皆さんが物を言いやすいような、やわらかいような伝え方とか、一言でしやべったりとか、きょうは皆さんあるが、とかよく来てくれたよとかいう皆さんの感謝の気持ちを伝えたりとか、始めてきつグループワークの中で、みんなできつつあることとしゃべってくださいますかというように、総合司会を新人保健師も、自分の地区はその人に、その人のOJTで、最初の地区は私が持つからもう一つの地区は私のやり方を覚えてあなたが今度進めるのよっていうようにして、彼女にさせていきました。
【愛育班の立ち上げ】		【継続した健康づくりは自治会の中で進めるもの】 #皆さんがこれからずっとこの自治会の中で健康づくりを進めていくためにはどうあったらいいのかなということを考えてもらって 【みんなが行動変容につながる組織は愛育班である】 #本当にじゃあ愛育班という組織がみんなの行動変容につながる組織なのかなということ、すごい私、自信がなかったんです。本当に愛育班でいいのかなって。相当悩んで、やっぱり愛育班がいいって（同僚に）言って、	【愛育班組織の提案】 #今後健康づくりを進めていくためには愛育班という組織を町からは提案したいということを伝える 【組織としての合意が必要】 #私たちはモデル地区で愛育班にしたいということを保健所の爆長さんに報告、それからうちの課長にも報告して 【地域のキーパーソンの理解を求める】 #愛育班につながるために、そのときのまとめてくださった自治会長さんに、やっぱり皆さんに納得、愛育班という組織も皆さん知らないから、まずは自治会長さんに愛育班という組織の説明について、自治会長さんが納得してくれたら広めようかということで、説明に行っただんです。 #その二人が納得したら、あとの自治会の自治会長さんがどんなに文句を言ったって、絶対押さえ切る、押さえられるという確信があったんです。その二人を説得できれば絶対うまくいくという、何か確信があったので。	【①共に悩む後押ししてくれる保健所保健師の存在】 #（保健所の）A保健師とすごい悩んで、結局A保健師から、あんたは最終的にどうしたいのかと聞かれて、相応悩んで、やっぱり愛育班がいいって言って、じゃあもう愛育班しかないじゃないかって言われて、そうせずよねって言って、じゃあ愛育班でいくでって言って、二人でもう愛育班の組織をつくらうって 【②地域のキーパーソンのやろうという意思】 #そんなええ組織があるんやったら最初から言うてくれればよかったんやって言ってきて、そういういい組織があるんやたら、じゃあ頑張るやろうかということを言うてくれて、もうそのときは泣きました。
【愛育班の規約変更】	【愛育班本部の規約が、そこに住む主婦、女子という規約があったので、本部の規約が女子に限定されてたんです。なので、それを、私も焼約束んで、これを変えることができたかとかというのが課題だったんですね。	【愛育班の規約変更】 #私はもう既に遠方に暮れて、もう違う組織に変えようかというぐらい思ってたんですけど、でもそのとき、どういいう組織に変えたいかも全然違う勇当もつかなくて、ただ遠方に離れるばかりだったんですけど、そこでやっぱり、せつかく愛育班で決めたんやけん、諦めちゃいかんという...それで後押ししてくれた		【規約変更】 #保健所保健師が県の参事に今町はこういうモデル地区をやっている、男性も班員なので国のほうで規約を定めることができるんですけど、どうかっていうことを聞いてくださった...そういうこともあるから県の現状を国の本部に伝えるわって...前向きに言うてくださった

経緯 年数	経緯（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意義	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
		# 保健所の保健師と（モデル地区健康教室の運営について）きめ細かなことも一緒にやってくれたので、私たちが何をしているのかというのには全部理解をしてくれて、愛育班につなげる思いとかいうのも本当に理解してくれてたので、私の悲しさとかいいうのわかってくれたから言ってくれたのかなという思いがあります。		# 愛育の方針をやったり女子だけじゃ難しいと、これからの健康づくりは、やっぱり愛育の方向性も少し変えないといけないよねっていうことで、国のほうもちょっとと真直しを考えてた時期で、男性班員のことも検討しましよって言うてくださったんですね。それで、結局国が変えてくださった、婚約を、男女、もう一般市民とするとか、女子とするという文言を削除してくれました。それが全国で初めてということですね。
	【愛育班の地域への定着と実施地区の拡大】	【愛育班活動は健康課題の解決にとどまらず地域の活性化につながる】 # 環境問題まで広がっていたんですよ。それで、…こういう話し合いから生ゴミ処理機撤収の購入につながるやあって。やっぱり愛育班いいよなっていうことになって、やっぱり積極的にそういう話、やっぱりいいじゃないといけななということになって、 # 今度高齢化が進んでいるので、ことしの目標はお年寄りに声かけようとか、あと、赤ちゃんと生まれるのが少ないので、赤ちゃんにバスタオルをプレゼントしようとか、よその町とかが、愛育班の研修会とかでおむつのプレゼントがあるとかいうのを聞いてて。うちもせっかく赤ちゃんと生まれるから、愛育班の自治会のお金で産婦科バスタオルをプレゼントするようにしようとか、そういう愛育班の班員会議の中でそういうふうに広がっていききました。 # 昔は女性ばかりの愛育班だったので、話し合いが世間話に限定されてたんですけど、男性が班員さんで、その自治会の後援会がイコール班員会議になったので、環境の取り組みとか、自治会全体の活性化につながったりとか、お祭りの復活というとか、そういう地域づくりに波及していったんですね。自治会全体の活性化というとか、健康づくりの関心度が高くて男性にも広がって、本当愛育班事業イコール地域づくりというふうに広がっていったのがよかったのかな。 # 男性班員さんじゃなきゃなかなか女性のごとくに訪問に行きにくいのでジャンボカボチャの苗を配って、カボチャが大きくなったというところで声かけをやった。ハロウィンのカボチャなので、せっかくカボチャが大きくなったから収穫祭をしようということで、10月にジャンボカボチャ大会を自治会でしたんです。これがもう大成功で、町長さんとか保健所長さんとかも来てくれて、ジャンボカボチャのコンクールが新聞とかニュースにも取り上げられた。 # カボチャ大会から持てないので、若い人が加勢してくれる。 # 町挙げて、ジャンボカボチャ大会を平成13年からするようにしたんです。これですって。	【行政と住民との信頼関係の構築】 # 行政と住民との信頼関係ができて、お互いに気軽に声をかけやすいう関係性ができて、愛育班で、愛育班の班員会議とかで話しかけることが、もう行政に直接、施策につなげられる一つの市民からの声につながるようになって、	#（合併する前の他の市に）は別の組織があったって、愛育班の組織がなかったんだけど、愛育班の組織のことを認めてくれて、愛育班はやっぱりいいかんよなって。それから、合併しても両組織は潰しちゃいけませんよなって。全域に愛育班も広げようよなってその市の保健師が言うてくれた。
	【組織の自主化】	【行政に頼らない組織にする】 # 組織同士との交流をつなげて、より自主化に、いつまでも行政のおんぶにならないうように、より自主化につなげていこうということを決めた	【組織同士の交流】 # 37ある自主組織を、より自主化につなげて、グループ同士の交流を図ることを強めようということを決めたんです。	
	【家庭訪問】	【個別支援の限界と集団支援の意義】 # 自分一人しかいないので、私はやっぱり効率よく事業をしたかったんですね。遠だきりを25人、毎日行ったって1カ月かかるわけですね。だけど、何か事業を効率よくしたいというのが、家庭訪問を通じて感じました。 # 集団支援をしないと、住民の意識も変えられないし、住民の一人一人を変えることはできないという意識が、家庭訪問を通じて感じた	【地域の実態把握】 # 家庭訪問は、もうやっぱり基本だと思ってるんですね。とにかくその地域に出ないと何も聞えないし、何も聞こえないですね。やっぱり地域の現状を知るのには訪問が一番だと考えてます # 家と人はほとんど全員把握してましたので、いつの時期が〇町が忙しくて、いつの時間だったらみんなが集まれるということを把握していただく、モデル地区健康教室の開催時間とか開催時期、それから市の健診ですね。健診をいつしたらいいのかわか、そういう会議を、愛育係健康推進委員会の会議をいつの時期にしたらいいかわかいうのも、そういう家庭訪問を通じて、皆さんの忙しい時期であるとか時間差とかいうのを把握できてました。	

経験 年数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
【地区組織活動】	【地区組織活動】	【地区組織活動が保健師活動のコア】 # 地区組織活動は、もう私の保健師人生の中で8割を占めてしまっています。 # ここが私たち保健師がやるとこじゃないかなって、一番得意とするところじゃないかなって思う	【市民とともに健康づくりをする】 # 市民と一緒に健康づくりができていくということ 【地区組織の努力の見える化】 # 400人ぐらいいそのフェスタに来て、その頑張った自治会、健診率、受診率向上自治会とか、受診率の優良自治会はもちろんだけれども、大幅に伸び率のアップした自治会の愛育保健推進員さんたちを表彰したりとか。そして、その愛育保健推進員が表彰台に上がるでしょう。もうすごい得意。 【模倣し、調整】 # いろいろな関係機関であつたりとか、関係する人たちの模倣しとていうか、調整、みんなできり上げるというのが、私、何かすごい好きなんです 【地域を変えていく役割】 # モデル地区にしてもそうだし、厚生連の人たちであつたり、保健所と一緒に、いろいろなパターンの人たちと、いろいろなそれぞれ役割を分担しながら、その地域を変えていくという、その調整役が保健師の役割になって、それで地域を変えていくというのが保健師の役割だということを経験したというのが、組織活動を通して学べたことかなと。	
【健康教育】		【健康教育は手段】 # 受診率向上のためであるとか、健康の大切さを知るための一つの手段として健康教育をしていく。 【他の地域に負けたくないという気持ち】 # ほかの地区には負けたくないという、何かそういう根性があったので、全部自治会比較をしたんです。 # とにかく受診率は、子供から高齢者に関係するものまで全部自治会比較をして、それを町の健康フェスタで表彰するんです。 【一人ではできない】 # 自分の力ではもう限界があるので、みんなの力をかりてやらないとできないという、そこだけですね。自分一人ではやれないということですかね。 これがいっぱい保健師さんがいたら、そういう気持ちにはならなかった	# その気にさせちゃうんですね。健康教育。 【その気にさせる材料】 # 納得してもらえるために、この地域の健康の問題として、やっぱり健康病が多いとか、そういうのも、自分たちにより近い問題としてわかっただけで、その気にさせる材料なんですよね、多分。	
【ヘルスプロモーションの学習】	【ヘルスプロモーションの学習】 # 1先生とかの研修に、私は、保健推進会の育成のときに3回、研修に行かせてもらったとか、ヘルスプロモーション研修には自費で行ったとか、あと〇先生の健康なまちづくりの研修とかに、もうとにかくくわらをもすがやるような気持ちで、 # ヘルスプロモーションの思いとか、その理念をたたき込まれながら、私なりに、町をどういうふうに変えていったらいいのかなということ、そういう研修を通じて、私の中の思いは少しずつ磨らなくて	【住民をエンパワーメントしていかない地域は変わらないという信念の形成】 # ヘルスプロモーションをやっぱ推進しないといけないというのがある、それが地域を変えるんやというのを、やっぱそういう研修で自然とたたき込まれたというか、その思いが、やっぱそういう住民の力というか、そういうのをやっぱ置いて、ヘルスプロモーションをやっぱ推進していかないと、住人をエンパワーメントしていかないと地域は変わらないやという意識があったと思います、今振り返ってみれば。 # ヘルスプロモーションの思いとか、その理念をたたき込まれながら、私なりに、町をどういうふうに変えていったらいいのかなということ、そういう研修を通じて、私の中の思いは少しずつ磨らなくて	【①保健所保健師からの研修会参加の誘い】 # 保健所の日保健師から、横浜集會へ行くよって言われて、わけがわからずにはいって行って、連れて行かれて	【①先駆的事例や尊敬できる保健師との出会い】 # そのときに県内で超有名な保健師さんたちとそのとき一緒にたんです。

経歴 年数	経歴（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意義	学んだ技術	外的要因 ①体制（先輩・上司・同僚等を含む） ②地域
	【看護協会主催 中期コンサルテーション研修】 【保健所管内の保健師で定例会を組織し、研究や情報交換を行う】 # 月1回、管内は本当に保健所と市町村が仲がよくて、月1回、保健師の定例会をやってたんです # 組織が大きくなるから、市だけの保健事業連絡会というのを半日、それから管内研究会を半日ということとで、一日、そういう保健師たちの情報交換なり研究ということを、一日はとうとうっていうことを決めました。	【研究や情報交換は保健師の資質を高めるために大切】 # 今まで先輩たちが築いてくれたこの管内研究会での研究とか情報交換は大切だから、絶対合併しても、批判はあるかもしれないけれども、絶対つなげよう。管内保健師研究会の中でも、調査研究をどうするかということも問題になったんですけど、やっぱり私たちの価値を高めるために、研究は絶対進めたいかんはなということとで、母子と考成人と認知症をきめた精神にわかれて、研究としてやっていくということも、みんなて話し合ってた決まていきました。	【保健師、栄養士の人材育成】 # 地域が活性化するためには、まず保健師、栄養士が変わることから 【マンネリ化している組織を活性化する】 # 自主的にならなかったり、活性しなかった、活性化というのが、組織の人たちが生き生きと活動するということがなかなかできていなかったのて、組織がどうやったら活性化するか	# やり手の保健師さんたちとそこで知り合って、みんなて、地区組織づくりって大事だよってこういうことを横浜集会、長野の松川町のことと初めて知って、すごい町があるんだということて何かのめる込んでいったというか
	【学会での発表】	【研究を施策に反映させる】 # 絶対、施策に反映するものじゃないと、もう絶対できないこととするんです。一人ではできないから取り組むんです。 【学会発表は職場に根付いているもの】 # 資料でもいいから出しなさいと。それはずっと根づいてる。 【他職種に成果を示す】 # 年に1回は発表する。ことしも2月にする。3月、講義があるので、課長が集まれないので2月にする。	【事例検討会や研究の場】 【文書にまとめる】 # 必ず最後、まとめるんです。みんなて。 【学習による技術の獲得】 # 発達の見方とか、私、全然わからなかったけど、管内研究会で、赤ちゃんの引き起こしてあるとか、そういう発達の学習から全部。 【マニュアル作成】 # 母子のマニュアルもつくったんですよ、あのときに。 【最新情報を知る】 # 言はインターネットとかもなかったもので、最新情報というのは、保健所の課長さんが、そのときに必ず。保健衛生ニュースとか、保健師雑誌とかもとってましてたけど、最新、国の情報であるとか、そういうのは、本当に時間をかけて教えてくれた。 【事業評価】	【学会発表を推進する上司の存在】 # 我々のやっていることは、それは上司の保健師がきちっと、必ずどこかに出しなさいと。 【課長の指示】 # 課長からは、やってきた自分の軌跡を必ず冊子にして残しなさいと。 【市の事業として冊子化する】 # ○市の市の事業として印刷してくれる。 【自主運営】 # 管内連絡会はみんなお金は払っているんでね。
	乗り越える原動力	【町への愛着】 # 私が住んでるのも住むとこだし、自分の住む地域だから、絶対自分ばよくしたいし、やめた後は、自分を育ててくれた町だから、感謝しをする何かをしたい。ボランティアであるとか、何かをしたいと思っています。		【自治会長の後押し】 # 住民からは、その愛着の結成のときに、自治会最がやろうって言うてくれた後押しがあったてきたこと

1	結 言
2	目 的
3	方 法
4	結 果
5	考 察
6	提 言
7	結 語
8	引用文献・参考文献
9	資 料

経験 件数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
				【住民からの感謝の言葉】 # 善段住民の方から、あんたが保健師でいてくれてよかったって。そういう日常の会話の中で書ってくる言葉があったいなと思って、また頑張ろうとかいう気持ちにさせられました。 【熱い職場】 # みんな熱いんです、うちの保健師。
	OUT	【先輩が後輩に残す意識を持つように育てていく】 # 後輩保健師たちが組織に、この組織活動をつまやくやるために、どうやっていいのかな、そのOJTをどうしていくかということも、今、組織活性化事業でみんなと考えているんですけど、そういうことも、私たち先輩が後輩に残す意識を持って育成していかないとできないのかなと考えています。	【活動を記録にしていこう】 # 必ず活動を記録にしていこうということは、昔の坂町のときから努めてきたことなので、それも継続していきたいなと思っています。	
	保健所保健師からの指導	【市の保健師としてやらなければならないことがある】 # 地域保健法が施行されるときに、私は今まで、あなたのところにいつでも来れたけど、地域保健法が施行されたら今までみたいに來れるなくなる。市町村と保健所のやるべきことがちゃんと決まってくるから、あなたには市の保健師として何をしなければならぬのかということをしつかり考えないと本当に口を酸っぱくして言われてたんです。	【先輩の育成もお互い様】 # 今、逆転現象で、もうちょっと頑張らないといけないよなって。やっぱりお互い様かなと。	# 今の保健師は二つに分かれると思うんですよ。もう5時にはさようなら5時過ぎたら会議もしないでくたさいというタイプ。（うちの職場はそう）じゃなくて、みんなでいいものをつくりたいと。住民のためにぶれないと。 # 意見はかち合うんですよ。これはこうじゃないですか、ああじゃないですかって、若い人もいます。中堅はがんがん言います。たじろじになりますけど。 【全てをさげしめる同僚との関係性】 # お互いが悩みを、私も先輩に悩みを言うし、先輩も私に言うてくれたりとか、お互いの保健師の相談とか、気持ちで、仕事だけじゃなくて、個人的な悩みとかも聞いてくれる関係性が保健師同士であるということ
	保健師の役割	【事業化・施策化】 # 訪問とか相談とかで、市民個人の健康問題をまず聞いて、支援はもろんですけれども、その個人の課題が地域的な課題であれば、それを地域の課題として捉えて、地域のみんなで、住民が解決していくような地域力をつけるような支援をしていくことが必要かなと思っています。そういう地域の健康課題が、事業として取り組むべきことであれば、それを市の事業としてやっていくし、それを政策へとつなげていくことも私たちの役割かなと思っています。 【鳥の目・虫の目で地域全体を見る目を持つ】 # 私が大切だと思っているのは、よく今言われる、鳥の目、虫の目というところ、地域全体を見る目を持つということ 【経験を重ねに自分で咀嚼し、考え、判断すること】 # 私が感じたこと、実感であるとか体験であるとか事例ということは大切にして、自分の頭で考えるということ大事にしたいは、自分なりの解釈、自分を理解したこと、自分なりの理解で物事を進めていきたいなと考えています。		【支え合いが市の目標になっている】 # 他職種とか他機関の連携し役として、場所と人であるとか、組織と組織、いろいろな他機関の協働を進めて、目標となる市の姿、安らぎと安心に満ちた支え合い、暮らしというものが〇市の目標なんですけれども、その目標に向かって総合的な活動を行っていくことを目指して、地域包括ケア、そういうことを目標にやっています。

表 5 事例 4 から抽出されたカテゴリー

経験年数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
幼少期	もともと私が育ってきた中でもおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に	# 元気に高齢者の方もいられるといふところがあるから、そういう問題意識は小さいところからありました		
就職して2年目	夜間の大学に通い、地域福祉のゼミに所属	【他職種から行政の学習の必要を認識】 # 私が就職したときに、いろんな職種の方とかわったんですけど、行政機関だったんですけど、その行政の勉強をしないといけないなというふうな感じがした # 余りに知識がなさ過ぎて、話ができない、通じなかったという、行政職の人と		【自分の担当業務と大学での社会人学生としての学習内容が合致】 # 地域福祉なので、住民の組織化とか、自分たちで住みやすいまちづくりなんじゃないの？というのがテーマだったもので、そこから、ちょうどその自分のやっている仕事とそれとリンク 【保健師に対する行政職としてのよくない部外者からの評価】 # 若くて新卒だったからいろいろなやしも聞かなくてく # ちょっと余りいい評価じゃないのも聞かなくてきたりして、今はそんなのを聞いても何とも思わないですけれども、若かったから、これいかんのかなんて思ってたので行きました
就職して3、4年ぐら	障害を持った子供の訪問から親が集まる会を設定	【住民が無理なくできる継続した事業展開】 # 行政で1力年、2力年事業なんてやっても、その事業が終わったら終わりというところだったので、ほぼ根づく、みんなが無理なくできるようなグループ活動をしていかなければならないなというのを思っていました 【県民が健康でいるために本当に必要な仕事をしたい】 # 本場の仕事はこういうことだよねと思っていて、やれるチャンスがあればと思っていて # 当に我々の親世代とか近所の人とか一般の生活している県民の人が元気で健康でいられるために必要なことという感じが、本当に必要なことをやらなければいけないと 【孤立している人が「仲間がいた」という体験をしたことに感動】 【集まることで荷を下ろしたと感している住民からももらった感動】 # 会うような機会を設けたらすごく皆さん涙流したりしながら、こういう仲間がいたんだという体験もしたので、やっぱり必要だなというふうな感じがしました # みんな大変なのは自分だけとか、孤立していたような感じ、もう重い荷物をもっていたという感じがしたんだよね、同じような仲間に出って、重い荷物をみんなが背中から支えてくれる感じがね。仲間がいたという感じが # いいなと思いました。よかったなと、必要だなと思いましたね。私たちが行って、若い娘が、当時何もわからなかったけど、そんな娘さんや若い人は本当に集まって、そこで重荷をおろして、いろんな知恵で話合うというのはすごく、思い出すと感動してしまうんですよね	【小規模のグループ化と支援】 # 今までの子育てはどうしていいかわからないなという場合のおじいちゃん、おばあちゃんたちの集まる教室からグループ化というのをもやっていた # もっと小さい規模の小グループ活動というのを下手くそながらもやっていた	【相談に対しての上司の応援】 # まだ若かったから、凄然としていたんですけど、このまま点で終わるにはもったいないなという感じがして、若さをもっと相談して、みんな所長さんたちも応援してくれて

1	結 言
2	目 的
3	方 法
4	結 果
5	考 察
6	提 言
7	結 語
8	引用文献・参考文献
9	資 料

経歴 年数	経歴（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司（同僚等を含む））②地域）
15 年目？	認知症の予防のグループ育成 認知症の予防をふだんから当たり前のように自分たちも生活に取り入れられるようなグループを草の根的に公民館単位	【保健師だからと熱くなって浮かないよう行政職と上手くやっていくこと】 # 同僚はみんな行政職なんですよけれども、割と本当に担当業務というところではあるんですね。ただ、やる時には事務職のところに1人だったの、保健師って結構熱いので、突っ走ってしまっって浮いてしまっところがあるんです。なるべくそうはしたくなかったの、行政職の方に教えてもらえないから、県民にどうメリットがあるとか、そういう話をするとか、そうだとしたらというふうに納得してくださるので、なるべく突っ走らないようにみんなと歩調を合わせながらやっていったということ、皆さんも応援してくれま 【住民と一緒に組織化の活動をするのが本来の保健師の活動】 # 本当に住民の方と一緒にって組織化していくという活動がちょっと薄れているような時期にたんだんですけども、このままではいかなんという思いがあったんですね、ちょっと皆さんも（H16）	【予防の視点での事業】 # 当時は予防という視点がなかったんですけども、もう少し先手を打つことはできないか 【行政職と歩調を合わせ、応援してもらう方法】 # 同僚はみんな行政職なんですよけれども、割と本当に担当業務というところではあるんですね。ただ、やる時には事務職のところに1人だったの、保健師って結構熱いので、突っ走ってしまっって浮いてしまっところがあるんです。なるべくそうはしたくなかったの、行政職の方に教えてもらえないから、同じような言葉を使い、納得いただける計画を立てると、予算化するとか、県民にどうメリットがあるとか、そういう話をするとか、そうだとしたらというふうに納得してくださるので、なるべく突っ走らないようにみんなと歩調を合わせながらやっていったということ、皆さんも応援してくれま 【ファシリテーターの養成】 # グループをつくるときに、ファシリテーターという方を養成するの一般的な方向けに募集して養成 【小グループの活用】 # 養成講座に来ていただいて、その中でもやはりこの方は大丈夫という方が何回かかわっているとかかるので、その方、2人1ペアぐらいのファシリテーターとして一つの小グループをつくってもらうような手だてをとって 【医療の専門機関のコーディネート】 # ちゃんと医者さんもちろろん後ろ盾が欲しいという意見があったり、かかりつけの先生は自分たちが困ったときに、バックアップしてくれる専門の病院が欲しいという要望があったんです。その医療のかかりつけ医養成と専門医療機関のほうもやっていくということ そういう専門機関のほうのコーディネート 【一次、二次、三次予防を総合的に組み合わせる】 # 1次、2次、3次予防対策というふうにして、ちょっと認知症の家族の会の方にも大変お世話になって、各地の家族会の方にも相談があるときに、こうとこうも使えるというのものがわかっていていただいたので、それ以降いろいろな総合的にやっているうちの	【自由な発想を後押ししてくれる上司】 # 割と自由に新しいものを取り組んでいいよというように上司も新しいものをどんどん進めていいよというように上司だと思ってますが、自由に発想できたというところでですね。 【獲得されていた予算の裏付け】 # 予防の何か活動も取り組めるようにという予算はあった

経験 年数	経験（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意義	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
		【事業の横のネットワークを作る重要性と効果性】 # 私、もほかの圏域の人に聞いたりしてみたり、こういうふうに行っているみたいだよとか、つなぎをしたり、横同士話せるような機会を持ったりして、そこは各圏域でやってみていたのがすごかった	【推進会議の設置】 【事業のアウトカムとアウトプット評価】 # 推進会議というのをつくってしまっていて、計画づくりと、あと評価もアウトプットとアウトカム指標で介護3以上の人をふやさないという目標に立って、認知症の、それで高齢者専門の研究機関にも委託して、そのグループに参加した人とそうじゃない人の比較をやつて、効果ありというふうには出たんですけども、そういうことでもその計画で評価していくというふうにはあらかしめ最初に立てていたので、それを会議で報告していただくこと 【関係者が現地に出向くよう一緒に行動すること】 # 一緒に行ってくれませんかみたいなに思ってますか、それとも、もう行くことになっていきますというふうに言ってます。この地区の責任者はあなただです。あなただにすがるときがありますという感じでした 【事業の横のネットワークを作る】 # 私、もほかの圏域の人に聞いたりしてみたり、こういうふうに行っているみたいだよとか、つなぎをしたり、横同士話せるような機会を持ったりして、そこは各圏域でやってみていたのがすごかった	【関りのサポートで一人という感じがなく仕事ができる】 # 上司も一緒にいたり、隣の方、副担当の人と一緒にやってみたりしたので、あとは出先の保健師さんとも一緒にやってみたりしたので、余りそんな一人という感じはなかった # すごい頼もしかったですよ、市町村の保健師さんもお先の保健師さん 【県の事業へのバックアップ】 # 本来に共通の課題なものですから、何かそういう新しいことで県もバックアップして、全県でやるんだというの後押しに # あと本県は高齢化が先行しているんで、認知症対策案も特に課題があって、県としても重点事業で上げたという共通目標が立てられたので、バックアップしてくれました # 重点だから何年間限定で、重点的にそこを別のところから持つてきて上乗せするという仕組みがあって、自分で手上げをして、いろんな関係部局とか取組とかやりとりしてやっていくって難関を乗り越えるところとかなんか通ったという。 【グループ運営のアドバイスしてくれる市町村保健師】 # これどういうふうにしたら、この活動が続いていくんだらうかと思ったり、そこ市町村の保健師さんだったり、そのグループのファシリテーターをやっている人だったりすると、そういうのはしばらくはうまくいけばいいよとか、ここの人を少しおいてあげればうまくいくよとか、そのグループに長く入っている人はよくわかっているんで、こうするといいたとか、放置しておけばいいとか、そういうアドバイスがある人だったので、かがわっている人に教えてもらった
			【地区組織活動】 # いろいろ地区の組織育成をやられていたり、町村に入っているって勉強になることのほうが多かった # 平成10年ぐらいからは業務分担制になりまして、地区分担のころは比較的市町村と一緒に動くことが多かったんですけども、業務になってからは余りその地区組織活動というのは余りなかった	
		【障害児の個の事例をつないで、共有する場が必要】 # 地区分担のとき、いろんな赤ちゃんからお年寄りからいろんな方を行かせていただいていたので、本当にいろいろ教えていただいたり、特に県なので障害を持った子が多いですけども、点で孤立しながらみんな集いつばい知識を持っているんだけども、こんなにそれぞれ頑張つて、そしていい知恵も持っているのに、共有できるような場がないのかなという疑問というか、そういう子をつないでいけるんじゃないかなというのを思いついて行っていました		

経験 件数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意義	学んだ技術	外的要因（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
や 願 つ 和 て い る こ と	健康教育	【対話型の教育活動から本当の課題が見つけれられる】 # 一方的な講演会ではやっぱり何から何も伝わらない感じなので、対話型というか、思っていることを引き出しながら、こちらも勉強させてもらいなからやると、本当に困っていることとかやりこがが見つけれ、次につながるような教育活動ができるというですね	【健康教育における動機づけ】 【ニーズの引き出し】 # 小規模のスタイルがあるといいなというのがあったので、そのために動機づけをして、意見を聞きながらアンケートもとってグループにつなげていきたいというのが先にあったので、仕組んでいったところもあるんです	
	地域診断	【必要性の認識、エビデンス重視】 # 本当その必要な計画とか、見せるとき、予算をとるときとか、そういうために使っていました。必要に応じてというところ # その裏づけが欲しいという感じでやっています # いろいろなデータは加工して見せる。見せたいがためにやっていた # 今回の認知症でいうと、予算をつけたら、計画を立てるときにも地域ごとにどれくらい発生頻度があって、必要性はどのくらいかというのがあったので、結果どう見せるかという着地点があって、そのためにいろいろ資料を集めていって加工してプレゼンしていくというよう な、欲しいものに向かってつくっていくというような感じ	【予算化のためのプレゼン】 【データの加工】 # 今回の認知症でいうと、予算をつけたら、計画を立てるときにも地域ごとにどれくらい発生頻度があって、必要性はどのくらいかというのがあったので、結果どう見せるかという着地点があって、そのためにいろいろ資料を集めていって加工してプレゼンしていくというよう な、欲しいものに向かってつくっていくというような感じ 【データのネット検索】 # 資料は、昔はいろんな紙で拾っていくということですけど、今はもう全部ネットで検索できるもので調べてやっています 【既存データの活用】 # 市町村からもらわなくても、既存のもので十分できました	
	ソーシャルキャピタルの醸成に役立つと思った研修や人材育成ガイドライン 保健師の話し合う場、勉強会	# 直接これが響いたというのは、余りびんときません # そこで余り得るものは、こういった活動では余りテーマではなかった		
	学会の発表			【大学教員からの勧め】 この事業に深く関わってくれた先生に発表を勧められて 【学会参加のための費用の確保】 学会に行くときの費用とかいうのは、どこからでるんですか。職場から 需用費の旅費から工面
	自己学習	【目の前の業務が動機づけ】 # 常にこれ続けてやっていくものは余り少ないんです。本当その業務に応じて必要だからというので調べると、もういろんなところに聞いたり、調べたりはするんですけど、ずっと保健師としての業務のスキルアップのためにというのは勉強不足だと思います # 目的とか目の前に対象者がいてとか、そういうのがあると、わつとエネルギーが湧くので調べられるんですけども、自分のスキルアップのためにというのは苦手ですね。		

経歴 年数	経歴（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意義	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
	保健師としての姿勢	【必要なことへのお手伝い、下支えが保健師の役割】 # 余り保健師だからというのは余り気にしないようにしているんですけれども、さっきも言ったんですけれども、本当に必要なことを求めている必要なお手伝いをお手伝いするというか、下支えするというか、そういう役割、仲間というか、そういう意味です 【広大な県内で、どこでもみんなが元気で格差がない暮らし】 # 県内はとても広いので、みんなとこの地区にいても自分らしく元気でいられるようにしていきたい。余り格差がないようにというふうに思います。 【暮らしの基盤は健康、健康のための仕組みづくりが仕事】 【黒子の役割】 # 余り大きい役割は全然ないんですけれども、やっぱり健康部分のほうだと思えます。どういふふうに暮らしたいという希望もあるんだけれども、そのためにやっぱり基盤になるのが体、心の健康でしようから、その部分の下支えですね、やっぱり、仕組みづくりというか、仕掛けづくりをする黒子のような役割なのかなというふうに思います。 【やっぱり保健師】 【保険にも医療にも福祉にも精通している人材】 【自分で保健師と意識しなくても保健師を雇い出す】 # 保健師として、自分自身保健師というのを余り気にしてというのはないんですけど、ただ、出ちゃいますね、保健師というのが、余り意識はしていないんですけれども、今回の震災のときなんかは健康を守ろうとか、そういうつもりで言うて余り保健師という意識はしていないんだけれども、いろんな職種の人が入ってきてたりいろんな人が入ってくると、やっぱり保健師だったんだなということ等つかれるというか、本当に福祉も医療も保健も精通していろんな災害ときと使える人材は少ないなと自分も含め、仲間もすくなくいい職質なんだなというふうに再認識したところです。保健はしといていないんだけれども、やっていいたら気がつくというか、かもし出ちゃっているという感じですかね。 【腹を据えて、長期展望で住民の立場に立つ】 # やっぱり住民の立場に立っていると思います。ほかの職種の人から比べると、腹がすわっているというか、ほかの職種の方とどうしても短期間の視点が多いんですね。でも我々だとずっとこの分野でやっていくものなので、速い先の10年、20年を先を算たような仕事ができるし、話も通じる中で、今ここをやろうというのが共通認識で話ができます。		
	人材育成についての考え	【経験が語れる保健師サポーターの下で実践を積むことで力量形成ができる】 # 今、私、ちょっと現任教育の担当なんです。今回この機会をいただいで、自分もまとめてみたんですけれども、県で現任教育の力イットラインをつくったり、OJTをつくったり、研修もいろいろやっているんです。やっていってるんですけれども、本当にこれ保健師のこういう力量形成って、いわゆるお勉強、研修というよりは、自分の担当する業務を一旦責任を持たせて、深く入り込んで、そこを私余り先輩から県の保健師の先輩からなるほどと思うようなことは市町村の保健師さんから聞くことは多かつたんだけれども、そういう担当業務を持たせながらも思えるような経験が語れるような保健師がサポーターをついていて、担当業務を深く経験させながら、アドバイスをしていくというやり方をしていくと、力量形成につながるというふうに思いました。	【県保健師は市町村保健師から学ぶ】 # 県だけじゃなくて、やっぱり市町村の協力がなければいけないんだと思うんです。市町村と一緒にモデル市町村とかお世話になりながら、市町村の保健師さんと一緒に、市町村の保健師さんからアドバイスをもろうことも多いと思うんですけれども、入らせてもらいながら経験していく必要がある	

1	緒言
2	目的
3	方法
4	結果
5	考察
6	提言
7	結論
8	引用文献・参考文献
9	資料

経歴 年数	経験（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
		【統括保健師によるスーパーバイズできる仕組み】 # そういう仕組みですよね。今、新任期にプリセプターもつけているんです。統括保健師も管理期でつけているんです。けれども、そのプリセプターがお師さんの人なんですね。比較的若い人。なので、プリセプターを超えた統括あたりなんですよね。やっぱりそこ、長年の経験でいうところ。もう少しそこをプリセプターが指導するものプラスそこからスーパーバイザーでできるような仕組みが多分今まで薄いんではないですか、県としては。 【退職までにノウハウを伝授したい】 # 地区組織活動の経験が豊富な熟練保健師が退職するあと10年の間に、これまでのノウハウを伝授していかねばならないような危機感があるって、この10年の間に何とか伝えたいという思いがあるんです。なので、これをまとめるからプリセプターだけじゃなく、その統括とか、50代くらいの方のスーパーバイザーをもっと入れていくような仕組みが必要ですね。 【意識的に掘り下げた地区組織活動の実践を】 # やはりこの地区組織活動という、これから本当に大事なところなんだしやっぱりこれ、今のその現任教育の私のやっているところというのとは、本当に最初の5年以内は新任期の立ち上げのころですけれども、ある程度通り一遍のざらっと広く深くできるようないうことでやっているんですね。そこを少し掘り下げて地区組織活動に深く入っていくようなところを少しやっぱり意識的にやっていかないといけないですね 【保健師は面白い】 # おもしろいと思うし (生活というのにすごく軸足をしっかり置いて) 【熱すぎず、新人に合わせた人材の育成】 # 何か開花させてあげたいなと思う新人もいるんですけども、なかなか難しいですよね。経過してもいかんしなななんて思ったりして	【地域に入りこむ手段としての地域包括ケア】 ちょうど地域包括ケアなんか今動きがあるので、あの辺は本当に入るいいきっかけになると思うんですけど、保健福祉事務所も	

表 6 事例 5 から抽出されたカテゴリ—

経験 年数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意義	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域・
	【N 保健センター 地区担当保健師として市民とともに活動した経験】 # センターの保健師であったところに、自治会を回ったり、自治会長さんとお話しに行ったりとかが、 # 企画運営みたいなことを市民さんの協力を得て運営しているんです。その企画運営委員会という組織になるんですけど、そこでもいろいろ話をしたりとか、一緒に事業をしたりとかしているんですけども、そういういろんな人と話をしたりとかしたことが、 # 基本的に立候補してなってくるんですけど、それよりも、やはり自治運営委員会とか、地域の中でリタイアした人で結構行政に動いてはった人とかもいますし、あと大学で薬剤師の講座を持っている先生とか、いろんな地域の財産になるような人がボランティアでやってくれているんです。 # そういう方々とかいうようなお話をしたり、一緒にじゃあこんなことをしようとかか、そういう経験というのは、	【市民さんは一生懸命考えていると応えてくれる】 【市民は信頼できる】 # 市民さんというのは一生懸命に考えていると応えてくれるということだから、一緒に何かやると、次、何かしようとかまた言ってくれどとか、そういう何か市民さんの心の動きとか、そういう感覚が何かわかった感じがしたんです。結局、信頼関係って、やる気があるって、一回、一緒に何かしたら物すごくわかってくれると。あとはもうこっちが何かいったら、すぐぱっと反応してくれるんやとか、それを乗り越えたら、基本的に市民さんは職員と同じくらい信頼できると思っています。	【地区担当保健師としての活動】 【地区組織活動】 【地区担当保健師として自治会を回る】 【地区担当保健師として自治会長の話を聞く】 【地域の核となる住民の声を聞く】 【住民と一緒に活動する】 【住民活動の核となる人との出会い】 【住民活動の核となる人と一緒に活動を企画】 【住民を巻き込み、地域のつながりの中で健康教育を実施】	【①地区担当制】 【②公民館と保健師の事務所が同じ建物】 # H 市は R センターという大型公民館みたいなのが 7 か所あるんです。ここも R センターなんです。この中に行政サービスコーナーと、施設があるんです、職員業務の。 【①活動の意味づけをしにくれる上司（保健師の課長）】 【①判断できる助言をくれる上司（保健師の課長）】 【①一人一人の保健師の特性に応じた指導ができる上司（保健師の課長）】 # 課長のもとで仕事させてもらっている期間というのは本当に勉強になるという方が、いろんなタイプの上司の方からいっちゃるんですけども、Y 課長は本当にぶんなんの会話の中でも、私たちがしゃべっていること、それはあなたこういうことを言ってるんだね、ほんならこういう視点で考えてみたらどうか、すごくひらめきを与えてくれるという方が、本当にやばいなんです。 # まあ失敗してもいいよと、失敗したらやめたらいいんやんとか言ってくれから、こちらもよしと。失敗するわけにはいかないけれども、でもそれぐらいの気持ちで考えたらいいんだなというので、楽しく仕事ができるんですよ。いろんなことに挑戦しやすくなるんですよ。 # 市民さんと仕事をするのはきこきこつとすとと厳しい面もあるけど、その保健師のキャリアウターに合った方法というのが実は多分あると思うんですけども、それを単一の方法で、自分と同じようなやり方だということを言われる上司のもとでやったら、厳しかったりするんじゃないかと思うので、やはり一人一人の特性に合わせたやり方がある程度認めてくれて、大きな器で見てくれる人のもとでは、こういう市民さんを動かしたりとかという仕事はやりやすかったなというふうに思いました。
	N 保健センター 【健康ウォーキンググループの立ち上げ】 # N 保健センター時代に健康ウォーキンググループを立ち上げからボランティア活動まで # 保健センター時代に、単一の、一つの市民グループと一緒に立ち上げ支援から協働でいろんな地域のボランティア事業をつくっていく	【住民の力を生かさせなければもったいない】 # もったいない。 # それを言うてくれたりもしてたわけですよ。こちらがその声を無視しちゃうというのは、言うてくれるねんから、もったいないという事ですかな。もったいないし、そのままにしてたらあかんと思ったりはしました。	【健康教育からグループ化の立ち上げ】 【住民グループが住民の力で地域で活動する】	

経歴 年数	経歴（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
20 年 目	【健康日本21 推進のため住民と協働】 【連携から協働へ】 # これまででは各保健センターであったが、保健所が育成しているいろんな種類のグループがあったんですね、食育であったり、精神のほうであったり、健康増進であったり、それらのグループを年に3回ぐらい集まってもらって、活動報告をしたり、あと研修をしたりぐらいいの感じで運営してきたんですけど、それを協働で企画運営をして、その中で事業にも取り組んでいくようにしたんですね。 # 市民連絡会というのは、健康日本21のH市版の推進を目的としているんですけども、ちょうど私が健康づくり課に異動した年に、健康日本21の第2次のH市版をつくらなさいといけないうちなんです。そのときに市民連絡会の人たちと一緒に、少し協力してもらって、一緒にH市版第2次をつくったんです。その次の年に、じゃあ推進するに当たって、今までの連携とか協力ということではなくて、一歩進んだ協働というのをやっていきなさいということ、新たな協働の推進ということ。 # その中で事業もしていこうということになって、クラブを作ってちょっとインセンティブみたいな事業をしてみようということになったんです。	【行政主導ではなく市民が主体にでなければいけない】 # 今までの市民連絡会というのは、行政が主導で運営していたので、行政に物申すみたいな感じで、縦割りの問題とか、保健センター間の格差のことについて割といるいる物申すの感じの、余りいい雰囲気じゃなかったんです。 # 要望までいかない、ちょっと文句言う程度の、こういう目的でうしてはいからという前向きな要望とはちょっと違う感じだったんですけど、その雰囲気を変えるために、行政主導はあかんなと。 # 今までは市民連絡会で話をしている雰囲気か悪かったんですが、会長を頭に立てて、司会運営をしていくことで、役員会の雰囲気というのがすごく協力的なんです、会長のために一肌脱がねばならないな。 # いい雰囲気になったら、いい意見もちょっと出さなくちゃねという感じになってきて、アイデアも、最初は役員会の中でも話してくれる人というのが決まっていた形だったんですけども、それがないだん回を重ねることに、みんながしゃべってくれるようになって、その中で事業もしていこうということになって	【住民の中で移となる人をリーダーにする】 # それは、市民の中で、今、会長になってくれるはっは市民さんなんですから、それは私がN保健センター時代に健康つオーキンググループを立ち上げからボランティア活動までを一緒にやった方なんです。 # その人がいいければ、そうですね。 # 誰か市民さんにやっぱり頭に立ってもらって、その人が求心力があって、かつ各グループのこともしっかりわかってくれている人じゃないと、これは絶対成功しないなと思ってんです。	【②住民が楽しそう】 【②住民が楽しそう】 # 楽しそうでした。そういうシートとかも自分でカスタマイズをして、めっちゃめっちゃ楽しそうなのにしてくださったりと。 # 役員さんとか市民の方からも続けてくれとか言われたんですけども、ちょっと自主的につないでおいでくださいと。また今年ありますから、それまでという形で。
			【市民が解決してくれる】 # 結構、市民さんとの間で、物すごく個性的な人で困ったりしても、結局市民さんが解決してくれたらいいんです。 # その企画運営委員の人の中で、なかなか親分肌の人に、今、こんな相談があって悩んでるんですけどなかなかいいつら、よしよしといて、何かちょっと案がく言ってくれて、住民さんの中の力関係がやっぱりあるし、うまくまとめてくれたりとかもしてくれるし、ものをつくっている中で結構しんどい思いをしても、結局市民さんがいるいるほめてくれたりとか、大丈夫だよと言って、局市民さんがいるいるほめてくれたりとか、やっぱり人生の先輩とお仕事することが多いので、何か助けてもらっていると思います。	【話し合える職場】 # それはやはり上司の人とか、同僚とかと話をして共感してもらえたり、話すことですごく解消できている部分は大きい。

経歴 年数	経歴（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
		# 具体的な話し合いができるようにしないと、そのためには体制というのを、少し協働でいくための体制であったり、話し合える体制というのをつくらないといけないと思って、会長はまずその方ありきで考えていて、役員会みたいなところをつくることになっていて、そこでちょっと主要な人にかつうつお互いにわかり合っていて、そこで最良交換がいろいろしているから、全体の会議の中でこんなことをお話ししたりこんなことを聞こうとか、そういう構成ができるような役員会をまずつくらないといけないという相談を、その会長と、会長をちょっと支えるような方々がいらっしやるんですけど、その方々と非公式に半年ぐらい話し合いを重ねたんです。 # それで、じゃあ役員会をしようとか、それを全体の市民連絡会の中で、ちょっとこんなことを考えているんですけども、役員会に入ってくれる方いらっしやいますかといったら、いて、7グループさんぐらいが名乗りを上げてくださって、それは名保健センターにまたがっているように、こちらもちょうとお願いとお願いはから来てもらって、そういう体制をつくることのできたんです。	【箇々の住民の力を見る】 【住民の力を引き出す】 # せっかくいろんな魅力的な力を持つてはるのに、そこを何か引き出せるようにできたらすごい力になるし。 # グループもそうだし、でも個々人がすごくいろいろな力を持つてはって、これはこの人がめっちゃ得意とか。 # 人柄であったり、発想力がこの人すごいとか、人をまとめるのはこの人がすごい引っぱってってくれるとか、この人は地域に物すごい根を張っているから、いろんなことを地域にわたって発信していつてくれるとか、それとかこの人はいろんなところの部長というか、関係機関にネットワークがあるとか。 # 自分が担当になったとき、その中で何かその人材とかを生かしたいとか、そういう何か楽しい発展形というものを引き続き伸ばしたいとか、そういうような。	# こんなことがあったというのには結構いっぱいしゃべってます。
	【地域診断】		【地域課題を住民と共有し、目標を共有】 # 地域診断を、地域でこんな問題があるというよりは、こうなりたというほうが大きいんですね。そういうのをいろいろ話したり、市民グループの人たちと話していく過程というのが大事というか、うまく言語化できないんですけど。 # そこには数であったり、自分たちが行って、こんなような問題があったりするよねとか。 # 自治会回りであったり、さっき言った祭りのことであったりもそうなんだけど、結局、こんな問題がありますよね、こうなりたいんですよね、だからそれと一緒にそうやそうや、そうやとかいいながら、それを形にしていくというのが、その過程を一緒にすること、ということが、ソーシャル・キャピタルをつくっていくためには、やっぱり私たちの仕事はその過程がなくなってなんじゃないかなと思うんです。	
	【健康教育】		【目的をグループ化においた健康教育】 # 健康教育、それはOBとかにつなげるとか、そういうことですかね。それとか私たちがちょっとハイリスクの方の健康教育とかでかかわった後の継続とか、市民グループさんにつなげたり、それはあるかな。 # もう趣向的にですね。	

1	結	言
2	目	的
3	方	法
4	結	果
5	考	察
6	提	言
7	結	語
8	引	用 文 献 ・ 参 考 文 献
9	資	料

経験 年数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意義	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
	【PDCA】		【PDCA サイクルをまわす】 # 評価シートというのを、毎年、各保健センターでも、保健所全体としても、した活動、する活動を企画であったりか結果評価というのをまとめて報告したり、たいていもらおうという機会を設けているんですけども、そういう取り組みというのは役に立っているなとは思います。	
	【研究発表・活動報告】		【研究発表・活動報告】 K 協会（全国・都道府県） # モデル事業を K 協会の I 先生がしておられた。 # グループ支援モデルみたいなのは、それは 2 年ぐらい取り組ませていたいて。 # K 協会の方がいろいろな場を設定してくれて、いろいろ活動の報告をさせてもらったり。 # ざっとしか通せてないぐらいで。	
	【雑誌の購読】 【保健師連絡会】 【自己学習】			【①先輩の姿に頑張ろうと思えた】 # 自己学習ではあんまりないかもしれませんが。でも先輩方が本当に過酷な状況の中でも自分をコントロールされたりとか、何かされている姿であったり、上手にやっていたりとか、何かやっているなという部分は。 # 自分が悩んでいるようなこと、もっと大きな悩みとていうか難しい状況にあっても、それは自分で整理してちゃんと仕事してらっしゃるなとか、そういう姿は、頑張らないと。
	【めざすもの】	【手足を使って関係を作る】 # 本当にきれいな関係ではなく、がつつりお互いにその人らしさを出しながら、いろんなことを一緒にやっていくという感じを大事にしたいなと思ってます。情報を提供するとか、きれいに調整するとかいうんじゃないくて、本当に信頼とか一緒に取り組んでいくためには、何か一緒にやらないと、そういう関係はつくれないなと思ってるので、手足を使って関係をつくっていきななと思っています。 【一人じゃないと思える地域にする】 # やっぱり安心してその地域に住んでいられるということかなと思うんです。一人じゃないだと思えるような地域というか、そのために。 # 何か大きな困ったことを抱えたときに、それをちょっと気づいてくれるような地域社会であったり、これは発信しないとなかなか難しいかもしれないですけど、発信したときにそれをちゃんと捉えて、何らかの助けをしてもらえるというような地域になっていけたらいいんじゃないかなと思います。		

経験年数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
	【地域での役割】	【関係機関とつながる】 【課題を地域で共有】 【解決するしくみづくり】 【解決するための施策化】 # やっぱいろいろな問題を聞けて、それを解決というか、和らげるためにいろんな機関とかつながりながら、それを広く、その一地域とか個人の問題を、みんなにこんな問題が地域でありますよというのを共有して、いろんなところとつながりながら、それを解決していく仕組みであったり、ものによっては施策化みたいなことをしていくのが行政の保健師がせなあかん役割なのかなと思うので、その辺ですかね。		
	【保健師として目指す活動】	【住民に信頼してもらえ】 【そのための方法を持っている】 # 何かもう日々あしたのことかわからないみたいな感じの仕事をしながらはいるんですけども、やっぱり住民さんに信頼してもらえような力をつけていきたいな、凄然としてますけど思います。そのためにもいろんなことを知っておかなあかんのかなと思うし、そのための方法論というのもしるんなら引き出しを持っておかないといけないうちやろなと思っています。		
	【保健師の強み】	【市民を信じている】 # 強みは多分、私はきつと市民さんを信じてるとというのが一番の強みかもしれません。 # 今のところ、かわわってくれてくれている人はすごく信頼してる。		

1	緒言
2	目的
3	方法
4	結果
5	考察
6	提言
7	結語
8	引用文献・参考文献
9	資料

表 7 事例 6 から抽出されたカテゴリ

	経験（事業・取組・体験（類似を含む）） 【保健師活動とは生活や家族を見ようということを学んだ経験：平成 6 年】 # リハビリ教室では生活や家族を始めるために、保健師が目的をもち、対象となる方に声をかけて集まってもらい、住民さんと一緒に云を運営し、取り組んだ	意味づけられた意識 【保健師活動の楽しさ、保健師活動とはこういうことなんだと実感】 # リハビリ教室では家族の方と触れ合うことが多く、大変さや楽しさを教えていただいた # 保健師活動ってこういうことなんだと、病気だけでなく、生活、地区組織でやることとかかわりが深くなりますよね # 病気を克服するというより、生活を見る、家族を見るということが勉強になった	学んだ技術 【家族も含めた活動】 【生活に関わる活動】	外的要因①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域 ①【事業の目的に沿った活動の展開】
リハビリ教室				
介護予防体操	【市民を主役にした自主サークルの立ち上げ：平成 15 年】 # 介護予防事業を各地域に出向き行った。事業終了後、最初から担い手をつき、自主サークルにつなげていった	【市民が主役となるための取り組み】 # 市民が主役になるような場、集まりが大事 # 無理で来なくても継続しない。 # おんなが主役ということはお客さんにならずに役割感を得られるよう配慮すること	【最初から明言し、期限をきめて支援する】 # 地域に入る時には、自主サークルを立ち上げたい、そのために 3 ヶ月間保健師がお手伝いしますと最初に明言した。 【役割を作る】 # 負担にならない程度の役割感	
健康サポーター育成	【方法論なく地区組織の育成はできないという経験：平成 18 年ぐらいい】 # 地区組織活動育成・支援の失敗談 # 住民組織の方から健康サポーターがあればいいねと話しかけ、私も同じ思いがあったので一緒に健康サポーターさんを養成したんです # 6 回の講義にして # 養成はしたが育成できなかった。行政のお手伝いさんの活動でかわり自主的な活動にならなかった # こうしたいというのも正直なく、育てるノウハウもないまま # 健康サポーターがどのような役割を地域で担うというイメージを持っていなかった # 自主的にこういう活動をしていてくれたらいいなという思いだけはあった # サポーターが振っていて、私達も悩みモチベーションも下がってしまった # 3 年ぐらいで活動自体は消滅	【会のあるべき姿を見据えることが重要】 # 自主的な会として実施してもらうには、最初からビジョンをもつて取り組まなければいけない。養成だけでは自分たちでやりなさいと言っても無理である # やろうと言われ養成講座をすぐに実施しましたが、事前の話し合いが少なかつた。何のために、どのように地域で活動するか見据えて実施すべきだった # 会として市民の方が主役になるようにするには、あまり最初に仕切ってパスしてもためめなんだと、その辺は気をつけようとしてくべきだった	【会の方向性の共有と自主性の尊重】 ・ 最初に自主的な会ということを伝える ・ 保健師が仕切ってはいけな ・ 会の目的や活動について話し合い、方向性の共有に時間をかける ・ 市民が主役になるために重要なことは自主性の尊重と引き出し方	
健康教育	【多職種連携で活動の広がりを経験：平成 21 年】 # 包括的健康づくり事業 # 喫煙率が高いため、若い年代である高校生に健康教育 # 無煙煙草を募集して、高校生や保健所、病院、健康づくりサポーター等の団体に声かけメンバーに入ってもらった # たばこのない街にしようとお祭り会場で市民に PR # 市立病院の方がマスコットのたばこマンとか、高校生がホスターを作ってくれた	【ネットワークの重要性】 # 連携することによっていろいろなアイデアが出て、活動に幅が広がるということをもっと体験したことでその必要性が認識できた # 応援してくれるネットワークがあるという、それがすごく保健活動の強み	【ネットワークの活用と強化・地域への愛着醸成】 ・ 白ころの保健活動のネットワークを活かす ・ ネットワークを強化する取り組み	②【地域のネットワーク】 # 応援してくれるネットワークがある

健康づくりを推進する茶話会	経緯（事業・取組・体験（録以を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域
健康づくりを推進する茶話会	【住民主体の活動の経緯：24 年目】 （きつかけ） # 市民代表の K さんから希望の活動アイデアをいただくと、いろいろな団体と健康について活動している団体と共有し、ばらばらになってくる。やっぱり住民主体で声を出さないためだよね。何か活動したいから一緒にやりましょう」と提案をいただいた （キーパーソン） # K さんは NPO 法人市民活動支援センターで市民活動を支援する仕事をしていた。当時から健康に関心があり、# ラジオ番組で保健師ジャーを作ってくれた。 # 元市役所職員で、市役所に求やする立場だった。提案に来た時は NPO もやめられていて一般市民。 〈活動内容〉 # 最初は生活習慣病予防を市民と一緒に考えれば良いなぐらうのまっかつた。今はすごいスピードでどんどん広がって活動しています。当初気軽に茶を飲みながら健康づくりを話し合おうという形が始まった。これが活動母体。 # 今はもう会として組織になっています。代表が K さんで、茶話会がいろいろな健康づくりを地域に発信していく。活動として喫茶店だったり、今度は施設で笑いの講演など多様。	【日頃の課題意識と住民の提案を結合】 # 住民主体で取り組むのはすごいこと、一緒に考えることができたからという思い # 保健師も健康課題、生活習慣病対策でどのようにアプローチしていいのかわかっていた 【地域のキーパーソンとの信頼関係が活動につながる】 # 私達がもてこ信用している方で、K さんが来たってなったら頑張るなという # 何かかんがえかけを作っている K さんだった # K さんはいくつか市民の方を紹介してくれるキーパーソン 【個人・家族から地域全体へつながる】 # 最初は 1 回でお茶をのみなから、自分の健康に関心あることを自由に話しそで生活習慣病予防についてみんなで意見をだし合ったり講演会とか開けばいいと考えていた # 自分だけでなく地域全体が健康になったほうがいいねと会員みんなの思いを共有 # 住民のアイデアを大事に、活動をしやすいように支援して、活動の輪を広げ、地域全体の動きにしていきたい # 自分達が仕切ると住民の自由な発想やアイデアが出なくなるため、こうなるとはいいとは言わない、ゴールを提示しない 【皆が対等に話せる場づくり】 # 業務ではなく自由な立場で話す。あまり仕切らないようにという考え。 # 皆が対等に自由にしゃべれるように、主役にならないようにしてきた。	【健康課題の分析と問題意識】 # 健康について講演など、何かするときは相談に来てつながっていた。 【地域のキーパーソンとの信頼関係を培う】 # 気軽に茶を飲みながら健康づくりをまず話し合おう # できるだけみんなが自由な発想を言ってももらえるように #KJ 法でちょっと健康づくりとは何かというのをまとめたんです 【気軽な場の設定・自由な発想を導き出す・KJ 法】 # 気軽に茶を飲みながら健康づくりをまず話し合おう # できるだけみんなが自由な発想を言ってももらえるように #KJ 法でちょっと健康づくりとは何かというのをまとめたんです 【住民の発言を受け止める・タイムリリーに健康情報の発信・保健師のネットワークを活かす・つなぐ・会の結束性を高める】 # 皆の発言したことを受け止めて # これが活動母体 # 連携をすることによっていろいろなアイデアが出た # 関係機関をつなげたほうがいいと思い保健師・市立病院・包括支援センター等に声をかけて徐々に広げていった。 # 笑いの講演会で茶話会のメンバーがみんなステージに立ち一緒に笑い、会場が一体になって笑いがあふれてすごい感動・・・ああすればいいなあと思った 【評価指標の設定と成果の可視化】 # 皆の気持ちは大事にしてまとめて返して、皆が思うゴールを目指す	①【保健師活動の』リハ・何とかがしたいという強い思い】 # わが町は健康寿命や平均寿命が下位。いろんな取り組みをしているのに結局結果が出ていないため、保健活動も引け目を感じる ②【保健師を支援してくれるキーパーソンの存在】 # いろんな市民の方を紹介してくれるキーパーソンで、すごく信頼している方

健康づくりを考える茶話会	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意義	学んだ技術	外的要因①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域
	〈転換期〉 # 今年度から保健師の業務として位置付けた 〈保健師の役割への疑問〉 # 保健師として会を支援する方向性を内部で話し合った # 保健師の保健師にも入ってもらうって、アドバイスしてもらった 〈目標達成への焦り・悩み〉 # みんなで保健師は成果をたさなければいけないと悩んでいた # 予算をつけ事業に取り組むといういろんなプレッシャーがある # 保健師の悩みは結果を出すこと # 市民活動というものもなんだと会員の方に教えてもらい励まされている 〈展期期における対応〉	【保健師の役割を再認識し業務として位置付け】 # 途中でこの会を支援することには保健師としての業務であり、会を育てる責任があると思えた # 今年4月から業務として位置付けた。支援する目的も明確にし 【保健師の立ち位置の再確認】 # 会がどこを目指しているのかわからなくなり不安になることがあった。どうしても自分達は結果を求めてしまう # 保健師の保健師さんが、会としての達成、ゴールを決めるのは保健師じゃないよって言うてくたさって、すごく案になったんです # 不慣れして爆発しても参加したみんなの財産にもなる # 結果として市民の活動として大事なこと # ゴールを決めるのは保健師ではなく市民と一緒に悩みながら、支援する、それが地域の財産になっているんだ。きつといいことなんだね 【会員の励ましを力に悩みを乗り越える】 # ある程度人が来ないと会の方も達成感がないのでは、市民の方もあまり興味が無いのではと気になるが、茶話会に来ている方たちは、もつとすごく広い目で見えて、たこえ1人でも2人でもいいから、長く続けよう、そんなに人数気にしてたらだめだと励ましてくれる # そこで悩んでKさんにも相談してという形 【目標は地域づくり】 # 事業を組み立てるときは目標を明確にし、そして方法論を考えてという仕組みで行っているが、この茶話会の場合は、地域づくりが広い意味での達成ゴール、 # 事業一つ一つじゃない地域づくりのなので	【継続しながら常に方向性を軌道修正】 【疑問を共有し保健師の関わる意味づけ】 【不安や悩みを市民と共有】 【活動の方向性が見えなくなった時の対応】	【外的要因①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域】 【保健師保健師も入って話し合い】 # 保健師として会を支援するのは何のためか、支援の内容や目的を内部で話し合った # 保健師保健師のアドバイス ②【茶話会参加者の励まし】 # 会の方がそんなに人数気にしてたらだめだよと励ましてくれる # 市民活動とはそういうものなんだと教えてもらっては励まされている # 価値観が少し違う。結果を出すことに焦っていない ①②【悩みを職場や会員に話せる】 # 悩みがあったら職場の人と話す # 悩みは会員の人にも話す # Kさんにも相談 # 会員は全然気にしていない価値観が違う
その他	【保健師は自分達の活動や仕事をPRするのが下手】 # 保健師は活動をPRするのが下手という思っ 【首長に保健師活動が理解され予算化できた経緯】 # 以前は庁舎と別な場所に保健師はおり、上司も離れていて、保健師が何をしているのか覚えていなかった # 私達は住民の方さえ理解してくれればいいと考え、上司に仕事の成果を積極的にアピールしはしてはなかった # ある上司が、そんなにいいことやってるんだたら、これはもう理事者に分かってもらわなきゃいけないということ # 普通は課長決裁で終わる企画でも、上司が市長のところに持っていき、成果をアピールしてくれた # 現在は市長や財政も理解し、予算もつくという効果が実現できた	【活動の評価とPRの重要性】 # 実施している活動を評価しそれをPRすることもすごく大事だ # 活動内容を上司や理事者や市民にPRし、理解してもらう 【モチベーションを維持するための仕掛けが必要】 # 何かに取り上げてもうと会の皆さんの頑張る気持ちにつながるの # で、そういう仕掛け、を意識するのも保健師活動 【保健師活動の見える化により政策へ結びつけることが重要】 # このように周囲にアピールすることは政策として大事だ # 住民の一部の方だけが理解し自己満足で終わるのはだめだ いいことは広げる、理解してもらおう働きかけ # 活動の成果を広く伝えるのは上に立つ者の役割と自覚	【広報・PR】 ・活動の評価師 ・活動内容の周知・PR 【モチベーションを維持するための仕掛け】 ・広報に取り上げる ・頑張る気持ちにつながる工夫 【活動の可視化・所属内のアプローチ手法】	①【地区担当体制の推進】 # 地区担当保健師が町内会長や地域のキーパーソンになるののころへ定期的に訪問し情報交換に努めている。
	【住民から褒められた経緯】 # 地域のキーパーソンになる人とかのころへ保健師みんなが定期的に顔を出しているんですけど、住民懇談会で行政の課長や市長に対して住民の方が、地区の担当の保健師さん頑張ってくれていると言ってくれた	【地域から活動が評価されることによるモチベーションの向上】 # ほめられることは大事だ # 活動が得えるようにすることは大事だ # 地区担当保健師は更に頑張ろうと意欲的になる	【上に立つ者の役割を認識】	

	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域
新人保健師研修	【新人保健師の職場内研修の経緯：平成 20 年】 # 地域の健康課題は何か、保健師とは何かを新人保健師に伝えたいと悲いから、保健師全員で勉強会を始めるようになった	【あるべき保健師活動・目標の確立・共有】 # 保健師全員で勉強していったって、新人を育てるなら自分たちも保健師の目指す姿をはっきりさせなければ伝わらない	【地域診断】 # 地域の健康を守る役割が保健師であり、そこに専門性があるので、地域の健康課題や目標を明らかにして、それを住民さんに伝えて、一緒に考えるのが保健師の役割 # 健康も含めてなんですけど、市民の生活している上での課題や現状を把握するのが保健師の役割	①【地区担当制】 # 地区に責任を持つ、自分の担当地域の健康課題をきちっと言える保健師 ①【職場における話し合える環境】 # 悩みがあったら職場の人と話をしている
保健師業務の見直し	【新人保健師研修をきっかけとして地域・活動の見直し：平成 20 年】 # 新人保健師の育成を通して地域活動を見つめなおした	【地域の課題をとらえた活動】 # 業務をこなすばかりで本場に地域として健康度が上がっているんだらうかと悩み出していた。 # 認識はされていたんですけど、じゃあ、どうやったらいいかと悩んでいました # 今までは業務担当と地区担当も持っていたんですけど、事業訪問するための地区担当だったため、自分の担当地域の健康課題をきちっと言える保健師、...そこを自指さないために	【政策提言する力】 # 提言したり施策したりする # 提言、施策化する力をもっと身につけてはいけない	①【新人保健師の入職をきっかけに活動を振り返る】 # 自分達も保健師学校で習ってきたんですけど # 事業の方に目がいいって薄れていて # 保健師は何だろうというのを考えた時、住民が主役だった。地域を何とかしたいなという気持ちがすごく強かった。 # 新人保健師の教育を機会に保健師みんなが熟成
自己研鑽	【業務としてではなく自主的に系話会に参加】 # はじめ、保健師が 3 人参加（主幹・係長・保健師）	【住民と解決法を考えたい】 # 健康寿命ファーストから抜けなければ、みんなが健康になってほしい # 住民の言葉を聞きたい # 住民と一緒に取り組んで解決法を見出していきたいという気持ちがあった	【住民とともに考える】 # 保健師としての役割は何かというの悩みながら、一緒に進んでいっている # ゴールを決めるのは保健師ではなく、この活動は、市民と一緒に悩みながら自分たちも支援しながらすすめていくもの # 一緒に考えることがすごく大事な	①【保健師の気持が一体となった】 # 保健師が一体になって、じゃあどうする、住民と一緒に取り組んで解決法を見出していききたいという気持ちがあった。

1 緒言

2 目的

3 方法

4 結果

5 考察

6 提言

7 結語

8 引用文献・参考文献

9 資料

表 8 事例 7 から抽出されたカテゴリー

経験 年数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
4	活動の引き継ぎ 【先輩からの引き継ぎ】 # 私がつくり上げてきたというのは、まだまだ少なくて、ある程度の取っかかりのところは先輩の保健師さんが築き上げてきたところやハントタッチを受け取ってきたというのが多いかな	【活動の引き継ぎ】 # 先輩方の保健師さんであったりとか、そういった方々が活動をしてきたことを引き継いで行ってきたことがほとんど		①【先輩の活動】 ②【地域の特性～愛育委員の活動が活発な歴史】 # 県は愛育委員さんという方がとても熱心に活動をしてきたことで # すごく古い歴史があって愛育委員活動の中でも積み上げてこられたもの
3	愛育委員の活動支援 【リーダーの発掘】 # その中で私が携わらせていただいた中では、その愛育さんの中でもリーダーになっていただける方の発掘であったりとか 【研修の実施】 # その方々の力を伸ばしていけるような研修会をやったりとか、 【一緒に取組む】 # そういった活動と一緒に取組んでみたりとか、そういったことはしてきただなというふうに思えますね	【活動していない住民が関心を持つ】 # 今まで愛育委員という活動をしていなかった人が、結構おもしろいなというふうな思ってくれたり 【活動する人が喜びを感じる】 # 愛育さん自身が、やっていてよかったなというふうな思っているだけ 【活動する人の自主性】 # こちらがお願いをしなくてもどうかこんなことをやってみたらどうかというふうな提案をしてきたったりとか、御自分の方の組織の中で動いてくださったりと 【全地域は難しくても一定の地域で変化するのはないか】 【この地域ならできるという勝負】 # 全地域は難しいのである一定の一つの地域の中で住民の方々の声掛けだったりとか愛育さんが訪問してくださることで、そのあたりの住民の方々の意識であったりとか、生きがいであったりとか、その辺が変化するのはないかという、今、勝負を言めてさせてもらっているところ	【住民の変化に気づく力】 【住民と喜びを共有】 【住民の提案を受け入れる】 【住民とともに活動する】	
現在（7年目）	自殺対策 【統計データでわかった課題】 # 自殺率が高いという統計のデータ 【自殺率が低いという統計のデータ # 自殺率が低いという統計のデータ 【住民に地域の現状を知ってもらう】 （自殺率低下に向けた取組） # その地域で何とかそれか少し軽減できたりとか地域を底上げしたことで、何か変化が現れるのではないかな # 今の自分の住んでいるところがどういいうところなのかというところとか、いうことをまず知っていただくきっかけに # 何か自分ができることはないのかなというふうに思っていたけれど 【住民が話し合える場づくり】 # 地域の住民の方々と話してもらええる場を設けられたり 【活動の発展】 # 実際に訪問に行っていたりとか、こういうのがあつたというように声掛けをしていただくつたり （アンケート調査） （現任進行中）	【活動のモチベーション】 【活動の評価】 # 結果がいい方向に傾いていると、また愛育さんも、ああ、やっていてよかったなというふうな思ってください # 自分の住んでいる地域に愛育がわいて、もっともっと住みやすく、みんな笑顔になって暮らせる地域づくりをみんなで作っていくというモチベーションにつがるかなというふうにも思っていますね、今取り組んでいるところではあります # 住民さんがどういいうふうに変化したかというアンケート調査を、今とっているところなんですけれども	【地域の統計データ】 # 県の調査の中でわかった 【結果がよい方向に向かうことで活動のモチベーションが高まる】 【活動評価】	②【愛育委員の活動の歴史、実績】

経歴 年数	経験（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
3	活動のきっかけ 【先輩から受け継いだ】 （発端はわからない） # どの方が発端になったのかというのはわからない ですけれども # 先輩方が住居さんの声を拾い上げて、どんなにせん といげんなということでは始められたということを受 け継いでました 【他の地域の保健師の活動】 # ほのかのところで活動をされている保健師さんから、 その地域の状況を伺う # 保健師ジャーナルとかで書いてあると、すごく興味 があって見たり # 県でも保健福祉学会があり（中略）興味があって聞 いたりとかはしています 【先輩のかかわり方、展開方法】 # 引き出し方がうまい # 意図に聞き出そうと思ったら、まずその方と話がで きる関係にならないといけない # 聞いていただけ終わるのではなくて、聞いてこの人が 今必要としているのが何なのか # あの方とつながったらいよいよ向うに向くかもしれない # あの方にはここで一歩家から出てきて、ここから 過ごしてもらったら、この人にとってはいいかもな	【この地域をどうにかしなくては… という思いを代々受け継ぐ】 # 前任の方もその思いを引き継いでおられましたし、そういう意 図を持って今があるんだということも 【成功体験によって元気になる】 # そこに住んでいる方だったりとか支援されている方のモチベー ションが上がるというか、そういう経験とか体験とかがあると、 どんどん次々発展してくださうし、明るくなっていくというかん がえ、一人一人の成功体験じゃないけど、そういうこととかプラス の体験が重なっていくと、やっぱり元気になっていくのかな	【書面に残して引き継ぐ】 【経緯と目的を明確に記録】 # 書面として落とされるというか丁寧書きに、引き継ぎという中 には入っている # なんで今これをしているのかという経緯がそれに記されていた ので、今年はここを取り組むんだということところが明確になっ たのもあって、私は引き継ぎやすかった 【地域特性に即した活動】 # 地域によってその地域の環境であったりとか地区の特性みた いなものもある	①【先輩が残した記録により活動を引き継ぎやすい】
4	SC に関して勉強したこと 【先輩のかかわり方、展開方法】 # 先輩の実践を見る	【先輩保健師の影響】 # あの前輩のこういってところを私も取り入れていこう # なんとあの先輩が便利していくと事がどんどんうまく進んでい くんたろうとかいろいろも見ていると、そこから何か溢れるもの がないかなというふうに思ったり # 私としても住民の方の役に立ちたい # 役立てる人間になるためには、自分はどうあるべきか考える 【他の職種や組織の人に学ぶ】 # 先輩方だったりとか先輩に限らずほかの業種の方とか組織の方 とかもいろいろやるんですけれども、その方々のいいところとい うのは、どんどん吸収していきたい	【情報収集から技を盗む】 【情報を収集して判断】 【計画を立てる】 【構成員】 【判断力】 【動かしていくスピード】 # 情報を収集して判断をして、次へつなげたりとか計画を立てる という構成員という判断力というか次に動かしていくという、 そのスピードも全然違うな	①【先輩が残した記録により活動を引き継ぎやすい】 ②【先輩が残した記録により活動を引き継ぎやすい】
3	先輩の実践を見る	【先輩保健師の影響】 # あの前輩のこういってところを私も取り入れていこう # なんとあの先輩が便利していくと事がどんどんうまく進んでい くんたろうとかいろいろも見ていると、そこから何か溢れるもの がないかなというふうに思ったり # 私としても住民の方の役に立ちたい # 役立てる人間になるためには、自分はどうあるべきか考える 【他の職種や組織の人に学ぶ】 # 先輩方だったりとか先輩に限らずほかの業種の方とか組織の方 とかもいろいろやるんですけれども、その方々のいいところとい うのは、どんどん吸収していきたい	【情報収集から技を盗む】 【情報を収集して判断】 【計画を立てる】 【構成員】 【判断力】 【動かしていくスピード】 # 情報を収集して判断をして、次へつなげたりとか計画を立てる という構成員という判断力というか次に動かしていくという、 そのスピードも全然違うな	①【尊敬できる先輩の存在】 # 尊敬できる先輩方が周りにいるのはすごく自分の もありがた
2	家庭訪問	【同じ悩みを持つ人の集まりに誘う】 # 肩肘不安が強く、おきさんにも発達におくれが あったりとか、ちよっかかわりが苦手とかがあった て（中略）同じ悩みだったりとかが、思いを寄せてい る方の集まりにお誘いをしてみたりとか、そういう ことは聞いていたことがありますがね		

1	緒言
2	目的
3	方法
4	結果
5	考察
6	提言
7	結語
8	引用文献・参考文献
9	資料

経験 年数	経験（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意義	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
経験が浅かったころ（20〜30歳代）	〈旅行経験で母親が集まる場づくり〉 # そういった会みたいなのを立ち上げて、やり方を試行錯誤していたところからそういった経験がありますね 【参加者に変化】 【発言できるようになる】 【SOSが出るようになる】 【自分の気持ちで伝えられるようになる】 【集める事業で初めて担当に】 # なかなか自分自身の思ったことを言えなかった方が、ちゃんと発言ができるようになっていったところは、すごい変化だなというふうには気づきましたね。なかなかSOSとかも出せなかった方が、ちゃんと訴えられるようになってきたとか、自分の気持ちを伝えられるようになったとか、変化が現れたのは、大きいなというふうには思いました	【同じ悩みの人が集まる場の必要性】 （立ち上げにはかわかっていないが、先輩から聞いて） # 多分他の保健師が声をかけて、それに市の保健師さんも同乗されて、じゃあ、うちでというふうな形で始まったと 【住民の変化から保健師も学ぶ】 【自信がついた】 # そこから情報を得られたりとかすると、少し症状がほぐれて、また来てみたいなというふうには思われて # そういったお母さん同士のかわり方を見ることで、実際に経験された方の話を聞くことで、こんなに気持ちが和らいでいくんだなというのを私も（気づいた）	【住民ニーズと市町の社会資源に合った場の設定】 # 母さん方が集まりやすい場所と時間とあと空間。その市町の中心となるような集まりやすい場所。かたまりなく、難を寄せ合って話ができるような会場の設定とがにも工夫をしたりとやって、行ったりとかはしますね 【自分が伝えるより母親同士の情報が理美味いがあると知った】 【活動内容や参加者の変化を記録することが評価に役立つ】	②【子育て中の母親からの声】 # 「こういった集まるところがあつたらいいな」とか、[ほかの人はどうしているんだろ]とか、そういう声があつて ①【上司が活動の振り返りや記録を求める】 ①【上司がアドバイスをくれる】 ①【上司が活動の経年変化を一緒にまとめてくれた】 # 職場の上司がすごく保健師活動の振り返りであつたりとか、私も行き詰まったりとかには、すぐ上司に相談してアドバイスをいただいたとか、自分の行ってきた活動を1回1回は報告書として上げるんですけれども、それを経年的に見て、自分がこのときにどういうような気づきをして、参加者にはどういった変化があつたのかというのを、まとめることを一緒にしてくださったんです
	地区経理活動	【リーダー的な人材の発掘】 【人と人をつなぐ】 【事業をつなぐ】 【何を大切に思つて活動しているかを知る】 【どのような信念を持つて活動しているかを知る】 【目標を持つてあるべき姿をめざして活動しているかを知る】		
	健康教育	【保健師は何をする人と聞かれる】 # 保健師さんって何をされる方なんですかって、よく聞かれるんですけども、一言では答えられなくて	【保健師は多くの役割を持つ】 【保健師は目に見えない形で活動をしている】 【保健師の役割を住民に伝えることが大事】 # 一言で答えられないぐらいたくさんさんの役割を担っているんだろなというふうには思う # 結構目に見えない形で活動をしていることも多くて # それをやったり声に出して発信したりとか、書面に落としてみんなに知っていただくということ、それこそ地域全体であるべき姿みたいなのが確認できた # 目標に向かつてみんなかどの役割を果たせるのかという話できたりすると思うので	【発信する力が鍛えられた】
	地域診断	【数値で見る情報と住民の声が違ふこともある】 【1年目は戸惑って終わった】 # どういった社会資源があるのかとか、でもやっぱり数値で見るその地域の状況と、実際に住民の方の声を聞いて把握させてもらう情報というのはやっぱり違つたりするので # 行政の仕事になれるのにもとても時間がかかってですね、すごく戸惑いました # 看護学校で習ったことがその当時にはすつて飛んでしまつてるところもあった	【住民の声を聴く】	

経験年数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
	連絡会議 （管内市町村保健師との連絡） # 保健師との日頃のやり取りがある			① 【担当地域が決まっている】 # 一応、業務分担と地区分担を、今両方で持っているような形で （市町村に連絡にいくときに、市町村から見えてうちの市の担当は、あなたですということはおわかるようになっていきますか？）→ # なっています
	事業評価・企画 （企画会議） # 年度当初とか終わりのときとかは次年度に向けてとか、今年度いこうというところを重点的にやっていることがあったりとか、そういう話合いを必ず持っていく # 市町村保健師、保健福祉分野の職員、包括支援センターなどが参加	【お互いの役割を知る】 【協力者の理解を得る】 # メンバーも変わることもあるので、お互いがどういった役割を担ってやっているんだというところは知っていただいたり # 今年はここを重点的に取り組んでいこうと思っているんだというところを周りの支援者にも知っていただいたりとか、御協力をお願いしたり	【関係機関の役割を知る】 【関係機関の理解と協力を得る】	① 【市町村から連絡が来る】 ② 【先輩が出席する会議についていく】
	人材育成 （管内の保健師研修） # 新任保健師研修 # 中堅保健師研修	【研修はノウハウを知る機会】 # （伝達研修も含め）ノウハウを知ることこそすごくありがたい機会だな		① 【新任保健師の育成プログラムがある】 ① 【中堅保健師の育成プログラムがある】 # 新任の保健師のプログラムというものが冊子でまとめられたものがある # 中堅保健師/バージョンもあるんです
	職場の会議 （職場内の意見交換） （前の職場は他職種で会議） （今の職場は保健師で会議）	【自分自身のとらえ方の学び】 【保健師の信念、価値観、コアの部分を知る】 # 学びというか自分自身の捉え方として、勉強になる部分とか # 保健師同士の話になると、保健師の信念、価値観とかコアの部分というところの話にすこなくっていくので、よりそのあたりが深められる		① 【職場のざっくばらんな話し合い】 # 年に3～4回、いろいろな職種、課全体で# 卒園に今の活動を通して困っていることが行き詰まっていることがとか、よかつたよという話をさっくばらんな話してっていうような会
4年目	【保健師が夢を与えてくれた】 【育児休業中も社会の動きに関心を持つ】 （同朋会での勉強会、情報交換） # 県の中でも、保健師会というのがあるって、県の保健師さんが集まる会が年4回くらいあるんですよ # 主に勉強会だったりと、先輩保健師の保健師魂の継承だったりと、あとグループワークとかあったりする （保健福祉学会で先輩保健師の功績を知る） 「その先生が、「保健師さんが夢に夢を与えてくれた」みたいな話をされていて、私はそれを聞いたときに、すごく感動して、私もそういうふうにも思われるような活動がしたいし、そういうふうにも思われるような活動をされたいた保健師さんですごくいいなというふうに思ってますね （育児休業中も社会の動きに関心を持つ） # 法律ができたとか # 新たな仕組みが県内でできたとか、あと虐待があったとか、自治体のニュースとか、そういう変化には一応気をつけてはいますね （県保健福祉関係の学会で発表） # 24年1月、小児救急に関して	【私もそういう保健師になりたい】 【他の人の役に立ちたい】 【先輩保健師の失敗談からPDCAを学ぶ】 # うまくいかなかった経験というの、たくさん経験されて、それがあるからこそ、今もかたがたって思える活動があるんだなと思えて	【PDCA】	① 【同期保健師の会がある】
5年目	学芸会			

表 9 事例 8 から抽出されたカテゴリー

経歴 年数	経歴（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意義	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
保健師 14 年目	地域保健活動推進事業の先行事業 福祉推進組織（担当地域にある組織） # S 市が平成 7 年度に立ち上げた、全市で立ち上げた、単町単位の員守りを推進するというのがそのセンターの目的	【データだけ積み上げても実践的な活動にならない】 # 地域を知るという、地区アセスメントの部分を徹底的に昨年度の前半始めて、単純にデータだけを積み上げて実践的な活動には全然なっていない。とにかく地域に出ていきながら、その出ていった先の住民の方と一緒にアセスメントできたらいなということろで昨年度は始めました。 【つなぐ】 【保健師も寄り添う】 # 住民の中で誰が核になっていて、どこの組織がこの地域のパワーの源になっていて # この組織がどんなことをやりたいと思っているのか そこがやりたいことがあふれかえっている状態で、そこを整理して連筋を一緒に考えていく 【みんなつながって安心して暮らせるまち】 # 物すごく頻繁にセッションという打ち合わせであったり、本当に雑談の延長の中でこんなことやりたいね、あんなことやりたいねんて話している中から、要するに員守り活動をするかという、住民をマッチングさせて、誰だかさんのおうちには何とかがさんが行きます。A さんのうちには C さんという推進員さんが員に行きます。それを月に 3 回員に行きますとかという仕組みづくりをしたといいうのかその方たちの一番具体的なやり方という方向性だったんですよね 【住民の活動が地域に浸透していない】 【既存の活動を意味あるものに持っていく】 # 町内会の内部で組織だった活動を自分ができるというジレンマを抱えていた # あと非常に意義のあるワークショップであったところを反省会で共有させてもらって、ここで終わらず、ぜひその福祉活動の役員の方と保健師とでこれをまとめるワークショップというが、グループワークをこの後引き継ぎやりませんかという提案をして、そこからさらに 5 回、役員の方と保健師と社会福祉協議会とで集まって、5 回ワークショップをやったものを 1 枚のペーパーにまとめるためのワークショップを行いました。 # 保健師さんが言ってくれているからやろうかみたいな感じもありましたし 【活動の課題に住民が気づく】 # 課題として、ここどこを解決しなければならんかだという、明確な課題が福祉活動の自分自身で出てきたんですよね。 【企画や準備を住民と一緒に担う】 【ワークショップのファシリテート】 【反省会でワークショップの意義を共有】 【ワークショップの内容をまとめるために更にワークショップを実施】 # 専門機関紹介であるとか、保健師が見た H 地区というところ、地区アセスメントの部分をパワーポイントで御説明する時間も持ちながら、グループワークがメインのワークショップを 5 回実施しています # さらに 5 回、役員の方と保健師と社会福祉協議会とで集まって、5 回ワークショップやった	【地域を知る】 【地域に出て地区アセスメント、住民と一緒にアセスメント】 # 自治体の保健師活動の地域アセスメントを題材にした論文とかか難読みたいなのは丁度に見るうちに、過去のやつもも解いて見るようにした 【地域のキーパーソンを見つける】 【地域の思いを整理して連筋を一緒に考えていく】 # 地域が安心して住める地域にしていきたいという確固たる思い、熱い思いも持っていていらっしやる組織 # その組織の中に保健師も寄り添うという形をとりながら 【寄り添う】 【顔を出す】 # 健康の視点だとか、ヘルスの部分を活動に乗っけていくかというのが、昨年度は何か見えなかった # 非常に大きな課題としては、自分たちの活動そのものが住民に全く浸透していないということだったんですね 【活動をまとめる、見える化する】 【プロセスの中で住民が気づく】 【地域の役員に周知出来る】 # 住民に励まされる 私の名前を呼んでくれる人が増えること 同じ土曜に上がって話すペースができてきていると感じる	【上司のアドバイス】 【福祉が目的で自分も先が見えない】 # 福祉推進組織というのが福祉の担い手という層たる住民組織なので、目指しているところが完全に福祉のエリアで

1	結 言
2	目 的
3	方 法
4	結 果
5	考 察
6	提 言
7	結 語
8	引用文献・参考文献
9	資 料

経歴 年数	経験（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意義	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
		#自分たちだけではできないので、専門職である保健師が入らないとそこまでの動きにできないので、ぜひやりたいとおっしゃった #今回保健師と一緒にまとめ作業を行っていったところで、課題として、ここどこかを解決しなければならなかったという、明確な課題が福祉活動の方自身で出してきたんですね 【住民の強い思い】 #何とか自分の住む地域を住みやすいまにしたいという思いがあるんだというのを、打ち合わせの中で非常に感じた 【家庭訪問が基本】 #一番自分が家庭訪問が好き 学生のとことから、家庭訪問に一番魅力を感じていた 家庭訪問で対象者を支援していくプロセスと地域に出て行って地域を支援していくプロセスととても似ている 家族では担い切れないサポートを、例えばいろいろな専門機関であったり、近隣の住民であったり、そういうところに当たりをつけながら、カードを並べて、対象の方に選んでいただきながらつなげていく作業って、高齢にしても母子にしても、保健師でしかできない役割 #どんなマイナスの面もプラスに変えていく、強みに変えていく転換を保健師は手伝わなければならないという	【見えてきた】	
10 年 目	地域包括支援センター等と一緒に地域に出ていったときに非常に感じた	【地域診断が大事】 #地域のことを知る上で地域診断抜きには絶対進まない #専売特許のように保健師が地域でできていたことができなくなっただなという実感があつた	【地域診断を地域に示すのは保健師しかいない】 #地域全体を強みも弱みも取り込みながらアセスメントできるのは保健師 【行政保健師であるということ】 #自分なりに対象と向き合う視点 #面の中で空気をつくる #相手にこつては唯一無二の今の担当保健師	
6 年 目、 7 年 目		【上司のアドバイス】 #先輩保健師 #保健師職ではない上司の指導とケアアドバイザーは非常に今のプラスになっている 【情報交換、会議】 【保健師同士のネットワーク】 【自分の子育て経験】 #保健師同士の横のつながりの中で、みんなが持っているいろんなネットワークとか、あと社会資源とか、そういう情報をみんなが共有しながら進んでいるというのは非常に大事 #子育ては非常にソーシャル・キャピタルの醸成には役立ったと感づいていますけど。 【組織としての目標がある】 #目標ががっちり決められて、目指すべき、ここまで到達しないというクルマ目標みたいなものがすごくかっちりある #区長以下、区役所の中で定期的に報告 【住民の言葉を重く受け止める】【大事さの説明】 #住民から寄せられたという一言は非常にやっばり重たい	【客観的に根拠持って説明出来る】 #科学的にとか、感情的にならずに、できるだけ客観的にとてか、根拠を持って端的に表現する力が必要 #誰かが見てわかる形にしなければならん 【報告の切りかえ】 #企業とタイアップした形で啓発したり、住民の中に入っていくというのも非常に有効な手段	【行政組織の動き方】 #行政組織の難しさというか、役所の中で意見を言うことや、企画を通すことの難しさとか、あと保健師ならではのところとか、特有の考え方みたいなものが必ずしも通用しないというのが行政組織 #自分の思いどおりに決まっていなければならないことがあるんだということ 【報告の仕方で評価が変わる】 #首長ぐらいいないと、結局、保健師が1年間でこんな成果が出ましたといったことは報告

経験年数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
		【地域住民と同じ目線で話す】【地域との関係性】 # 地域住民とは同じ土壌に上がるようにする # できるだけ自分の言葉でしゃべる 【繋げる作業を保健師が担う】 【その中で課題をキャッチする】 # 核になる人を、小地域の中の核になる人たちをいかに発掘、掘り起こして、その人々と私たちがネットワークとしてつながって、その人からその小地域の中に波及させて広がっていくかという、そういう仕組みをつくること 【行政に保健師がいる意味】 # この活動が行政の中である一定の評価がされると、組織が動くと波及も物すごく大きい 【活動対象としての健康レベルの多様性・福祉との違い】 # 福祉って限定的なエリアで、健康ってすごく健康レベルが高いところから非常に病気になるってしまっているけれども自分らしく生活できる健康っていう、レベルが物すごく多様にある	# 今後はもう少しそういう行政の中で活動しているところを意識して、何とかしたい、何とかやりたいな	

1	緒言
2	目的
3	方法
4	結果
5	考察
6	提言
7	結語
8	引用文献・参考文献
9	資料

表 10 事例 9 から抽出されたカテゴリー

経験年数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
	N 版ネウボラ	【対象は全ての住民】 # シニア世代の方々の健康づくりが一方では促されるような母子保健の活動をしていきたいというふうにいる思っています。 【展開は地域の実情に合わせて】 # 地域によっていろんな民生委員さん、子育てのボランティアを養成しているところもある。子育て支援拠点事業がボランティア、サークル活動の促進、コーディネートをしているが、母子保健との乖離があるので、お母さんたちに情報が届きにくい。ニーズを妊娠中から産前産後のあたりは把握さえできていない。 【個別ケース支援だけでなく、地域は変わらない】 # ハイリスク支援っていうのは頑張ってるけど対協のほうとか関係部局とか、個別ケースを通しては、顔の見える関係をつくってきてたんですけど、産まれてきてから、そういう問題があったから支援してたのでは、この潜在してる不安は取り除けないっていうのがわかってきたっていうことですね。		【地区担当制と業務担当制の併用】 # それから地域の担当保健師の併用っていう形で今しているの、一地域の保健師活動と母子保健の全体の事業のほうを整理、見直しをした中で、課題とか、それから地域の要望、それから今までしていただいていた地域活動からのいろんな提案とか要望がありましたので、そこからハイリスク、母子保健だけのハイリスク支援ではなく、環境整備っていう意味でも広く言ったら産み育てやすいというようなところに最終つながっていくような子育て支援を今、地域づくり組織と一緒に進めています。 【県医師会からの講演依頼】 【日頃の活動の見直し】 【課題を書き出してみる】 # M 県の医師会の先生方に養育支援訪問の話をしつつ、声がけられいいつも一緒に顔を合わせてる保健師だったからっていうのをするするところの見える関係をつくったいたら、何かひょんなところから声がかかって、それで日ごろの活動を少し客観的に見直すことができて、その中でちょっと課題っていうものを書き出してみたり 【他部局との研修会】 【つなげないともつないない】 # 1 つ 1 つはすごく頑張ってるし、ハイリスク支援も子ども部局とできてるし、主任児童委員さんは主任児童委員さんで頑張ってる、まちの保健室はまちの保健室で地域の会長さんとか健康づくりのほうとか福祉のほう、介護保険の相談機関として頑張ってる。保健師は保健師で頑張ってる。でも、何か違う立場から見てもなやあって、もつないないなって。 【研究会への参加】 【保健師の役割】 # 日本の母子保健はおくれるねって、有識者の先生がおっしゃったので、私たちのこれをしっかりつないだらフィンランドに負けないぐらい、日本の母子保健とか保健師役割について思ったのが1つのきっかけ # 保健師って何ができかねたっていうのをもう1回見直すきっかけになりました。 【納括保健師、先輩の助言】 # 室長とか、去年退職された保健師からいろいろこういう T のほうとかで先生方と活動されてるようなこと # 勉強会を職場内の保健師寄つてしようって、納括保健師という制度ができてからかな、看護協会とかの活動もされたので、いろんなことを教えていただいたのが県の保健師教育とかいろいろやっていただいているのよりも職場内で成人保健担当している保健師と私とが大体 2 人が母子保健と成人保健やってる保健師 2 人がほとんど地域のことと先輩の指導とってしてるんですけど
		【キーパーソンとの関係づくりが大事】 # 代表者と各地域担当保健師はもう本当に出会ったらハイタッチするぐらいの仲よしにならうっていうのでやってるんです	【地域への情報伝達は順番が大切】 # 通ずのは会長を通してっていうようなルートをつくることによって、保健師がそのルートをつくってくことによって民生委員さんたちとも自由に連携取れる	

経歴 年数	経歴（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
		【キーパーソンの活躍できる場づくりが大切】 # 地域包括支援センターのスタッフである、まちの保健室を1カ所ずつ、臨時職員、介護職か看護職の職員を高齢者のほうの福祉の拠点、健康づくりの拠点について置いて置いてあったんですね。その方々をどうにかこの高齢者についていかに分けて、生活の窓口として、しっかりとこの子育てのほうとつなげないか 【地域が動くことを実感する体験】 # 地域にいますので、地域づくり組織がこの赤ちゃん訪問のいろんなものをもっと広く展開していつてつなげていただければ、中高生のほうの事業とかにも地域としては広がっていくというようになところか今、見えます 【個別指導に使っていたものを統計処理したら集団の課題が見える】 # 第3子のお母さんのほうが非常に心理的な、不安というものが、凄然としたものを抱えておられていてというのがわかった # 母子保健と子育て支援のところがしっかりついていないければいけない	【保健師は黒子に徹する】 # まちの保健室さんたちをこの前面にお母さんたちとつなげつつ、でもバックで必ず保健師に（まちの保健室が）わからないことがあったらつなげるような関係性をバックで取る # 直接私たちが訪問行ったほうが早い場合もあるんですけど、先に必要な場合は私たちが訪問行って、こういうおばあちゃんたちが来られるからねっていう、ちょっと工夫が必要なお母さんにはそういう土台づくりまでして 【コミュニケーションツールとしてのアンケートの利用】 # 妊婦さんを把握するために、簡単なアンケート項目を使ってコミュニケーションを取るってことで、支援が必要なお母さんを把握するための本当に簡単な項目のアンケートを取ってるんですけども、それを通じて若い保健師でもお母さんとのキャッチボールができるかなっていうようなところをねらってるものなんです 【根拠を示して説明することの重要性】 # 調べてみて、こういうふうに数で、統計で出たから、やっぱり3人目さんのお母さんのほうが大事に声かけしたほうがいいんだわみたいは 【保健師のやり方をキーパーソンに見せる】 # こういうコミュニケーションをしたほうがいいっていうのをわざわざこの御家庭は同行訪問にしましよとかという提案をしながら一緒にやって姿を見ていただいた 【地域や住民の中に飛び込む】 # 地域であつたり住民さんの活動のほうに飛び込んで、まずそこでこう、どういう動きが、強みがあったり課題があるかっていうのを探って、各地域、それから人によってもキャラクターが違うので、それを探りました 【大切なことは書きとめる】 # 言ったときにはすぐ書くんですけど、悪気なくね、忘れちゃうんですよ。またね、地雷踏むんですよ。 # 書きとめて注意事項、これは間違ったらためなとこなんだな、この人はっていう 【色々な事業と一緒に実施】 # 国から促され症候群防止やりなさいとか、こう健康管理力ード啓発しなさいとか、いろいろ言われてくるものを、その中で健康教育っていう意味と、それから児童福祉法でいう虐待のリスクがないかとか、そういうふうな国からは言ってくるんですけど、一応工直した展開って言うか、それは人員の問題とか効果的にやらなければ私たちが離れつついつのかがあったんでいいですけども 【うまくいっている事例を紹介する】 # 県に行っている、じゃあ、それおもしろそうねっていう場をつく。勝手にあとは動くのを待つと言うか、でも、待っても動かないから、今度は保健師が行ってみて、これいいよねって、そう言えばあつちの地域でこうだったわみたいは、今度一緒に見に行ってみませんか	
	妊産婦出席の支援が必要なお母さんを把握するためのアンケート調査（虐待予防、特定妊婦抽出）			
	主任児童委員がする乳児家庭全戸訪問事業	【キーパーソンには指導ではなく感謝し、いただいた意見には、必ずフィードバックすること信頼が得られる】 # こっちが指導してるっていうのはもう絶対出さない形にして、感謝をしつつ、御意見をいつもいただくような形で、いただいた御意見に対しては、できないことはできないんですけども、必ずフィードバックする。 # 陰鬱な雰囲気があったのは確かなんです、先輩から引き継いだときに、それをどう何でこんなにも関係がこうなっているのかっていうのを本音で語り合う 【知識が意欲につながる】 # 予防接種のこととかは非常に丁寧に説明できるように、知識も向上していただいたり、またそこそこすぐ自分たちの意欲につながったりもする	【住民が納得できる仕組み】 # 予防接種の予約票も持っていくっていう、この予約票がなかったらお母さんたち、地域の人がわざわざお世かけまで持ってきてくれる訪問があるっていうのを受け入れてもらえない人もいるかな	
	母子健康手帳発行教室			
	子育て広場の交流会	【地域の差に気づく】 # 大盛況の広場もあれば、民生委員さんも加わってないし、閑散とした（広場もある）、お母さんだけで必死に回してる広場もある。		

1 結 言

2 目 的

3 方 法

4 結 果

5 考 察

6 提 言

7 結 語

8 引 用 文 献
参 考 文 献

9 資 料

経験 年数	経験（事業・取組・体験（疑似を含む））	意味づけられた意義	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
	産後ケア	【つなげるだけでなく、ないものは作る】 【今ある体制を変えていきたいという熱い思い】 【相手の土俵でやる】 # 子育て部局との関係が切れてると思うので、その職員さんたちのソーシャル・キャピタルって言ったらかおかしいですけど、職員間の意識の向上もできたらっていう、ちょっとおかしな言い方ですけど思っていて、わざわざ産後ケアとかないものはつくっていいことと思ってるので、つなげるだけじゃなくて、ない部分の産後ケアをあえて子育て拠点事業の中で展開するとか、そこで周知をしていただくとか、そこで交流会を持つっていうことを、ネツがうたからっていつかで新しいことを受け入れてもらいつつ、今ある体制をどうにか変えていきたいっていうふうな思っ、はい、やっています。	【地域の資源を整理して、みせる】 # 子育て拠点事業（子育て支援センター）で育成しているボランティアさんをもとの得意分野別、もと保育士さんごかも、得意分野別、地域別、年代別に分けて、地域のほうに御紹介いただくようなことをしてみませんか	
	家庭訪問	【地域づくり中で小さな組織づくりもする】 # 家庭訪問事例からダウン症のママの会つくったり、病児ごとにくるーピングしたりっていうことは大きな環境づくりの中の小さな支援としてはしてる 【思いに寄り添うことが大切】 # まずは当たり前におっぱいあげる、当たり前前にこの子を産んでよかったなと思えるような部分にまず寄り添いたいと思って1回目は行きます	【つなげると自分たちで変わっていく】 # つなげるってこういうことで、自分たちで変わっていかれる様子は非常によく見ます。 【他職種と同行訪問する】 # 家庭児童相談員と行かせてもらったりっていうこともしながら、もうやりながらの情報収集とか判断とか 【ケース検討が大切】 # こう言ってるけど本当のニーズはここじゃないのっていう、夫婦関係じゃないのとか、そういうのもほかの人の意見聞きながら。	【地域から言ってもらおう】 # 子ども部が動いてないとか、保健師さんは来るけど、何でもあつちに来ないんだとか、地域で一貫してやってくれるので、行政内が分かれてることがおかしいっていうふうな御意見を地域から言っていたく 【議員にも理解を得る】 # 議員さんっていうところからこう、いろんなところに働きかけていただく 【予算がある】 # お母さんたちだけの会じゃなくて、あえて療育機関の法人さんが1カ所あるので、そこの中の地域支援事業の委託事業でちょっと予算もらってくれるのがある
	地域診断	【地域と共有できる見せ方】 # データとしても地域の方と共有できるような、もう1つのツールと言うか、そういうものをつくって、一緒に見ながら検討していく	【数字、住居、道、人を見る】 # 地域診断のデータとあわせて環境面、N市は本当に地域によって物すごく山だったり平地だったり、団地の年数も違うし、坂道がすごかったり、いろいろあるので、一緒に歩くっていうところからしたね。もう舅たら、なるほどみたいなのも多し、あと保育園との切れ目もあるんですけど、地域の大事な資源として、保育園との関係づくりをしていきたいと思うので、園長先生たちと結構話して	
	健康教育	【仕掛けとしての健康教育】 # 私たちがこういうのをでできるんだけどっていうのは仕掛けづくり、活動推進のための仕掛けとして健康教育をやって	【地域のメリットになるような情報の出し方】 # 来年からなくなるよっていうのがデメリットに感じないように初回をこんな予算が取れたのって、お金ないっていうのも住民さんには知ってるので、行政が、N市はお金ないもんは、金ないもんはなってるから、知事と繋きようとしてみただけでやってるような、だからそれでこんなお徳なのって先に挙げておいて、来年からはもう自分らでほんなら取らわって、幾らくらいでいけるのっていうノウハウとか、大等とつながっていただくか、そういうふうなノウハウと繋ぎ、こんなお徳な先生いたんやとか、そういうふうなエッセンスを逆に教えてくれたっていうようなメリットを感じていただける	

経歴 年数	経験（事業・取組・体験（類似を含む））	意味づけられた意識	学んだ技術	外的要因（①体制（先輩・上司・同僚等を含む）②地域）
		【地域との信頼関係】 # いろんなことをやっている中で信頼関係ができてくるからそういう話もできるんですけど	【地域がやるからいい結果がでているということを地域に返す】 # 棒グラフが上がったのが見えると、おっしや、もうやっぱり行政が宣伝してるんじゃないやんねみないな、自分たちがやるから、回覧版で回すから、民生委員さんが引っ張って来るから受診率上がったやんって、ほらだからほらほかの地域もうちみたいによればいいねん	
	人材育成	【一人で全部をやってみる】 # 1人で特定障診しなきゃいけないとか、契約とか、不慣れな事務もしながら、でも保健師として何ができるか考えなきゃいけない # 自分がやらなきゃっていう局面に立たされたらたまたま動くんかもしれない。 【限界を超えてみる】 # もう一歩出してみるってないと思うんですね。なのでそういう機会があって、上司が行ったというふうに言ってくれるようなものがあるれば少し視野が広がるのかなと。 【自分の熱い思いに気づく】 # 子育てで広場って言うたら、野原の広場やと思ってたっていうような人とおしゃべりするほうが。何か自分がかんだけ熱い思い持ってたんやっていうのを気づかされる 【キーパーソンを守る動きが必要】 # 地域住民で移り住って強張ってくれてる人をしっかり浮き上がらせて、その人たちの負担を少し取るって言うかな、負担感と結構さけりまのバランスで強張ってたさってる方々も多いので、ボランティアさんなんかは、主任児童委員さんでもすし。何かそういう人たちの安心できる信頼で、何か言ったら助けてくれるし、何か困ったらすぐ飛んできてくれるっていうような、すぐ飛んできてくれてありがたうっていうふうに地域の人から言ってくれたときはうれしかったですね。つぶれかけた育児広場とか。そういうふうな何かこつ強張る人を守る人ではない	【肌身で地域を感じる経験】 # こう地域のおいて言うか、着てる服表から全然、団地と違って # 山奥に、（訪問で連れて）行かれて、何かやとさきつていうね、書いて帰られて、一人で何かやらなきゃっていうので、住民さんとおしゃべりしたりっていうのがすごく懐かしい	【市長の理解】 # 好きに言ってきたって首長の好きにやっておいでって言うてくれたことで、首長さんが責任をとるっていうこと 【学会発表】 # 9年目に M 県の公衆衛生学会で、妊婦健診 14 回あるけども、どんな分布かとか、そういうところの業務の疑問。それから、あとと交番で若い子たちが必ず M 県公衆衛生学会からデビュースできるように、今年も 1 年目の人も出ます 【同僚に話を聞いて貰う】 # ちよっとおしゃべりしてぶわっと解決しながら前向きに、もう気持ち、熱意の部分だけで何とか持ったのに、それがへこんだときにはそういうことでまたちよっと回復してもら 【住民の声】 # 本当にここで子育てできてよかった 【取材や観察も地域の活性化に使う】 # つながってるっていう絵が撮りたいんですけど言われて、取材もチャンスやと思って # 地域は地域づくり組織の中に子ども部つくって 18歳まで一貫して見るとか言ってくれてる

1	結 言
2	目 的
3	方 法
4	結 果
5	考 察
6	提 言
7	結 語
8	引用文献・参考文献
9	資 料

(1) で9事例から抽出されたカテゴリーを経験及び獲得すべきスキル、職場環境・人材育成、資質、アイデンティティに分類した。

年代区分により明確な差はなかったため、経験の順序性に着目し、地域活動としての概念の形成及びソーシャル・キャピタルの醸成に至る能力の形成の視点から得られたカテゴリーを構造化した。

(2) ソーシャル・キャピタルの醸成につながる経験及び獲得すべきスキル

公衆衛生看護活動の中では、家庭訪問・地域診断・健康教育・関係者へのヒアリングがソーシャル・キャピタルの醸成につながる場面として挙げられた。各場面をとおして得られたソーシャル・キャピタルの醸成につながるスキル・認識について、以下のように抽出した。

①家庭訪問の場面

家庭訪問では、個人レベルとして【生活を知ることが大切】、【思いに寄り添うことが大切】であると意味づけ、地域レベルでは【個別支援の限界を知る】、【場づくり・組織づくりの必要性に気付く】、【他職種には異なる視点で把握している情報や判断がある】と意味づけていた。家庭訪問を通じて獲得したスキルとしては、【地域の実態把握】、【コーディネート】、【ケース検討による家庭訪問技術の向上】が挙げられた。

家庭訪問の経験からソーシャル・キャピタルの醸成に結びつく認識として【つなげると自分たちで変わっていく】、【住民の意識を変えるのは集団支援】の2つのカテゴリーが抽出された。

表 11 家庭訪問の場面をとおして得られたソーシャル・キャピタルの醸成につながるスキル・認識

個人レベルの意味づけ	地域レベルの意味づけ	獲得したスキル	経験から得られた SC の醸成に結びつく認識
生活を知ることが大切	個別支援の限界を知る	地域の実態把握	つなげると自分たちで変わっていく
思いに寄り添うことが大切	場づくり・組織づくりの必要性に気付く	コーディネート	住民の意識を変えるのは集団支援
	他職種には異なる視点で把握している情報や判断がある	ケース検討による家庭訪問技術の向上	

※「関係者へのヒアリング」は実態把握として家庭訪問及び地域診断に含めてカテゴリーを抽出した。

②地域診断の場面

地域診断では、データの種類として【統計データ】、【歴史】、【生活】、【地理】、【事業実績】が挙げられ、方法として【住民と一緒にアセスメントする】、【ワールド・カフェ】、【住民の声を聴く】、【データの加工・文献検索】、【家庭訪問】が挙げられた。

地域診断を通じて獲得したスキルとして、【データの検索】、【データの可視化】、【既存データの活用】、【プレゼンテーション】、【地域の生活実態を把握する】が挙げられた。

地域診断の経験からソーシャル・キャピタルの醸成に結びつく認識として、【地域診断は保健師にとって欠かせない重要なもの】、【地域診断を行いエビデンスを持つことは保健師の役割である】の2つのカテゴリーが抽出された。

表 12 地域診断の場面をとおして得られたソーシャル・キャピタルの醸成につながるスキル・認識

データの種類	地域診断の方法	獲得したスキル	経験から得られた SC の醸成に結びつく認識
統計データ	住民と一緒にアセスメントする	データの検索	地域診断は保健師にとって欠かせない重要なもの
歴史	ワールド・カフェ	データの可視化	地域診断を行いエビデンスを持つことは保健師の役割である
生活	住民の声を聴く	既存データの活用	
地理	データの加工・文献検索	プレゼンテーション	
事業実績	家庭訪問	地域の生活実態を把握する	

③健康教育の場面

健康教育では、方法として【対話型の健康教育】、【グループワーク】、【関係機関との協働】が挙げられ、獲得したスキルとしては、【住民への動機づけ】、【住民ニーズの引き出し】、【同僚との目標の共有】、【母集団全体への参加しやすいしかけづくり】、【データの可視化】、【事業評価】が挙げられた。健康教育の経験からソーシャル・キャピタルの醸成に結びつく認識としては、【教室だけで終わるのはもったいない】、【地域との信頼関係を基に事業を提案できる】、【健康教育は手段である】の3つのカテゴリーが抽出された。

表 13 健康教育の場面をとおして得られたソーシャル・キャピタルの醸成につながるスキル・認識

健康教育の方法	獲得したスキル	経験から得られた SC の醸成に結びつく認識
対話型の健康教育	住民への動機づけ	教室だけで終わるのはもったいない
グループワーク	住民ニーズの引き出し	地域との信頼関係を基に事業を提案できる
関係機関と協働	同僚との目標の共有	健康教育は手段である
	母集団全体への参加しやすいしかけづくり	
	データの可視化	
	事業評価	

(3) ソーシャル・キャピタルの醸成に資する環境

ソーシャル・キャピタルの醸成に資する環境として、活動体制に関する強化因子をカテゴリー化したところ【組織横断的な連絡会・研究会の存在】、【モデルとなる保健師の存在】、【統括的役割を担う保健師の役割】、【県・保健所・市町村の良い関係性】、【同僚との良い関係性・理解ある上司等の良い職場環境】、【地区担当制】、【後輩へ引き継ぐ風土】の7つが抽出された。

表 14 ソーシャル・キャピタルの醸成に資する環境

カテゴリー	サブカテゴリー
組織横断的な連絡会・研究会の存在	保健所管内の保健師で定例会を組織し、研究会や情報交換を行う
	自分自身の捉え方の学び
	職場における話し合える環境
	保健師間で共有し、後輩に楽しく仕事をしてもらいたい
モデルとなる保健師の存在	モデルとなる保健師の活動から学ぶ
	先輩から受け継ぐ（先輩の展開方法から技を盗む）
	尊敬できる保健師との出会い
	逆境に立ち向かう先輩の姿に頑張ろうと思えた
統括的役割を担う保健師の役割	統括保健師によるスーパーバイズできる仕組み
	統括保健師の助言
県・保健所・市町村の良い関係性	応援し、アドバイスをしてくれる市町村の保健師
	保健所保健師からのタイムリーで適切なアドバイス
	共に悩み、後押ししてくれる、私を育ててくれた保健所保健師の存在
	保健所保健師からの研修会参加の誘い
	保健所保健師も入って話し合う
	県に保健福祉関係の学会がある
同僚との良い関係性・理解ある上司等の良い職場環境	活動を理解し、容認し、責任を持ってくれる上司
	自由な発想を後押ししてくれる上司
	全てをさらけ出せる同僚との関係性
	同僚に話を聞いて貰う
	仲間の存在
	首長の理解
	熱い職場
地区担当制	地区担当制
後輩へ引き継ぐ風土	先輩から受け継いだ
	後輩が後輩に残す意識を持つように育てていく

ソーシャル・キャピタルの醸成に資する人材育成として、【活動を通して伝承される OJT】、【理論化に資する OFF-JT】のカテゴリーを抽出した。

表 15 ソーシャル・キャピタルの醸成に資する人材育成

カテゴリー	サブカテゴリー
活動を通して伝承される OJT	上司が活動の振り返りの記録を求める・活動を振り返る
	学会発表を推進する上司・学会発表が職場に根づいている
	記録により活動を引き継ぐ
	担当地域が決まっている・責任を持つ地域・地区担当制
理論化に資する OFF-JT	ヘルスプロモーション
	エンパワメント
	コンサルテーション
	学会発表

(4) ソーシャル・キャピタルの醸成経験のある保健師の資質・姿勢、職業観

①資質・姿勢

ソーシャル・キャピタルの醸成経験のある保健師の資質・姿勢では、【経験の意味づけと次に活かそうとする姿勢】、【先輩・住民を尊敬し学ぶ姿勢】、【チャレンジ精神と柔軟な考え方】、【継続したあきらめない覚悟】、【内省する力】、【エビデンスの重視と施策化志向】、【地域に働きかけ関係性を構築しようとする姿勢】、【理想とする活動をめざす】、【地域や地域住民の幸せを追求する姿勢】、【地域への愛着】がカテゴリーとして抽出された。

表 16-1 保健師の資質・姿勢

カテゴリー	サブカテゴリー
経験の意味づけと次に活かそうとする姿勢	つらい経験も無駄にならない どんな経験も意味がある
	モデル実施で終わらせない つなげないともったいない
	既存の活動を意味あるものにもっていく
先輩・住民を尊敬し学ぶ姿勢	先輩の失敗談や展開方法から技術や PDCA を学ぶ
	住民の変化から保健師も学ぶ
	人との出会いを大切にし、人から学ぼうとする
チャレンジ精神と柔軟な考え方	とりあえずやってみよう 目の前の業務が動機
	継続しながら常に方向性を軌道修正
	つながりだけではなく、ないものは作る
	視点の切り替え
継続したあきらめない覚悟	放置してはいけない、どうにかしたい
	保健師としてやらなければいけないことがある
	腹を据えて長期展望で住民の立場に立つ

表 16-2 保健師の資質・姿勢

カテゴリー	サブカテゴリー
内省する力	自分に引き込み自分の事として取り組む
	振り返り自分の軌跡を残す
	自分の熱い思いに気付く
	自分自身の捉え方の学び 客観視
	住民の変化を見て自信がついた
エビデンスの重視と施策化志向	地域診断は欠かせない、根拠を持って説明
	研究や情報交換は保健師の資質を高める
	研究を施策に反映させる
	保健師活動を見える化し施策化
地域に働きかけ関係性を構築しようとする姿勢	あらゆる機会に課題の投げかけ キーパーソンの存在
	顔を売る 手足を使って関係をつくる
	住民の言葉を重く受け止める
	変化に気づく・認める・エンパワメントする
	地域から評価されることでモチベーションが高まる
理想とする活動をめざす	人の役に立つ保健師になりたい
	保健師が何をする人か胸をはって語れるようになりたい
	あるべき姿を見据えた活動
	今ある体制を変えていきたいという熱い思い
地域や地域住民の幸せを追求する姿勢	住民の健康、幸せのために必要な仕事をしたい
	住民の声を聴き、生活に触れることが大事
地域への愛着	この地域をどうにかしなくてはという思いを代々受け継ぐ
	住民の変化に喜びを感じる
	他の地域には負けたくないという気持

②職業観

ソーシャル・キャピタルの醸成経験のある保健師の職業的アイデンティティでは、【保健師としての使命感】、【保健師役割の肯定感】、【保健師としての醍醐味の実感】、【健康を切り口にする】、【施策化・事業化】、【行政役割】、【地域住民を主役に。保健師は黒子の役割を担う】、【保健・医療・福祉に精通】、【鳥の目・虫の目】、【地区組織活動が保健師活動のコアである】、【目的志向性】、【人材育成役割】、【判断力】、【経験の積み重ね】がカテゴリーとして抽出された。

表 17-1 保健師としての職業的アイデンティティ

カテゴリー	サブカテゴリー
保健師としての使命感	アイデンティティの確立
	保健師の信念、価値観、コアの部分を深める
	やっぱり保健師
	自分で保健師と意識しなくても保健師を醸し出す
	保健師の立ち位置の再確認
	疑問を共有し保健師の関わる意味づけ
保健師役割の肯定感	保健師は良い仕事
	保健師は面白い
保健師としての醍醐味の実感	保健師ならではの醍醐味である
	保健師が夢を与えてくれた
	保健師活動の楽しさ、保健師活動とはこういうことなんだと実感
健康を切り口にする	一次、二次、三次予防を総合的に組み合わせる
	暮らしの基盤は健康、健康のための仕組みづくりが仕事
	健康を切り口にする
	活動対象としての健康レベルの多様性・福祉との違い
施策化・事業化	保健師だからと熱くなって浮かないように行政職と上手くやっていくこと
	事業化・施策化
	保健師の役割を再認識し業務として位置付け
行政役割	行政保健師であるということ
	行政に保健師がいる意味
	市の保健師としてやらなければならないことがある
地域住民を主役に。保健師は黒子の役割を担う	黒子の役割
	必要なことへのお手伝い、下支えが保健師の役割
	保健師は黒子に徹する
	保健師は目に見えない形で活動をしている
	保健師の役割を住民に伝えることが大事
	保健師活動は他者から分かりにくく評価が困難
保健・医療・福祉に精通	保健にも医療にも福祉にも精通している人材
	保健師は多くの役割を持つ

表 17-2 保健師としての職業的アイデンティティ

カテゴリー	サブカテゴリー
鳥の目・虫の目	地域や人をいかに興味深く知ろうとするか
	地域診断は欠かせない
	鳥の目・虫の目で地域全体を見る目を持つ
	地域診断を地域に示すのは保健師しかいない
	地区診断の中で課題をキャッチする
地区組織活動が保健師活動のコアである	住民と一緒に組織化の活動を行うことが本来の保健師の活動
	地区組織活動が保健師活動のコア
	繋げる作業を保健師が担う
	皆の気持ちを引き出してまとめる住民に寄り添い進める
	その人のやりたいことができる周りの環境づくりをしたい
目的志向性	継続しながら常に方向性を軌道修正
	あるべき方向性に向けて目標を確認・共有
	広大な県内で、どこでもみんなが元気で格差がない暮らし
人材育成役割	後輩の育成もお互い様
	上に立つ者の役割を認識
判断力	経験を基に自分で咀嚼し、考え、判断すること
経験の積み重ね	自分の軌跡

(5) ソーシャル・キャピタルの醸成過程

ソーシャル・キャピタルの醸成には、保健師の活動を支える思いや信念が基本となっており、【住民から得る感動・喜び・醍醐味】、【住民主体の地域づくりに対する信念】、【長期的な展望】、【保健師活動のコア】、【諦めない姿勢】、【地域への愛着】、【住民への信頼】の8つのカテゴリーが抽出された。

表 18-1 ソーシャル・キャピタルの醸成の基礎となる保健師の思い・信念

カテゴリー	サブカテゴリー
住民から得る感動・喜び・醍醐味	孤立していた人が「仲間がいた」という体験したことに感動
	集まることで荷を下ろしたと感じている住民からもらった感動
	住民の変化から保健師も学ぶ
	住民の変化に喜びを感じる
	保健師は面白い

表 18-2 ソーシャル・キャピタルの醸成の基礎となる保健師の思い・信念

カテゴリー	サブカテゴリー
住民主体の地域づくりに対する信念	既存の活動を意味あるものに持っていく
	この地域をどうにかしなくてはという思いを代々受け継ぐ
	住民の健康に対する意識を変えたい
	行政主導ではなく市民が主体にでなければいけない
	住民をエンパワメントしていかなないと地域は変わらないという信念の形成
	他の人の役に立ちたい
	業務で分断されない地域づくり
長期的な展望	住民の力を活かせなければもったいない
	広大な県内で、どこででもみんなが元気で格差がない暮らし
	腹を据えて、長期展望で住民の立場に立つ
	いつか愛育班を作りたいという思い
保健師活動のコア	暮らしの基盤は健康、健康のための仕組みづくりが仕事
	地区組織活動が保健師活動のコア
諦めない姿勢	思いを伝える諦めない姿勢
地域への愛着	町への愛着
住民への信頼	市民は信頼できる

ソーシャル・キャピタルの醸成過程としては順序性を考慮し、【地域の実態把握】、【既存の取り組みからの動機づけ】、【地域課題の共有の場づくり】、【勝算・確信】、【住民とともに活動】、【目標の共有】、【キーパーソンの発掘】、【活動の核】、【信頼関係の構築】、【住民の活動の場づくり】、【住民の力を引き出す】、【活動のための情報提供】、【住民主体の活動】、【ネットワークづくり】、【地域の変化に気づく】、【活動成果・喜びの共有】、【活動の評価】、【地域のあるべき姿を描く】がカテゴリーとして抽出された。

表 19-1 ソーシャル・キャピタルの醸成過程

カテゴリー	サブカテゴリー
地域の実態把握	地域を知る
	地域に出て地区アセスメント、住民と一緒にアセスメント
	同じ悩みの人が集まる場の必要性
	住民の声を聴き、生活に触れることが大事
	数値で見る情報と住民の声が違うこともある
	徐々に地域診断の重要性に気づく
	地域診断は欠かせない
	地域の実態把握
	健康課題の分析と問題意識

表 19-2 ソーシャル・キャピタルの醸成過程

カテゴリー	サブカテゴリー
地域の実態把握	コミュニケーションツールとしてのアンケートの利用
	地域の差に気づく
	展開は地域の実情に合わせて
	個別指導に使っていたものを統計処理したら集団の課題が見える
	地区診断の重要性の再確認
	地区担当保健師として自治会を回る
	地区担当保健師として自治会長の話を聞く
	個々の住民の力を見る
	地域診断
既存の取り組みからの動機づけ	目の前の業務が動機づけ
	個別支援の限界と集団支援の意義
	個別ケース支援だけでは、地域は変わらない
地域課題の共有の場づくり	対話型の教育活動から本当の課題が見つけられる
	障害児の個の事例をつないで、共有する場が必要
	ワークショップのファシリテート
	プロセスの中で住民が気がつく
	同じ悩みを持つ人の集まりに誘う
	住民が話し合える場づくり
	住民に地域の現状を知ってもらう
	モデル地区健康教室の実施
	地区座談会の開催
	健診データの分析と住民に見せる資料の作成
	全世帯への参加しやすいしかけづくり
	日頃の問題意識と住民の提案を結合
	市民を主役に自主サークルの立ち上げ
	気軽な場の設定・自由な発想を導き出す・KJ 法
	皆が対等に話せる場づくり
	住民の発言を受け止める
	根拠を示して説明することの重要性
	つなげるだけでなく、ないものは作る
	仕掛けとしての健康教育
	地域と共有できる見せ方
	データを可視化・課題を目標へ変える
	あらゆる機会を使った課題の投げかけ
	事業主体でなく、こうあったらいいねを語り合う
	目的をグループ化においた健康教育

表 19-3 ソーシャル・キャピタルの醸成過程

カテゴリー	サブカテゴリー
地域課題の共有の場づくり	健康教育からグループ化の立ち上げ
	住民を巻き込み、地域のつながりの中で健康教育を実施
	課題を地域で共有
勝算・確信	この地域ならできるという勝算
	これで組織をつくれるという確信
住民とともに活動	住民と一緒に組織化の活動を行うことが本来の保健師の活動
	企画や準備を住民と一緒に担う
	顔を出す
	住民とともに活動する
	皆の気持ちを引き出してまとめる住民に寄り添い進める
	不安や悩みを市民と共有
	住民とともに考える
	地域や住民の中に飛び込む
	色々な事業を一緒にして実施
目標の共有	地域の思いを整理して道筋を一緒に考えていく
	支え合いが市の目標になっている
	同僚との目標の共有
	グループワークを用いた地域の健康上の目標の設定
	会の方向性の共有と自主性の尊重
	手段を持つ機関との目標共有
	地域診断を使い、高齢者の現状とあるべき姿の共有
	地域課題を住民と共有し、目標を共有
活動の核となるキーパーソンの発掘	地域のキーパーソンを見つける
	リーダーの発掘
	地域のキーパーソンの理解を求める
	保健師支援員の育成
	自治会長の意識の高さ、影響力の高さ
	自治会長の後押し
	地域のキーパーソンとの信頼関係を培う
	キーパーソンとの関係づくりが大事
	意欲のあるキーマンとの出会い
	活動の核
	キーパーソンが存在を逃さない
	住民活動の核となる人との出会い
	地域の核となる住民の声を聞く
	住民の中で核となる人をリーダーにする

1
結
言

2
目
的

3
方
法

4
結
果

5
考
察

6
提
言

7
結
語

8
引
用
文
献
・
参
考
文
献

9
資
料

表 19-4 ソーシャル・キャピタルの醸成過程

カテゴリー	サブカテゴリー
信頼関係の構築	行政と住民との信頼関係の構築
	住民からの感謝の言葉
	地域のキーパーソンとの信頼関係が活動につながる
	キーパーソンには指導ではなく感謝し、いただいた意見には、必ずフィードバックすると信頼が得られる
	地域との信頼関係
	地域への情報伝達は順番が大切
	手足を使って関係を作る
	住民との関係は大切にする
	住民に信頼してもらえる
住民の活動の場づくり	住民が無理なくできる継続した事業展開
	組織の自主化
	役割を作る
	介護予防事業の自主グループ化
住民の力を引き出す	自分が伝えるより母親同士の情報が現実味があると知った
	継続した健康づくりは自治会の中で進めるもの
	疑問を共有し保健師の関わる意味づけ
	モチベーションを維持するための仕掛け
	住民活動の核となる人と一緒に活動を企画
	住民に助けてもらう
活動のための情報提供	その気にさせる材料
	タイムリーに健康情報の発信
	地域のメリットになるような情報の出し方
	地域の資源を整理して、みせる
	保健師のやり方をキーパーソンに見せる
	知識が意欲につながる
	うまくいっている事例を紹介する
	自主的なグループの広報・情報発信戦略
住民主体の活動	(保健師は) 黒子の役割
	必要なことへのお手伝い、下支えが保健師の役割
	保健師も寄り添う
	住民の提案を受け入れる
	保健師の立ち位置の再確認
	市民が主役となるための取り組み
	会の凝集性を高める
	保健師は黒子に徹する

表 19-5 ソーシャル・キャピタルの醸成過程

カテゴリー	サブカテゴリー
住民主体の活動	相手の土俵でやる
	キーパーソンの活躍できる場づくりが大切
	実施主体は住民であることの基軸
ネットワークづくり	事業の横のネットワークを作る重要性和効果性
	つなぐ
	橋渡し、調整
	組織同士の交流
	個人・家族から地域全体へつなぐ
	保健師のネットワークを活かす・つなぐ
	ネットワークの活用と強化・地域への愛着醸成
	つなげないともったいない
	分断しない組織体制
	関係機関とつながる
地域の変化に気づく	見えてきた
	住民の変化に気づく力
	愛育班活動は健康課題の解決にとどまらず地域の活性化につながる
	変化に気づく・認める・エンパワメント
	地域が動くことを実感する体験
活動成果・喜びの共有	必要性の認識、エビデンス重視
	住民と喜びを共有
	合併する市の保健師が愛育班を大切だと認めた
	受診率が向上
	地域がやるからいい結果がでているということを地域に返す
活動の評価	活動をまとめる、見える化する
	活動評価
	地区組織の努力の見える化
	評価指標の設定と成果の可視化
	活動の評価と PR の重要性
	PDCA サイクルをまわす
地域のあるべき姿を描く	県民が健康であるために本当に必要な仕事をしたい
	みんなつながって安心して暮らせるまち
	住民が健康に生活できるように
	行政に頼らない組織にする
	目標は地域づくり
	対象は全ての住民
	1人じゃないと思える地域にする

1
結
言

2
目
的

3
方
法

4
結
果

5
考
察

6
提
言

7
結
語

8
引
用
文
献
・
参
考
文
献

9
資
料

また、ソーシャル・キャピタルの醸成過程は地域住民との相互関係により語られていたため、保健師が把握していた地域におけるソーシャル・キャピタル醸成過程についてカテゴリーを抽出することとした。抽出されたカテゴリーは、【課題の理解と活動の動機】、【サービスの受け手から活動へ】、【声を出す・提案する】、【目標をもって活動】、【力を発揮し、喜びの体験】、【活動の継続】、【主体的な活動】、【モチベーション向上】であった。

表 20-1 地域におけるソーシャル・キャピタルの醸成過程

カテゴリー	サブカテゴリー
課題の理解と活動の動機	プロセスの中で住民が気づく
	活動の課題に住民が気づく
	安心して住める地域にしたいという確固たる思い
	活動していない住民が関心を持つ
	知識が意欲につながる
サービスの受け手から活動へ	集まることで荷を下ろしたと感じている住民
	孤立していた人が「仲間がいた」という体験
	集まって重荷を下ろして話し合う
	サービスの受け手からキーパーソンへ成長
	住民同士の関係を住民が解決
	保健師を助けてくれる
声を出す・提案する	保健師と一緒にやりたいと声を出す
	SOS が出せるようになる
	自分の気持ちが伝えられるようになる
	地自治会長が参加住民に呼びかける
	住民から保健師に感謝の言葉
	住民主体で声を出さなければだめだね
	住民の声
目標をもって活動	発信できるようになる
	自分たちで自治会の目標を決める
	一緒に活動しようとの提案
力を発揮し、喜びの体験	課題解決の目標を住民自身が出した
	活動する人が喜びを感じる
	参加者に変化
	グループワークで自分たちの意見が取り入れられる楽しさ
	受診率が向上
	表彰を受けて満足
	参加者が楽しむ
	やりがいを感じる
	つなげると自分たちで変わっていく

表 20-2 地域におけるソーシャル・キャピタルの醸成過程

カテゴリー	サブカテゴリー
力を発揮し、喜びの体験	市民さんは一生懸命考えていると応えてくれる
	住民が楽しそう
活動の継続	長く続けよう
	住民が続けたいと言ってくる
主体的な活動	活動する人の自主性
	住民グループが住民の力で地域で活動する
	市民が解決してくれる
モチベーション向上	成功体験によって元気になっていく
	結果が良い方向に向かうことで活動のモチベーションが高まる

5 考 察

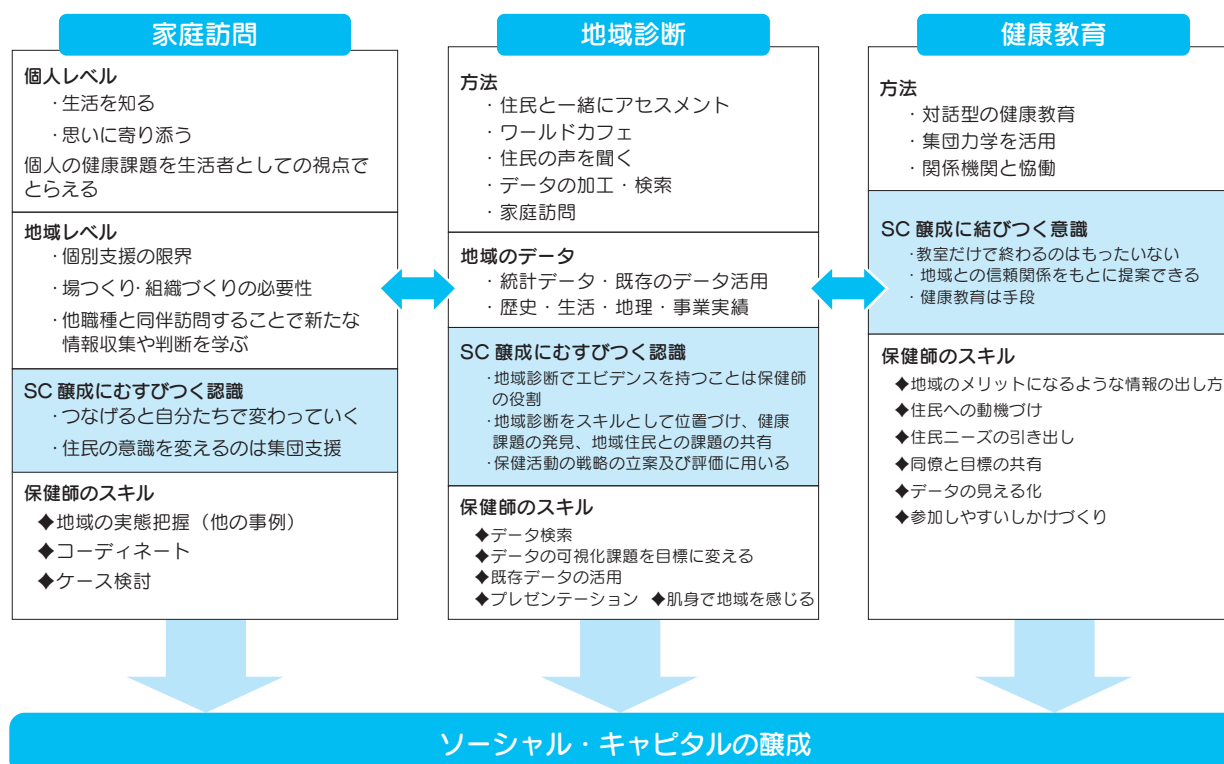
インタビューした保健師がソーシャル・キャピタルの醸成に取り組むきっかけとなった公衆衛生看護活動は、【家庭訪問】、【健康教育】、関係機関への【ヒアリング】であり、事業として取り組むことになった公衆衛生看護活動は、認知症高齢者の家族会や愛育班の育成、母子の切れ目ない相談の場づくりなどの【地区組織活動】、【まちづくり】であった。

(1) ソーシャル・キャピタルの醸成に役立つ保健師活動の経験・スキル

ソーシャル・キャピタル醸成経験のある保健師は、家庭訪問、健康教育、地域診断の場面から、保健師のソーシャル・キャピタル醸成に結びつく認識として意味づけ、そのうち保健師活動のスキルとして獲得していた（図 1）。

家庭訪問で、同じような健康課題を有する事例や保健師の介入では現実味のあるアドバイスができない事例に会うこと、健康教育で、地域住民の意識を変え、行動変容させるにはヘルスプロモーションを実践するしかないという想いを持った事例があり、これらは、保健師が単独で保健指導を行ったものの効果が乏しかったという、いわゆる失敗経験から気づきを得て、違うアプローチとしてソーシャル・キャピタルの醸成に展開していったものと考えられた。

図 1 公衆衛生看護活動から展開するソーシャル・キャピタルの醸成



まず、家庭訪問の場面では、個人レベルの意味づけとして【生活を知る】【思いに寄り添うことが大切】と個人の健康課題を生活者としての視点でとらえることを重視している一方、地域レベルでの意味づけでは【個別支援の限界を知る】【場づくり、組織づくりの必要性に気付く】【他職種と同伴訪問することで新たな情報収集や判断を学ぶ】と健康課題の解決方法として他機関とつなぐことや、集団支援を行うことで個人の意識を変えることができるというソーシャル・キャピタルの醸成に結びつく認識をもっていた。その際、【コーディネート】【地域の実態把握】【ケース検討による家庭訪問技術の向上】というスキルを合わせて学んでいた。

地域診断については、地域のデータを【統計データ・既存の数値化されたデータの活用】【歴史】【生活】【実績】【地理】等幅広くとらえ、地域診断の方法を【住民と一緒にアセスメントする】というプロセスの共有、【ワールド・カフェ】【住民の声を聞く】【データの加工・検索】【家庭訪問】と幅広い保健師活動の中で行っていた。その際の保健師のスキルとして【データ検索】【データの可視化】【既存データの活用】【プレゼンテーション】【肌身で地域を感じる】という実体験を組み合わせたスキルを習得していた。また、地域診断自体を重要なスキルとして位置づけ、エビデンスを持つことは保健師の役割であり、地域診断を健康課題の発見・地域住民との課題共有・保健活動の戦略の立案及び評価に用いることをソーシャル・キャピタルの醸成に結びつく認識としてとらえていた。

次いで、健康教育については、一方的なものではなく【対話型の健康教育】により課題を導くことや【集団力学を活用】することで住民の意見が反映されるような方法を取りながら【関係機関と協働】し、健康教育をソーシャル・キャピタル醸成の手段として認識していた。また、【教室だけで終わるのはもったいない】という認識のもと、【地域のメリットになるような情報の提示】や【健診データの分析と住民に見せる資料の作成】というスキルを習得していた。

平成 23 年 2 月厚生労働省から発出された「新人看護職員研修ガイドライン～保健師編～」では保健師活動実践能力の構造が示されており、保健師活動は必要な知識、技術、態度を統合した実践的能力を、地域・事業所等に生活する複数の対象を受け持ちながら、優先度を考慮し発揮することが求められると掲げられている¹⁰⁾。

このガイドラインの中の到達目標中の専門職としての能力Ⅰのうち個人・家族・小グループに対する小項目として、既に対象者の話を聴き、コミュニケーションをとりながら信頼関係を築くことができること、互いの役割を認め合いともに活動するなどの達成目標が明記されている。また、集団・地域に対する専門的な能力Ⅱの項目には、地域・事業場の健康問題を明らかにし、解決改善策を計画・立案する小項目として、顕在化している健康課題に気づくことができる、地域事業場の人々の持つ力を見出すことができるなどの項目が既に盛り込まれている。さらに、専門職としての能力Ⅲ（施策化）の中で、地域・事業場の人々の健康を保証するために、生活と健康に関する社会資源の公平な利用と配分を促進するに対する中項目には、社会資源を開発するために関係する部署・機関の間のネットワークの構築にチームの一員として関わるができる、社会資源を管理・活用して、施策化するという項目も明記されている。

稲葉ら¹¹⁾は、コミュニティの包括的理解において、個人・個人のネットワークというマイクロレベルから、グループ内・グループ間の特定化信頼、特定化互酬性を示すメゾレベル、社会全般への対応とするマクロレベルのかたちを考え、プロットすることができるとしている。

保健師活動においても、個人・家族・小グループに対するアプローチとしての家庭訪問、健康相談、健康教育などの対人支援、地区管理や地域組織活動などのメゾレベルの地域支援、組織との連絡やコーディネート及び会議の開催などの調整業務、地域の課題の事業化などの施策化業務をマクロレベルととらえることが可能である。コミュニティを対象とする保健師活動に、社会関係資本の観点をもつことで活動をさらに立体化し、構造化できうるものとする。

保健師に求められる能力として、佐伯は¹²⁾保健師には看護師としての力量の他に、自ら積極的に対象との間に信頼関係を構築できる力、柔軟性と視野の広さ、多様な場面で状況判断できる力、地域の課題分析と企画立案、健康に関する法律の理解、組織内外および住民への説明と交渉の力に加え組織人としての能力が必要であると提唱している。これらの能力を発揮しながら公衆衛生看護の活動を行うこと自体がソーシャル・キャピタルの醸成に大きく作用するものであると考える。

ソーシャル・キャピタルの醸成経験のある保健師は、家庭訪問、地域診断、健康教育という保健師活動を相互に作用させ、常に地域診断の結果をフィードバックしながら PDCA サイクルを展開している。家庭訪問、健康教育、地域診断で培ったスキル、経験値、保健師のソーシャル・キャピタルの醸成に深く浸透していると考えられる。

(2) ソーシャル・キャピタルの醸成に資する環境

ソーシャル・キャピタルの醸成経験のある保健師の環境、活動体制をみると共通する状況があった。その 1 つは、モデルとなる保健師の存在である。先輩保健師の活動やその姿から影響を受け、先輩保健師の卓越した技術を認識し、その展開方法を保健師活動の「技」として盗もうとしたり、「私もそうになりたい」「そういう保健師になりたい」と思っている。身近にモデルとなる保健師が存在するかどうかは、切れ目ない人材育成の必要性を感じさせる。

2 つめは、保健所と市町村の保健師の関係性である。多くは、保健所保健師が「タイムリーで適切なアドバイスをくれた」「共に悩み、後押ししてくれた」「私を育ててくれた」と認識してい

るが、市町村の保健師が、「応援し、アドバイスをしてくれる」という双方向の関係性を示す記述がある。保健所保健師と市町保健師とは、各自治体の役割を持って地域保健活動を行っているが、「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」の中で、都道府県が設置する保健所では、「市町村に対する援助及び市町村相互間の連絡調整の推進」の機能が示されている。市町村保健師と保健所保健師が、1つの事業を共に実施するプロセスそのものが、良い関係性を構築する考える。

3つめは、同僚についてである。「全てをさらけ出せる」「話を聞いて貰う」「寄り添う」等、評価を気にせず、話せる存在が周辺にあることがうかがえる。報告・連絡・相談は、仕事を進めるうえでの基本であり、朝礼や終礼等で行っているが、ここでいう「話す」「語る」とは、業務として義務的に行うものではなく、「困ったこと」や「やりたいこと」を自由に話せる職場環境が必要と考えられた。

上司の存在も重要で、保健師の「活動を理解し、容認し、責任は持つ。」「自由な発想を後押しする。」「共に働きかけてくれる。」そんな上司の姿勢が、保健師を活動に向かわせるようである。また、上司が人材育成の過程で、活動の振り返りの記録を求めたり、活動の経年変化を一緒にまとめたり、学会発表を推進するという姿があり、上司の職種についての言及がないが、統括保健師の役割と重なりがあるように感じる。

組織横断的な連絡会・研究会の存在は、情報交換や最新情報を得る場、知識や技術を獲得する場、さらに事業評価の場として認識されており、連絡会等を通じて、活動の視点が転換できたり、自主組織の運営方法を学べたりする等、ソーシャル・キャピタルの醸成に結びつけることができたと言われていた。このことから、ソーシャル・キャピタルの醸成に結び付く活動を行うためには、連絡会等を開催することが重要であり、次のような目的と内容により実施することが有効であると考えられた。

表 21 ソーシャル・キャピタルの醸成に資する職場環境

目的	内容
保健師の資質向上	研修、学習会、研究発表により知識や技術を得る
保健師活動の評価と方向性の検討	活動報告、話し合い
話し合える職場環境づくり	情報交換、定期的開催

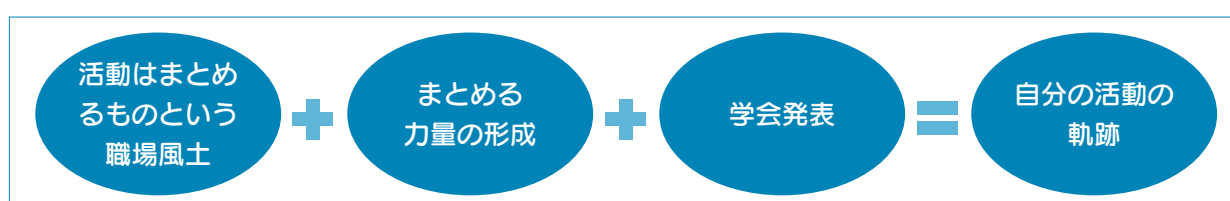
ソーシャル・キャピタルの醸成に結び付いた活動には、統括保健師の存在、助言、スーパーバイズがあったと言われた。「地域における保健師の保健活動について（平成 25 年 4 月 19 日付健発 0419 第 1 号）」（以下「指針」という。）では、「保健師の保健活動を組織横断的に総合調整及び推進し、技術的及び専門的側面から指導する役割を担う部署を保健衛生部門等に明確に位置付け、保健師を配置するよう努めること」と記載され、統括保健師の役割とされている⁶⁾が、指針に基づく保健活動を実施するには、保健師の人材育成が必須であり、統括保健師は人材育成の責任者としても重要な役割を担う。統括保健師を配置し、人材育成の責任者すること。さらに統括保健師は、常に人材育成の視点で、OJT の中で、保健師が活動を振り返ることができる助言を行なうことが重要と考えられる。

OFF－JT では、保健所保健師の誘いや、先駆的事例や尊敬できる保健師との出会いから、地域を変え、住民をエンパワメントしていくためにヘルスプロモーションの学習会に参加し力量形

成を図っている。コンサルテーション研修での人材育成を学ぶ経験や保健医療科学院の研修に参加することで、ベテラン保健師としての意識を学び、課せられている課題の実践を通じて後輩に寄り添いつつソーシャル・キャピタルの醸成について意識化していた。新人保健師の入職をきっかけとして、保健師活動を振り返り、地域の課題を捉えた活動や政策を提言することにつながったという記述もある。活動はまとめるものという職場風土は大きく影響している。学会発表を推進する上司の存在や学会発表が職場に根付いている。学会発表はまとめる力量が形成され自分の活動の軌跡となることが言える。また、学会発表までいかずとも、組織が行っている研究発表会や活動発表会に報告する経験もあった。

地区担当制により、担当地区が決まっていて、その地域に責任を持つ活動をすることは、そのままソーシャル・キャピタルを醸成することであり、最高の OJT 環境と言えるのだろう。

図 2 活動のまとめをすることの意義



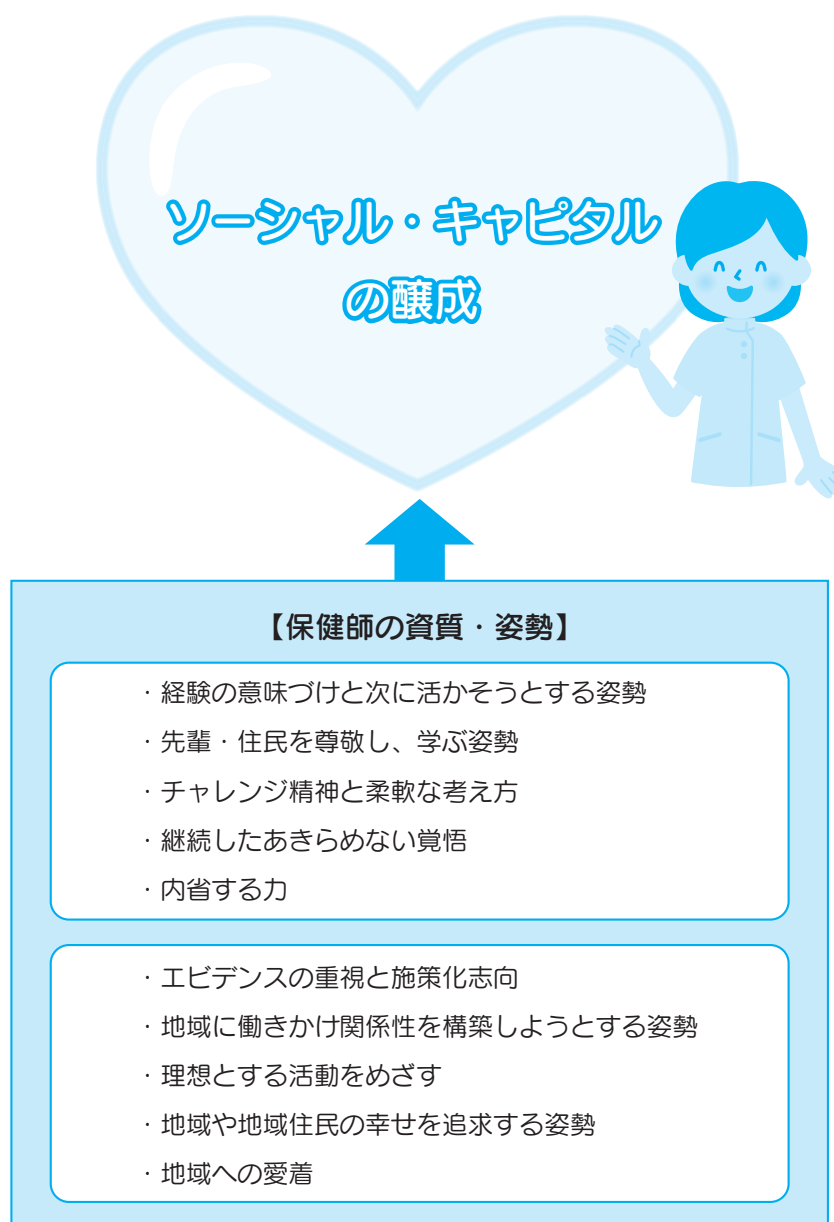
(3) ソーシャル・キャピタルの醸成経験のある保健師の資質・姿勢、職業観

①保健師の資質・姿勢

ソーシャル・キャピタルの醸成経験のある保健師の資質やその姿勢をみると、いくつかの特性がみられた。まず、どんな経験をも意味を見出すことができ、つらい経験も無駄にしないストレスをコントロールする力と次に活かそうとする姿勢がある。また、先輩の失敗談や展開方法から技術や PDCA を学んだり、住民の変化からも学び取ろうとする習得力や研究心がある。さらに、エビデンスを重視し、根拠を持って発信したり、施策に反映させようとする積極性があることから、新しい職場やポジションを与えられれば、そこで新たな方法を生み出す創造力にも優れていることが伺える。人との出会いや人間関係を大切にしておき、関係づくりをしており、人との会話や意見交換をし合えるコミュニケーション力、相手の意見や立場を尊重する態度、傾聴と意見を引き出す力が備わっていると考えられる。保健師として住民の声を聞き生活に触れることを重視し、住民の健康や幸せを追求する姿勢で役割を果たそうとしており、このことは住民に寄りそう保健師としての基本的な態度といえる。この地域をどうにかしないといけないという思いを受け継ぎ、他の地域に負けたくないという地域への強い愛着心や使命感がみられる。あらゆる機会に地域に投げかけたり、キーパーソンに働きかけ関係性を構築しようとしていて、保健師として理想とする活動を目指し、熱い思いとあきらめない気持ち、腹を据えて取り組もうという覚悟を持っている。一方で、とりあえずやってみようとする柔軟な行動力やチャレンジ精神、結果を客観的に振り返りながら内省し、さらなる向上と発展につないでいくたくましさや自律性がある。

これらの資質や姿勢は、経験年数や、年齢、段階を追って形成されるものではなく、ある時にある事象を通して強く意識、認識され、その後のその保健師の活動の核となっていくものと考えられる。このターニングポイントは、教育や先輩・上司のモデル、住民との関わり、活動の振り返り等たゆまぬ働きかけにより生み出されるものと認識し、心に響く育ち合いの機会を持続させる必要がある。

図3 ソーシャル・キャピタルの醸成経験のある保健師の資質・姿勢



②職業観

ソーシャル・キャピタルの醸成経験のある保健師は、その経歴の中で、置かれた環境や上司・先輩保健師等との関係性、活動体験を通じて保健師としての職業的アイデンティティの確立を図っていることがわかった。(図 4)

まず、職場環境においては、首長の理解や統括保健師の助言・スーパーバイズを受けられており、保健師の活動が上司に伝わり支持されることで、専門性を発揮しやすい環境にいる。また、先輩保健師からの書面による引き継ぎや後輩へ伝承していくという職場風土の中で良い活動を受け継いでいる。

同僚との関係においても、すべてをさらけ出せる関係性があり、モチベーションが高められ熱い思いが培われている。先駆的事例や尊敬できる保健師との出会いも大きく影響を与えていると思われる。

実践の中で、保健師活動の面白さや醍醐味を実感することで、保健師の役割について認識し肯定感を持つことで、保健師という職業への適応と自己一体感が芽生えていく。さらに経験を積み重ねながら、健康を切り口にした活動の意義、一次・二次・三次予防を総合的に組み合わせた地域活動の展開、活動対象の健康レベルの多様性や福祉との違い、行政保健師の役割と意義等、幅広い保健師の役割について深化させ、困難な課題に向き合い業務に位置付けていく姿勢が育まれている。

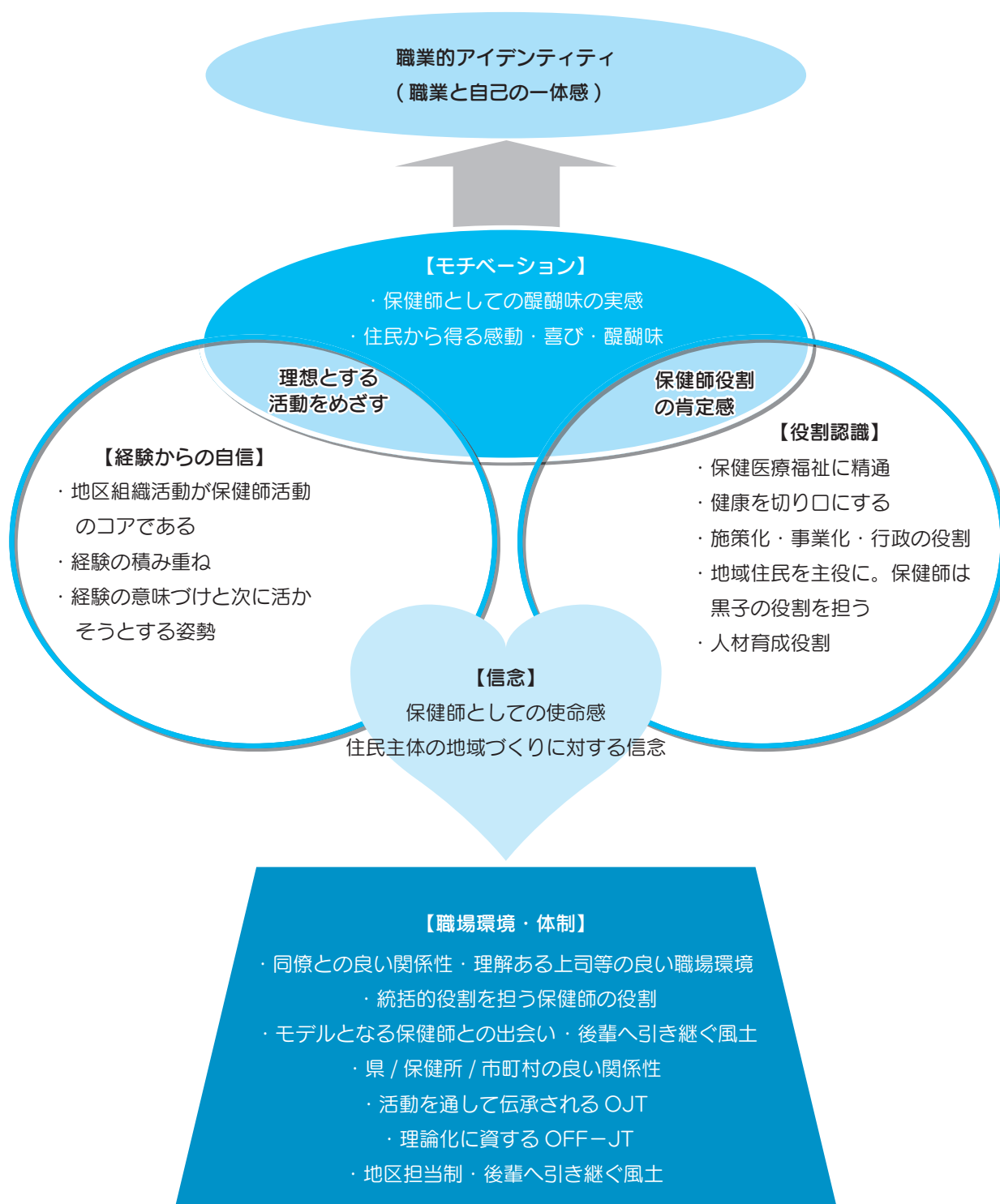
悩みながらも活動する中で、住民からの感謝や職場内外からの評価を得て、自己効力感が高まり、やりがいを感じるとともに、活動のノウハウを蓄積していく。住民が主役で保健師は黒子の役割だという気づき、鳥の目虫の目で地域全体を見る目を持つこと、住民と一緒に活動することが保健師本来の活動だという確信、地域診断の重要性と課題を地域に発信するのは保健師しかいないという思い、改めて保健師は保健・医療・福祉に精通している人材で有ることを自覚し、あるべき保健師活動の姿を自己の中に同一化している。

根岸・麻原は、「保健師の職業的アイデンティティとは、自らの思考、行動に結びつく、常に保健師であるという職業に対する意識であり、日々発達していくもの」と定義している¹³⁾。

ソーシャル・キャピタルの醸成経験がある保健師は、自らの経験を経て保健師という職業と自己に一体意識が形成されており、このことは保健師のアイデンティティを確立した状態といえる。また、【あるべき方向性に向けて目標を確認・共有】しながら、【継続しながら常に方向性を軌道修正】して活動を展開していることや、【経験を基に自分で咀嚼し、考え、判断すること】、人材育成において【上に立つ者の役割を認識】し、人材育成役割を認識する等高いコンピテンシーが備わっている。

職業的アイデンティティの確立は、質の高い業務活動と強い関連があるとされる¹⁴⁾ことから、保健師の人材育成において、保健師という職業に誇りが持てて自己と一体化できるよう職業的アイデンティティの確立を中心に据えて取り組む必要があると言える。

図 4 保健師としての職業的アイデンティティの確立



(4) ソーシャル・キャピタルの醸成過程

ソーシャル・キャピタルの醸成過程について各事例から得られたプロセスは以下の①～⑩であった。カテゴリーを【 】、具体的な発言を〈 〉で示す。

①失敗経験からの学び

事例3では、当初、〈実際その愛育班という組織がわからなかった〉〈組織の必要性ということも、まだ入ったばかりで、よく理解していなかった〉という自分の組織・組織づくりに対する無知や無理解から、〈私はその愛育班の話し合いに行っても、無駄話をしているようにしか、最初、聞こえなかった〉という〈日常生活のありきたりの話をして、その中からこの地区の問題点を見つけてそれをみんなで課題にして取り組みをする〉という地区組織活動のプロセスに対する理解不足があった。その結果として【先輩が立ち上げた愛育班を自分が潰した】という失敗経験をしたが、それでも【いつか愛育班をつくりたいという思い】を温めていた。この思いは、【経験の意味づけと次に活かそうとする姿勢】【先輩を尊敬する気持ち】【継続したあきらめない覚悟】といった個人の資質・姿勢に加え、【私を育ててくれた保健所保健師の存在】によって【内省する力】を得ていったものと考えられた。

事例1では、〈様式すら知らないとか、そのマニュアルがあるのも知らない〉という関係者へのヒアリング結果から【一部の代表者で作ったマニュアルでは現場で活用できない】という気付きを得ていた。

②個別事例から始まる組織づくり

事例4では、障害を持った子どもの訪問から、親が集まる会を設定していた。その原動力となっていたのは【住民が無理なくできる継続した事業展開】をしなければ、〈行政で1カ年事業なんてやってもその事業が終わったら終わり〉という行政の限界を感じていたことと【県民が健康でいるために本当に必要な仕事がしたい】という【保健師活動のコア】を認識していたことであった。

事例7では、〈集まる場所があったらいいな〉〈他の人はどうしているんだろう〉とい【子育て中の母親からの声】を受け【住民ニーズと地域の社会資源に合った場の設定】を行い、【保健師が伝えるより、母親同士の情報の方が現実味があると知った】が、それには【活動内容や参加者の変化を記録することが評価に役立っていた】。

事例4では、実際に集まる会を実施してみて【孤立していた人が「仲間がいた」という体験をしたことに感動】し【集まることで荷を下ろしたと感じている住民からもらった感動】という心の動きを通じて、【住民と一緒に組織化の活動をすることが本来の保健師の活動】であるということを確認し、【保健師役割が明確に】なっていた。

事例9では、〈ハイリスク支援で関係部局とか個別ケースを通して顔の見える関係性を作ってきたが、問題があってから支援したのでは潜在している不安は取り除けない〉ことに気付く【個別支援だけでは地域は変わらない】ことを認識していた。

③地域診断から始まる組織づくり

地域診断とは「公衆衛生を担う専門家が、地区活動を通して健康課題を明らかにし、地区活動を通して個人のケアに留まらず、集団あるいは地域を対象にケアを行い、地区課題を軽減/解消していく一連のプロセスである」とされている¹⁵⁾。

事例3では、〈農業で無理をして働いて筋骨格系の疾患が多い〉〈健診を受けるまでの行動変容まで全然至ってない〉という【質と量の両面で地域の健康課題を把握する】ことで【地域の健康課題に取り組む仕組みをつくりたい】という思いを強くしていた。

事例4では、〈結果をどう見せるかという着地点があって、そのために資料を集めていって加工してプレゼンテーションしていくような〉〈欲しいものに向かってつくっていくという感じ〉で地域診断を使っており、学生が行う地域診断とは異なり【必要性の認識】を基に【エビデンスを重視】するという姿勢の現れとして地域診断を実施していたと考えられた。

事例9では、地域の実態把握のために、妊婦を把握するために簡単なアンケートを作り【コミュニケーションツールとしてのアンケートの利用】をしていた。

④勝算・確信を持ち戦略的に関わる

事例3では、【これで組織をつくれるという確信】を持ったのは保健師の採用を【所属組織に継続して働きかけ】実現したことによっていた。

事例9では、保健師から〈初年度については、こんな予算が取れたの〉と地域に示し、次年度は地域が継続して事業が行えるよう、【仕掛けとしての健康教育】を行い、初年度のノウハウを地域が活用できるよう【地域のメリットになるような情報の出し方】をするなど、戦略的に関わる方法を身に付けていた。宮崎は、保健師による事業化の戦略の概念は「地域住民の健康生活を目標に、公共性のある健康課題に事業化という方策を用いて対処するために、コミュニケーションを重視し、個人・家族・住民・地域に関する多くの情報を収集して資源を有効に活用し人々と協働していくプロセスであり、住民と地域の主体的な力の育成へと発展する活動である。」と定義している¹⁶⁾が、これらの事例では、勝算や確信という見通しを持てるだけの情報の把握と、判断力を持ち合わせている点がソーシャル・キャピタルの醸成に結びつくものであると考えられた。

⑤地域のあるべき姿を描く

事例2では、〈ものすごく頻回にセッションというか打ち合わせや、雑談の延長の中で、こんなことやりたいねの話〉から〈地域の目指している具体的な方向性〉を明確にする役割を保健師は果たしていた。

事例8では、地域住民と【事業主体でなく、こうあったらいいねを語り合う】ことを行っていた。具体的には、〈介護予防の活動が活発になるとか、高齢者の居場所ができるだとか、そういう見守りや顔見知りの関係ができるとか、いろんな角度からそれができるような地域づくりをする〉ということを〈主に民生員と一緒に話し合いなんかを通じながらお伝えしつつ、考えていった〉ものであり、ソーシャル・キャピタルの醸成そのものを【地域のあるべき姿】としていた。事例6でも〈事業一つ一つではなく地域づくりが達成ゴール〉とし、事業が〈達成目標を明確にして方法論を考えてという方法でやっている〉のとは異なるものであることが語られていた。

⑥地域との関係性の構築

事例8では、〈健康教育をしてくるときに、会長や他の人と茶飲み話も含めてして、そういう時に、ちょこちょこ話してきたり、聞いて来たり〉といった【顔を売ってくる】ことが大事としていた。

事例8では〈委託事業を見に行った時に、ちょっと話をした時に、実は地域で自治会を巻き込んで活動している〉ことを知り、その人の〈やっぱり参加してみても運動が大事だと思うから何かやりたいと思っているのよね〉という言葉をつまみ〈それはぜひ一緒にやりましょうか〉という声掛けをし【キーパーソンが存在を逃さない】ようにしていた。また、事例5では、以前の保健活動の中で出会った、求心力があってグループのことをわかっている人を見つけ、〈この人じゃないとこの組織はできない〉という思いでキーパーソンを発掘をしていた。事例6では、〈健康について講演会をやりたいとか、何かするときは相談に来たり、つながって〉【地域のキーパーソンとの信頼関係を培】い、【キーパーソンとの信頼関係が活動につながる】原動力になっていた。事例9では、【キーパーソンが活躍できる場づくり】を行うことが大切であるとし、【キーパーソンには感謝し、いただいた意見には必ずフィードバックすると信頼感が得られる】としていた。

事例5では、〈市民を紹介する場が有意義で楽しくなければ申し訳ない〉という【市民との関係を大切にする】という姿勢を基に活動を展開していくことで【市民は一生懸命考えていると応えてくれる】と感じ、【市民は信頼できる】という信念が生まれていた。また、事例1では、地域住民と一緒にやることで〈楽しさ〉と〈何でもやっていける〉という感覚を得ており、どんな問題でも【みんなでやっていけそうという見込みと自信】が生まれていた。これらは地域との真のパートナーシップが生まれているものと考えられた。

⑦関係機関への働きかけ

事例1では、【実態把握のために管内全ての病院の聞き取りをする】ことで課題を見出し、【保健所が来るのが当たり前になるような関係性の構築】を図るとともに、【現場レベルの作業班を組織し課題を共有する】ことに時間を使っていた。

事例4では、〈障がい児がすぐに診てもらえるようにお医者さんの後ろ盾が欲しい〉という親の思いを実現するために【医療の専門機関のコーディネート】をしていた。

事例9では、家庭訪問に【他職種と同行訪問する】ことで、他職種が把握している情報を収集したり、判断を聴く場面を設けていた。また、事例4では、関係者には〈この地区の責任者はあなたです。あなたにすぎるしかありません〉と言いながらも、私と〈一緒に行ってくれないか〉という【関係機関が現地に出向くよう一緒に行動すること】を丁寧に行っていた。関係機関とは課題を共有し、同じ目標を持つことが重要であるが、そこに【地域の代弁者としての保健師の熱い思い】と関係機関を尊重し【協調する気持ち】が無ければならないと考えられた。

⑧住民協働のあり方

事例1では、【住民目線でできていなかったことの反省】から関係機関が集まる場で、【当事者に体験談を語ってもらう場を設定】していた。その結果、保健師は〈違う病気が起こった時も経過がちゃんと関係者に伝えることができる〉ようになるなど【患者や家族が関わることで患者自身が主体的になる】という効果を実感していた。

事例1では、【事業評価】や【毎年の継続した訓練】を関係者や地域住民とともに行っていた。訓練の中で〈バージョンアップして今ではその地域の人たちが中心になって、地元のコンビニ、ガソリンスタンド、農協、郵便局まで、自分たちの力で広げていってくれる〉ことで【一緒にやった経験は、いろいろな活動に広がる】、【住民パワーは強い】という【保健師の力を越えた効果】を実感していた。

その他、事例2では、【企画や準備を住民と一緒に担う】ことや、役員と【反省会でワークショップの意義を共有】し、保健師は〈この後もグループワークを引き続きやりませんかという提案〉を行っていた。

事例9では、【地域がやるからいい結果が出ているということを地域に返す】ことで、活動意欲を増す働きかけを行っていた。

⑨組織化のプロセス

事例7では、【住民に地域の現状を知ってもらう】ために、統計データを示していた。

事例8では、【課題の共有化の手法であるワールド・カフェ】により、地域住民と〈その思っていることを出し、課題の整理まで〉を行っていた。また、【課題を目標に変える】ことを行っていた。事例6でも、〈何のためにとか、どういうふうに地域で活動していってもらおうとか〉〈会の目的や活動について話し合い、方向性の共有に時間をかける〉ことで、【会のあるべき姿を見据えることが重要】としていた。

事例3では、保健師自身の力量としては【健診データの分析と住民に見せる資料の作成】を行い、住民には【グループワークで自分たちの意見が取り入れられる楽しさ】を体験してもらい【グループワークを用いた地域の健康上の目標の設定】を行い継続的な事業になるよう働きかけていた。これには、【教室で終わるのはもったいない】という【地域に対する愛着】や【住民主体の健康づくりに対する信念】や【長期的な展望】を持っていたものと考えられた。

事例3では、〈私はこういう思いがあるが、あなたはどうか〉という【同僚との目標の共有】を図り、〈町にとって一番波及効果の高い自治体で成功すると、うちもやろうっていうことになる〉という戦略を立て【モデル地区での健康教室の実施】を行っていた。

事例5では、【健康教育からグループを立ち上げ】ていたが、〈そのままにはいけない〉、〈もったいない〉という想いが原動力になっていた。

事例8では【組織化の準備・協働のための根回し】として〈いろんな機関、団体、団体同士をつなげて、集まって、実行委員会という形にして〉〈遊びの機会や居場所をつくりましょう〉ということを提案して〈実行委員会が協働して組織として成り立っていくのを支援〉していた。

事例4ではグループをつくる時に事前に【ファシリテーターの養成】をしたり2人1ペアぐらいの【小グループを活用】したりしていた。

事例6では、〈自主サークルを立ち上げたいということを明言〉して〈そのために3か月間保健師がお手伝いします〉と【最初から目的を明言し、期限を決めて支援する】ことを行っていた。その支援は〈みんなが主役で役割感を得られるような〉【市民が主役となるための取り組み】を行っていた。

事例6では、【皆が対等に話せる場づくり】を行い、〈地域で横のつながりができた〉〈ネットワークができた〉〈健康について話し合う場ができたというのは財産だ〉という【地域が変化することに気付き、認め、エンパワメントする】ことを捉えていた。

事例9では、一定動くのを待ち、動かなかった場合には、〈今度、一緒に見に行きませんか〉と【うまくいっている事例を紹介する】手法により、地域へのイメージ化を働きかけていた。

事例7では、組織化の活動の中で【活動していない住民が関心を持つ】という波及効果を捉えていた。

⑩施策化のプロセス

事例4では、【保健師だからと熱くなって浮かないように行政と上手くやっていくこと】が重要であるとし、【行政職と歩調を合わせ、応援してもらう方法】として〈行政職の方に教えてもらいながら〉〈同じような言葉を使い〉〈県民にどのようなメリットがあるか〉訴え〈納得いただける計画を立てる〉〈予算化する〉という展開をしていた。予算書を書いた経験がある保健師の方が連携得点が高かったという報告¹⁷⁾もあり、予算化するために、関係機関や関係部署と連携が推進される可能性があると考えられた。

〈その事業に参加した人とそうじゃない人の比較〉で効果を検証するなど、【エビデンスに基づく】、【事業のアウトカムとアウトプット評価】を【推進会議を設置】して行うということを、あらかじめ計画していた。

事例9では、【対象は全ての住民】であるとし、ネーミングからこだわり目新しさを示しながら【住民への意味づけ】を行っていた。

保健師は、個人及び地域の健康課題の解決のために活動するということは、就業直後から認識している。当初は地域というものを漠然と捉えており、家庭訪問や健康教育、地区組織活動がそれぞれ単体の活動になりがちで、地域住民の課題を保健師が解決するかのように考えていた傾向があった。

しかし、個別支援や集団支援などの様々な経験を通じて、地域住民の生活実態や能力を知り、顔の見える関係ができ、地域の健康実態を客観的な根拠をもって捉えられるようになると、保健師が課題を解決しているのではなく、住民の力を引き出すこと、エンパワメントすることが保健師の役割であると気づいていた。

ソーシャル・キャピタル醸成の経験を持つ保健師は、個別支援や地区組織活動など様々な支援手法が相互に関連しているものと考えられるようになり、課題の大きさや対象の範囲などの入り口がどこであれ、支援の行き着くところはソーシャル・キャピタルの醸成につながっていると捉えていた。

その気づきを促進しているのが地域診断で、「この地域を何とかしなくては」という使命感が強化されると同時に、地域の課題だけでなく住民の力や人的資源を知ることにより、「住民には力があり、それを使わなければもったいない」という信念が生まれていた。また、「住民に学び」「住民と相互に成長する一体感」を実感することによって「地域への愛着」も形成されていた。こうした保健師の感性と、住民に真摯に向き合う姿勢によって信頼関係が築かれ、ソーシャル・キャピタルの醸成につながる活動が展開されていると考えられる。加えて、その「地域への愛着」の高まりから、「住民の表彰」や、「地域の主体的な活動を首長に報告する」、「取材による広報に向けた動き」をするようになっていた。

ここ至るまでのプロセスに、大きく3つのパターンが抽出された。

ひとつは、個人の課題を解決しようとするときに、その背景にある地域、生活を継続していく地域というものに目が行き、個人だけではなく地域をまるごと見ていく必要性に気づいていくプロセス。保健師が「対象はすべての住民」だと考えて活動を継続していくと、「活動していない住民が関心を持つ」ようになり、潜在的なニーズの発見にもつながっていたもの。

2つ目は、共通の健康課題をもつ住民（または共通の目標を持つ住民）に集団的に働きかける活動の中で、保健師が住民に代わって課題解決するのではなく、住民自身に考えがあり、解決力があることに気づいていくプロセス。「つなげると自分たちで変わっていく」「保健師より住民自

身の言葉に説得力がある」と気づき、保健師自身が「住民に対する信頼感」を持つことによって、対等な関係性を築き「住民とともに成長する一体感」を経験していくもの。

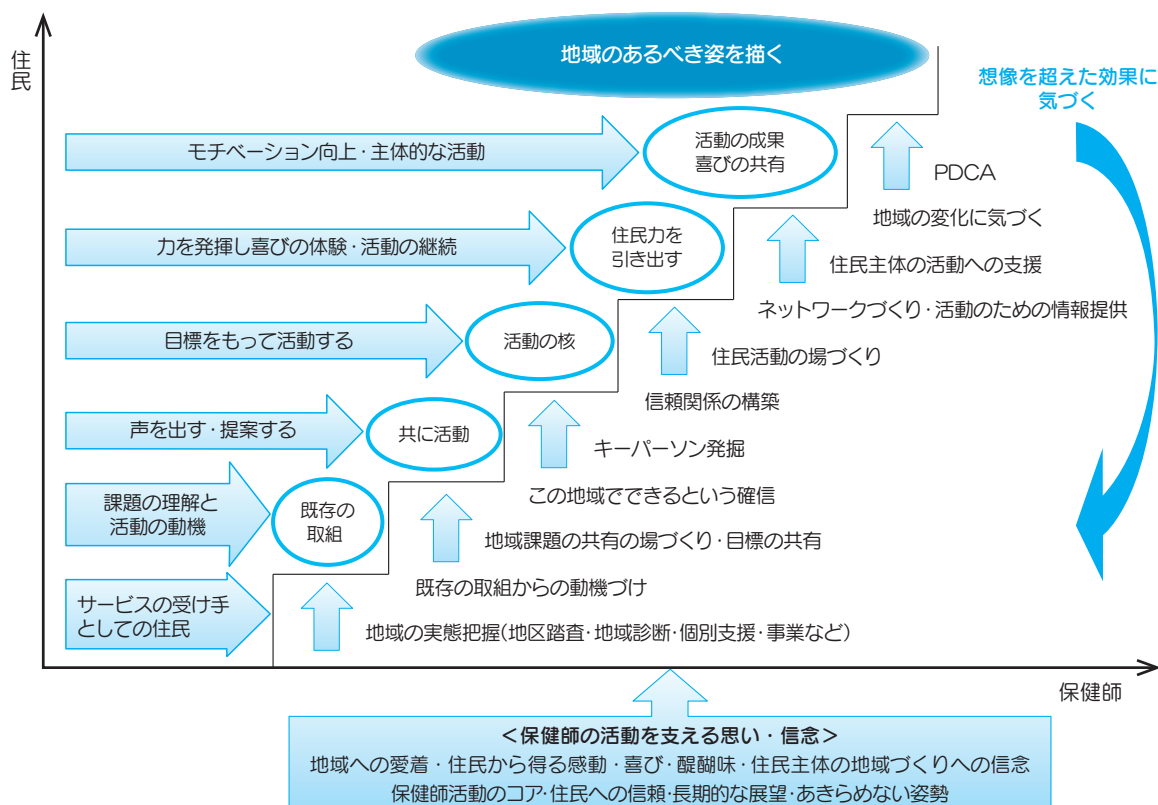
3つ目は、意図的に地域診断を行い、地域を俯瞰することによって、解決すべき課題が明らかになり、その課題を住民と共有する場を設けることによって、解決のためのキーパーソン発掘や住民主体の活動促進につながっていくプロセス。住民とともに「あるべき地域の姿を描く」ことや「住民と一緒に活動する」ことによって、地域の変化に気づき、喜びを感じていくもの。

いずれも、失敗や成功を繰り返しつつも、同僚・先輩・上司等のサポートを受けながら、その実践プロセスを客観的に内省・検証し、意味づけしていくことによって、PDCAサイクルが好転していた。地域住民との一体感の中で活動することに喜びを感じ、「住民と同じ土俵で」「対等な関係」として活動するようになっていた。

また、学会発表などを機に活動経過を研究的にまとめることによって、実践が科学的な根拠となり、次の活動につながる自信となっていた。

対象者は様々な課題をソーシャル・キャピタルの醸成によって解決していた。これは、ソーシャル・キャピタルを醸成する体験によって、保健師の想像を超える効果があることに気づき、地域の変化に気づき、地域にもたらされたものに感動したり、地域住民や組織は素晴らしい力を持っていることを実感したりすることで、それ以後のあらゆる課題をソーシャル・キャピタルの醸成に向けた働きかけで解決する態度が定着したものと考えられた。

図5 ソーシャル・キャピタル醸成過程のモデル

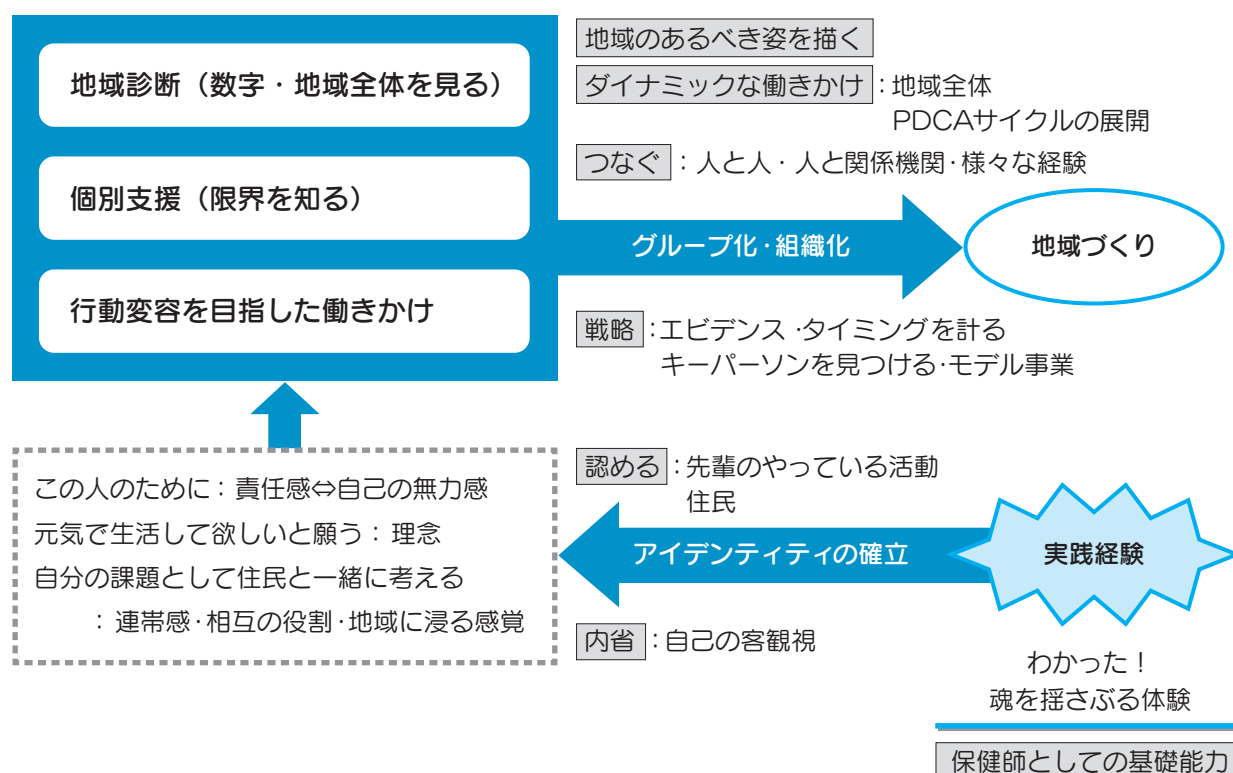


(5) ソーシャル・キャピタルの醸成過程に応じた能力形成

ソーシャル・キャピタルの醸成を志向する保健師の特徴を成長過程としてモデル化し、図6に示す。ソーシャル・キャピタルの醸成を図るには、基礎としての保健師能力があり、魂を揺さぶるような体験などの実践を通じて、本当の意味で「わかった」と体得できる。このような実践経験から保健師としてのアイデンティティが確立され、経験を内省することにより、あらゆる他者を認め、地域住民に対する責任感や「元気で生活して欲しいと願う」理念や、地域の健康課題を「自分の健康課題であるかのように見なして地域住民とともに考える」関係性を構築していると考えられた。直接的には、地域診断で地域の健康課題を把握したり、個別へのアプローチだけでは解決できない課題があることに気づき支援の限界を知ったり、行動変容を目指すには地域が変わらなければならないという信念を得たりすることでグループ化や組織化を図ろうとしていた。

組織化の中では、いわゆる「つなぐ」働きを丹念に行い協働して行う地道な活動とともに、地域全体に働きかけ、PDCAサイクルの展開を図るなどのダイナミックな働きかけの両者を同時に行い、エビデンスに基づき戦略的に介入していた。地域住民とともに地域のあるべき姿を描き、地域における究極の目的は地域づくりであり、個々の事業に埋没することなく、地域づくりこそ保健師の役割であるという活動のコアを明確にしつつ公衆衛生看護活動を展開していた。

図6 ソーシャル・キャピタルの醸成を志向する保健師の公衆衛生看護活動展開モデル



このような公衆衛生看護活動展開は相互に関係性があり、複雑に絡まっていると考えられるが、ソーシャル・キャピタルの醸成を図る上で、いくつかの必要不可欠な能力について形成段階を表22に示した。

表 22 保健師のソーシャル・キャピタル醸成にかかる能力形成



段階		実施	分析	地域とのすり合わせ	地域との統一化	協働
能力	住民と目標を共有する力	他の地域と比較する等で課題を見つける	地域の生活実態と統計データを突合させる	地域に還元し、意見交換をし、課題を共有する	住民と共通した目標を設定する	目標を共有する
獲得すべきスキル	地域診断	統計分析	データの可視化	ワールドカフェ グループワーク プレゼンテーション	モデル事業の実施 予算化・事業化 戦略を立てる	広報 潜在化する対象にも焦点を当てる
学習場面	基礎学問					
能力	個別課題を地域の中で解決する力	生活実態を捉える	環境が生活に及ぼす影響について分析する	人をつなぐ、キーパーソン・活動の場を探す	地域での展開方法・企画を立案する	地域の中で解決する
獲得すべきスキル	ヘルスプロモーション理論 家庭訪問技術			交渉力 コーディネート	企画・立案	
学習場面	基礎学問	事例検討				
能力	当事者組織の育成	健康教育やヒアリングにより実態を捉える	生活実態と健康データを突合させる	当事者の思いや考えを聴く	当事者と共通した目標を設定する	組織化する
獲得すべきスキル				エンパワメント		組織化
学習場面				先駆的事例からの学び		
サポート環境	統括的保健師の配置 保健所の助言	地区担当制	組織横断的な連絡会 他職種との意見交換 上司の助言	上司と共に行動する組織	職場内の議論 予算 組織の方針	

6 提 言

ソーシャル・キャピタルの醸成を図ることのできる保健師を育成するために、(1) 基礎教育において学ぶべきこと、(2) OFF－JT もしくは自己研鑽として学ぶべきこと、(3) OJT において学ぶべきこと及び望ましい職場環境について提言したい。

(1) 基礎教育において学ぶべきこと

基礎教育では地域診断の方法論、ヘルスプロモーション理論、家庭訪問や健康教育など各種の公衆衛生看護技術について学んでおく必要がある。また、地域住民から生活実態を聴く経験は、地域住民の持つ力に気付き、地域の健康を推進できる担い手として、地域住民を捉えるきっかけになる可能性がある。

公衆衛生看護活動はその専門性が見え難いことから、保健師の実践家に、エビデンスや情報をどのように判断し活動を展開したのかという語りを聴く場面が必要である。

(2) OFF－JT もしくは自己研鑽として学ぶべきこと

ソーシャル・キャピタルを醸成した先駆的事例紹介、エンパワメント、コンサルテーション、学会発表は公衆衛生看護活動の実践を理論化することに資するものである。その他、住民視点で物事を捉えるため、幅広い知識の習得が役立つと考えられる。

(3) OJT において学ぶべきこと及び望ましい職場環境

ソーシャル・キャピタルはまさしく地域づくりそのものであり、地域担当制は重要な要素である。

地域診断は統計データの分析に終始するのではなく、住民の生活実態とつなげることが重要であり、課題の根拠として示せなくてはならない。事業を企画し、予算を計上することは、能力形成という点で役立つ。

活動の振り返りは非常に重要であり、活動をまとめて報告したり、学会発表したりすることは有効である。その前段階として、記録を書き、なぜそう考えたのかという根拠を示す、他者に理解できるよう表現するなどの能力を磨く必要がある。また、日常的に文献を活用し、自らの活動を評価できるようにすることも重要である。また、科学的検証に基づき活動の展開を図ることも忘れてはならない。

上司や統括的役割を果たす保健師は、活動をまとめることは当然であるという風土を作り、組織横断的な意見交換の場を設け、先輩の活動を学ぶ場や、自己の活動を振り返り内省する場を作る必要がある。具体的には「地域で何を捉えてきたのか?」「なぜそのように判断したのか?」など日常的な指導をすることが効果的である。また、過去に先輩である自らが実践したソーシャル・キャピタルの醸成過程を語ることは伝承に役立つものである。

7 結 語

本研究では保健師の能力のうち、ソーシャル・キャピタルの醸成を図る能力に焦点を当て、ソーシャル・キャピタルの醸成経験を有する保健師へのインタビューから、その能力を形成するために獲得したスキル、経験、備えていた資質・姿勢、それらを強化した環境を明らかにした。その上で明らかになったソーシャル・キャピタルの醸成過程を基に、保健師の能力形成プロセスを検討した。

【謝辞】

本研究に際し、貴重な経験及びその過程についてインタビューで語っていただいた対象者に深く感謝申し上げます。

8 引用文献・参考文献

- 1) 岩本里織・岡本玲子・塩見美沙：「公衆衛生基本活動遂行尺度」の開発と信頼性・妥当性の検証．日本公衆衛生雑誌 55（9）,2008；629-639
- 2) Putnam RD,Leonardi R,Nanetti R:Making democracy work:Civic tradition in modern Italy. Princeton University Press;1993
- 3) Kawachi I,Subramanian SV,Kim D.Social capital and health:A decade of progress and beyond.In:Kawachi I,Subramanian SV,Kim D,editors.Social capital and health,New York:Springer,2008;1-26
- 4) 尾島俊之：ソーシャル・キャピタルと地域保健 アセット・モデルとニーズ・モデルを含めて．保健師ジャーナル,67（2）,2011;96-100
- 5) 平成 24 年 7 月 31 日付健発 0731 第 8 号厚生労働省健康局長通知「地域保健対策の推進に関する基本的な指針の一部改正について」
- 6) 平成 25 年 4 月 19 日付健発 0419 第 1 号厚生労働省健康局長通知「地域における保健師の保健活動について」
- 7) 笹井康典：平成 24 年度地域保健総合推進事業 健康づくりにおけるソーシャル・キャピタルの育成等に関する保健所の役割に関する調査研究報告書．（一財）日本公衆衛生協会,2013.3;47
- 8) 平成 25 年度地域保健総合推進事業「ソーシャル・キャピタルの醸成や活用にかかる保健活動のあり方に関する研究」報告書
- 9) 平成 24 年 12 月 19 日「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会 中間とりまとめ」（URL:<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000069264.html>）
- 10) 平成 23 年 2 月 14 日付医政看発 0214 第 2 号厚生労働省医政局看護課長通知「『新人看護職員研修に関する検討会報告書』の送付について」
- 11) 稲葉陽二・大守隆・金光淳・近藤克典・辻中豊・露口健司・山内直人・吉野諒三：ソーシャル・キャピタル「きずな」の科学とは何か．ミネルヴァ書房,2014.6;13-15
- 12) 佐伯和子：保健師学生が学ぶ公衆衛生看護とは．看護教育,Vol.53 No.6,2012;453
- 13) 根岸薫・麻原きよみ・柳井晴夫「行政保健師の職業的アイデンティティ尺度の開発と関連

- 要因の検討」日本公衆衛生雑誌,57 (1),2010;27-38
- 14) グレッジ美鈴:「看護師の職業的アイデンティティに関する中範囲理論の構築」看護研究,35 (3),2002;196-204
 - 15) 平成 24 年度地域保健総合推進事業「地域における保健師の保健活動に関する検討会」報告書,2013.3
 - 16) 宮崎紀枝:保健師による事業化のストラテジー(戦略)ー概念分析ー.日本保健科学学会誌,13 (1),2010;12-20
 - 17) 筒井孝子・東野定律:全国の市区町村保健師における「連携」の実態に関する研究.日本公衆衛生雑誌,53 (10),2006;762-776
 - 18) 平成 22 年度地域保健総合推進事業「地域診断から始まる見える保健活動実践推進事業」報告書,2011.3
 - 19) 坪内美奈:行政保健師による地域の健康課題の解決を図る方法に関する文献検討.千葉看護学会会誌,15 (2),2009;36-45
 - 20) 山田小織・守田孝恵・伊藤直子:住民組織における保健師の支援内容とメンバーの活動意欲,保健医療科学,59 (2),2010;159-168

9 資 料

(1) インタビューガイド

I あなたのこれまでのソーシャル・キャピタルの醸成経験についてお尋ねします。

1 ソーシャル・キャピタルの醸成として、あなたが行った活動は次のどれに該当しますか？

(複数回答可)

☐ 地縁を活性化したり、地縁のない地域の新たなつながりとして住民を組織化する

☐ 住民組織との協働

☐ 住民組織間の連携

☐ その他 ()

2 あなたが行った活動を具体的に教えてください。(複数の場合は経験年数を明記)

(1) 時期 (経験年数: 年目・職位:)

(2) 対象

(3) 目的

(4) キーパーソンとなった人

(5) 活動内容

(6) 成果・地域にもたらした変化

3 あなたがソーシャル・キャピタルを醸成しようと思った、もしくは2のような活動をしようとしたのには、どのようなきっかけがありましたか？

(1) 地域住民等の外的な動機

(2) 職場の活動目標・組織上の体制等の環境的な動機

(3) 自己学習・あるいは先輩の活動等の内発的な動機

(4) その他

4 あなた自身がソーシャル・キャピタルの醸成に役立ったと思う「仕事や活動」はありましたか？その当時の経験年数と内容を教えてください。

(1) 家庭訪問

(2) 地区組織活動

(3) 健康教育

(4) 地域診断

(5) 事業企画・評価

(6) その他

- 5 あなた自身がソーシャル・キャピタルの醸成に役立ったと思う「研修や人材育成ガイドライン」はありましたか？その当時の経験年数と内容を教えてください。（統括的役割を果たす保健師の役割や上司の指導等を含む）

(1) 内容

(2) 方法

- 6 あなた自身がソーシャル・キャピタルの醸成に役立ったと思う「自己研鑽として取り組んでいたこと」はありましたか？その当時の経験年数と内容を教えてください。

(1) 研究活動

(2) 学習

(3) 情報交換・会議

(4) その他

- 7 あなた自身がソーシャル・キャピタルの醸成を図りながら悩んだ時に乗り越えられたのには、どのような要因があったからだと思いますか？

(1) 地域住民等の外的な要因

(2) 職場の活動目標・組織上の体制等の環境的な要因

(3) 自己学習・あるいは先輩の活動等の内発的な要因

(4) その他

II あなた自身の保健師としての姿勢についてお尋ねします。

- 1 あなたは保健師として地域住民と、どのような関係性を目指して活動していますか？
- 2 あなたは保健師として管轄地域全体が、どのようなことを目指して活動していますか？
- 3 あなたは地域にとって自分がどのような役割を担っていると考えていますか？
- 4 あなたは保健師としてあなたが、どのようなことを目指して活動していますか？

1

緒
言

2

目
的

3

方
法

4

結
果

5

考
察

6

提
言

7

結
語

8

引
用
文
献
参
考
文
献

9

資
料

平成 26 年度 地域保健総合推進事業
ソーシャル・キャピタルの醸成にかかる
保健師の能力形成に関する研究 報告書

【発 行 日】 平成27年3月31日

【編集・発行】 (一財)日本公衆衛生協会

分担事業者 松本珠実(大阪市保健所感染症対策課)

〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町1-2-7-1000

あべのメディックス11階

TEL. 06-6647-0951 FAX. 06-6647-1029